

豊橋市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

平成 27 年 2 月

豊 橋 市



# 目次

<b>I</b>	<b>調査の概要</b> .....	<b>1</b>
1	調査の目的 .....	1
2	調査対象 .....	1
3	調査期間 .....	1
4	調査方法 .....	1
5	回収状況 .....	1
6	調査結果の表示方法 .....	1
7	標本誤差 .....	2
<b>II</b>	<b>調査結果</b> .....	<b>4</b>
1	調査回答者の属性 .....	4
1-1	性別.....	4
1-2	年代（年齢） .....	4
1-3	職業.....	5
1-4	配偶者の有無.....	6
1-5	共働きの有無.....	6
1-6	家族構成.....	7
2	男女の平等感について .....	8
2-1	各場面および分野の男女の地位評価 .....	8
2-2	社会全体の男女の地位評価 .....	19
3	男女の意思決定について .....	22
3-1	各場面の意見の反映度 .....	22
3-2	政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由 .....	26

4	家庭・仕事・地域活動のバランスについて	28
4-1	参加している地域活動	28
4-2	平日・休日の活動時間	31
4-3	望ましい家庭生活・仕事・地域活動の関係	33
4-4	現状における家庭生活・仕事・地域活動の関係	36
5	男女の働き方について	40
5-1	性別役割分担意識	40
5-2	男性が育児や介護で休みをとることについての考え方	44
5-3	男性が育児や介護で休みをとらない理由	48
5-4	女性の就労についての考え方	52
5-5	女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由	54
6	子どもへの男女共同参画教育について	58
6-1	子育てについての考え方	58
6-2	男女平等のための学校教育のあり方	61
7	配偶者等からの暴力について	64
7-1	夫または妻や恋人から暴力を受けた経験	64
7-2	暴力行為についての相談相手	68
7-3	相談をしなかった理由	73
7-4	男女間の暴力を防止するために必要なこと	76
7-5	豊橋市DV相談窓口の認知度	79
8	豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について	80
8-1	男女共同参画センター「パルモ」の利用の有無	80
8-2	充実してほしい内容	82
8-3	参加してみたいと思う講座のテーマ	85
9	男女共同参画社会について	87
9-1	用語の周知	87
9-2	男女共同参画社会実現のために行政に望むこと	93

<b>Ⅲ</b>	<b>自由意見</b> .....	<b>97</b>
1	男女の平等感について .....	97
2	男女の意思決定について（家庭・政策・方針決定） .....	98
3	家庭・仕事・地域活動のバランスについて .....	98
4	男女の働き方について .....	98
5	子どもへの男女共同参画教育について .....	100
6	配偶者等からの暴力について .....	100
7	豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について .....	100
8	男女共同参画社会について（取組みについて） .....	100
●	調査票 .....	101



# I 調査の概要

## 1 調査の目的

社会情勢の変化に対応した効果的な施策を展開するため、市民の男女共同参画に関する意識やニーズを把握する目的で実施した。

## 2 調査対象

豊橋市内に住む 20 歳以上の男女各 1,500 人を年代別・地域別で無作為抽出

## 3 調査期間

平成 26 年 9 月 1 日から平成 26 年 9 月 30 日


## 4 調査方法

郵送による配布・回収

## 5 回収状況

配布数	回収数	回収率	有効回収数	有効回収率
3,000 通	1,139 通	38.0%	1,127 通	37.6%

## 6 調査結果の表示方法

- ・回答は各質問の回答者数（N）を基数とした百分率（%）で示してある。また、小数点以下第 2 位を四捨五入しているため、内訳の合計が 100.0%にならない場合がある。
- ・複数回答が可能な質問の場合、回答者が全体に対してどのくらいの比率であるかという見方になるため、回答比率の合計が 100.0%を超える場合がある。
- ・クロス集計の場合、無回答を排除しているため、クロス集計の有効回答数の合計と単純集計（全体）の有効回答数が合致しないことがある。なお、クロス集計とは、複数項目の組み合わせで分類した集計のことで、複数の質問項目を交差して並べ、表やグラフを作成することにより、その相互の関係を明らかにするための集計方法である。
- ・調査結果を図表にて表示しているが、グラフ以外の表は、最も高い割合のものを  で網かけをしている。（無回答を除く）
- ・他の項目と比較して、差異がみられる場合、グラフにおいては破線で示しており、表においては、下線で表示している。

## 7 標本誤差

標本誤差については、下記算出式より算出する。

$$\sigma = \kappa \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

$\sigma$  : 標本誤差  
 $N$  : 母集団  
 $n$  : 標本数  
 $p$  : 回答比率  
 $\kappa$  : 信頼率による変数

標本数は、平成26年6月1日現在の市内在住満20歳以上の男女(全体)294,717人、男性147,234人、女性147,483人で算出する。

信頼率による変数 $\kappa$ は、信頼率95%では1.96、信頼率99%では2.58と定義されており、今回の市民意識調査における信頼率を95%とすると、各回答比率別の標本誤差は以下のとおりとなる。

標本数	回答比率 (%)				
	10% or 90%	20% or 80%	30% or 70%	40% or 60%	50%
全体 1,127	±1.75%	±2.33%	±2.67%	±2.85%	±2.91%
男性 515	±2.59%	±3.45%	±3.95%	±4.22%	±4.31%
女性 603	±2.39%	±3.19%	±3.65%	±3.90%	±3.98%

これは、ある質問において「A」という回答の割合が50%であれば、20歳以上の豊橋市民に同じ質問をしても、統計学的には「A」という回答の割合は、95%の確率で±2.91%の範囲内(2.91%~-2.91%)にあることを示す。



<各比較調査の詳細>

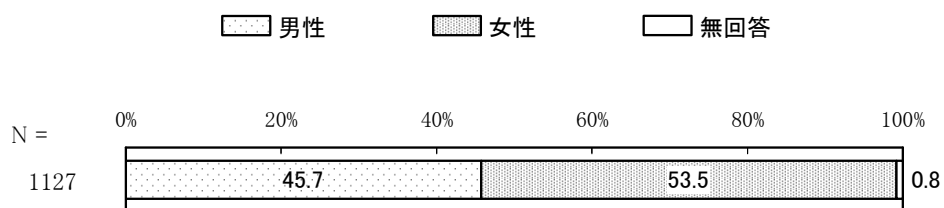
調査主体	調査名	調査時期
国（内閣府）	男女共同参画社会に関する世論調査	平成 24 年10月
愛知県	男女共同参画意識に関する調査	平成 20 年 9 月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成 23 年 6 月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成 20 年 5 月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成 17 年 5 月
豊橋市	男女共同参画に関するアンケート調査	平成 13 年 8 月

No.	調査項目	国	県	市
問 1	各場面および分野の男女の地位評価	○	○	○
問 2	社会全体の男女の地位評価	○	○	○
問 5	参加している地域活動			○
問 7	望ましい家庭生活・仕事・地域活動の関係	○	○	○
問 8	現状における家庭生活・仕事・地域活動の関係	○	○	○
問 9	性別役割分担意識	○	○	○
問 10	男性が育児や介護で休みをとることについての考え方			○
問 11	男性が育児や介護で休みをとらない理由			○
問 13	女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由			○
問 14	子育てについての考え方			○
問 15	男女平等のための学校教育のあり方			○
問 16	夫または妻や恋人から暴力を受けた経験			○
問 16-1	暴力行為についての相談相手			○
問 16-2	相談をしなかった理由			○
問 19	男女共同参画センター「パルモ」の利用の有無			○
問 19-1	充実してほしい内容			○
問 21	用語の周知			○
問 22	男女共同参画社会実現のために行政に望むこと			○

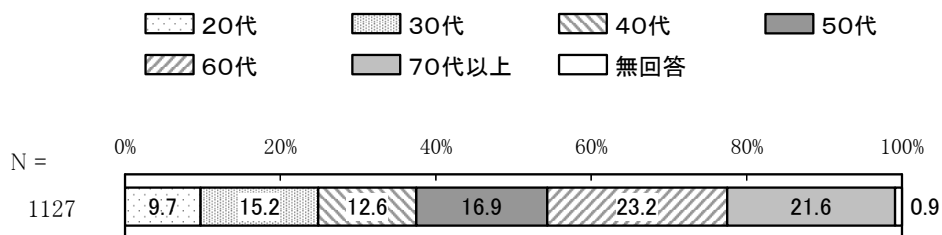
## II 調査結果

### 1 調査回答者の属性

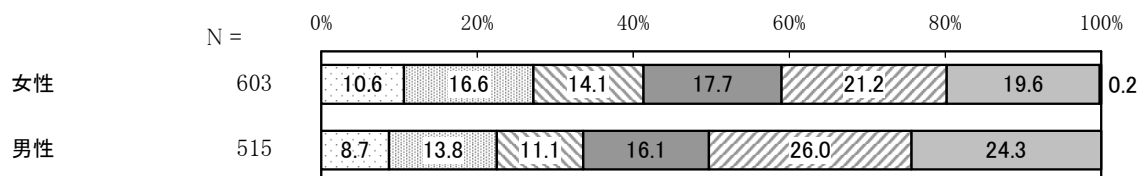
#### 1-1 性別



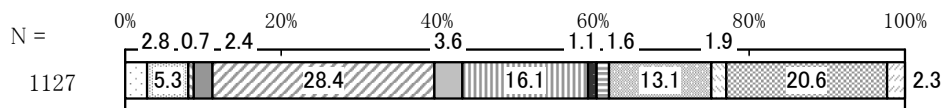
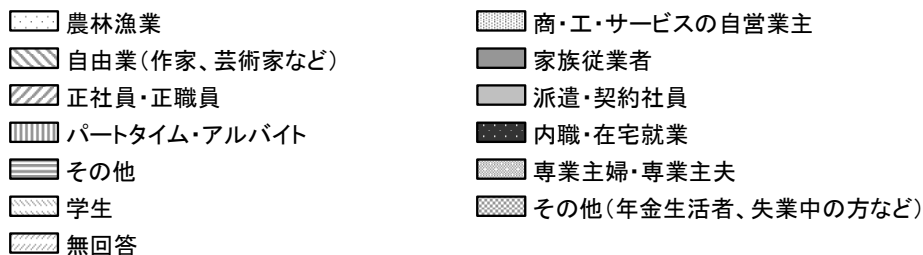
#### 1-2 年代 (年齢)



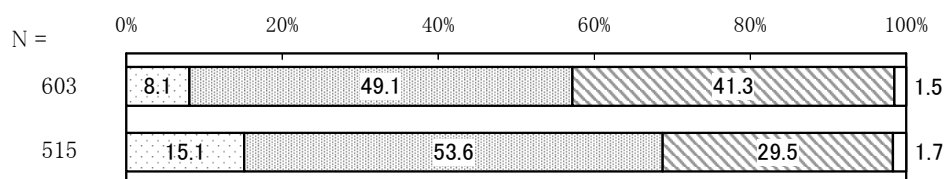
#### 【性別】



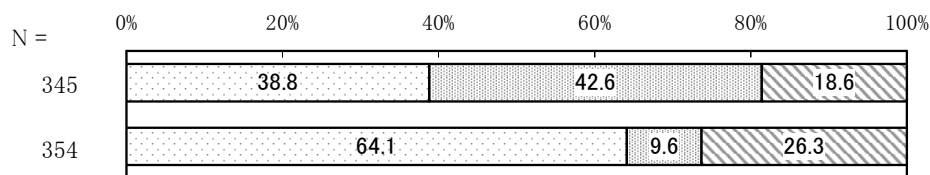
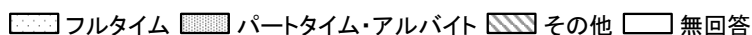
### 1-3 職業



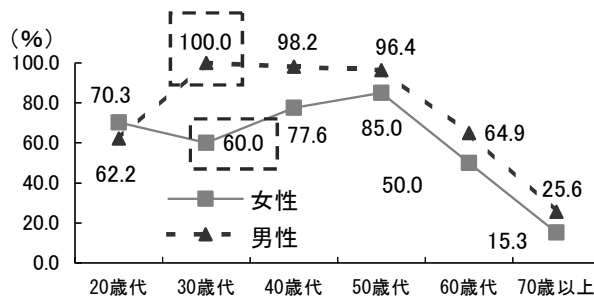
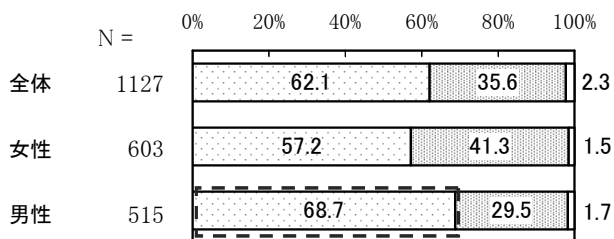
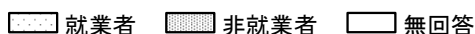
#### 【性別】



#### 【就労形態】

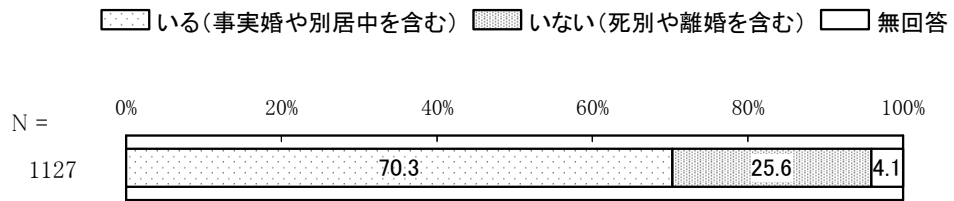


#### 【就労の有無】

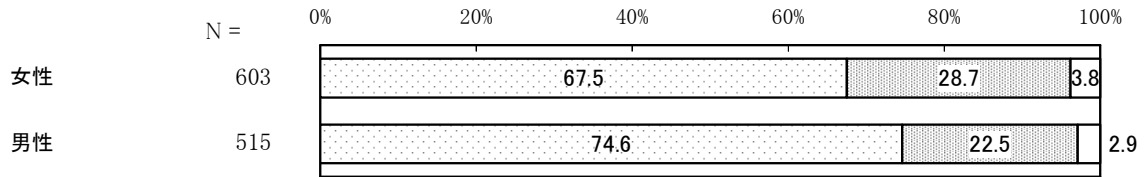


就労の有無について性別で見ると、女性に比べ、男性で「就業者」の割合が高くなっている。性別・年代別で見ると、30歳代以上では、いずれの年代でも女性に比べ、男性で「就業者」の割合が高く、特に30歳代では40ポイントの差がみられる。

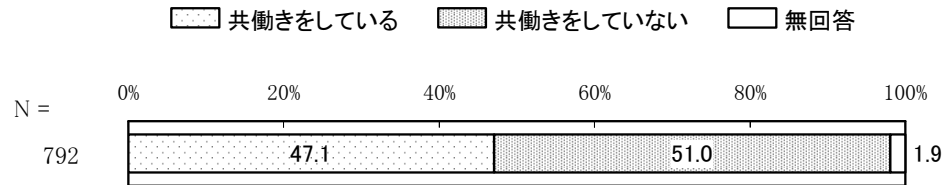
### 1-4 配偶者の有無



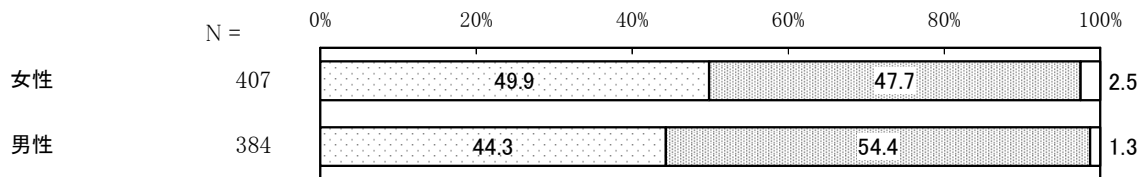
#### 【性別】



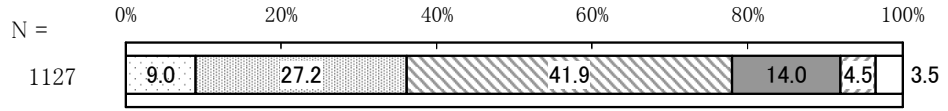
### 1-5 共働きの有無



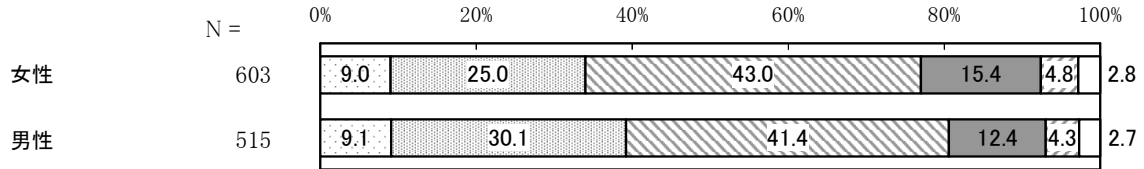
#### 【性別】



# 1-6 家族構成



## 【性別】

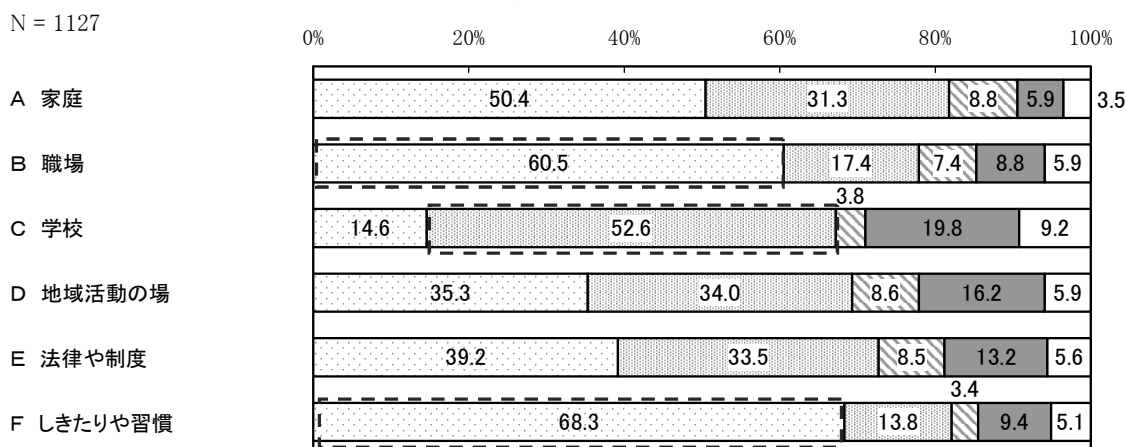
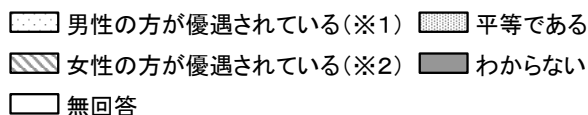
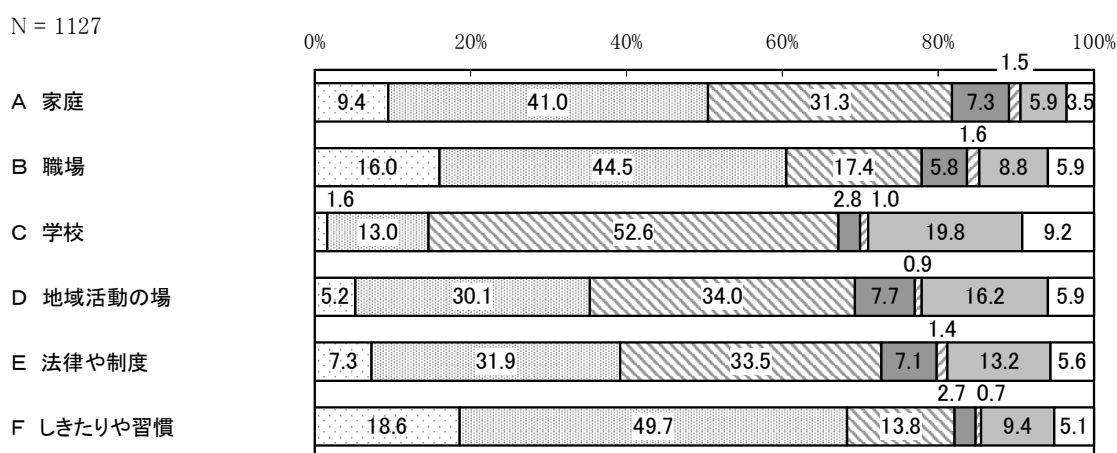
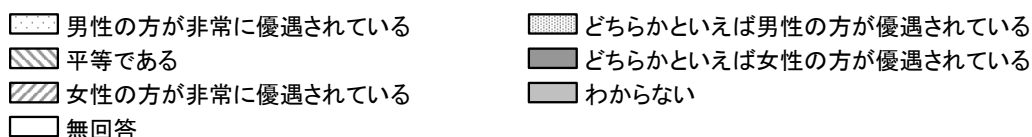


## 2 男女の平等感について

### 2-1 各場面および分野の男女の地位評価

問1. 次の各場面および分野において、男女の地位は平等になっていると思いますか。(各1つずつ)

『B 職場』、『F しきたりや習慣』において、“男性の方が優遇されている(※1)”の割合が高く、6割を超えている。また、『C 学校』において「平等である」の割合が高く、約5割となっている。

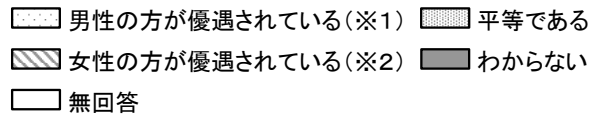


※1: 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2: 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

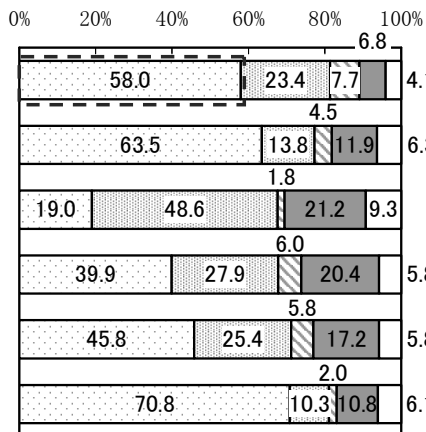
性別でみると、いずれの項目においても、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が高く、特に『A 家庭』では約17ポイント高くなっている。

【性別】



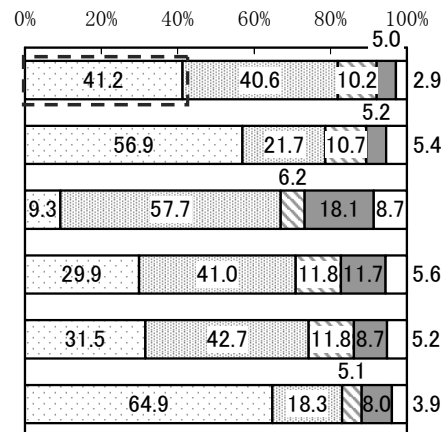
<女性>

N = 607



<男性>

N = 515



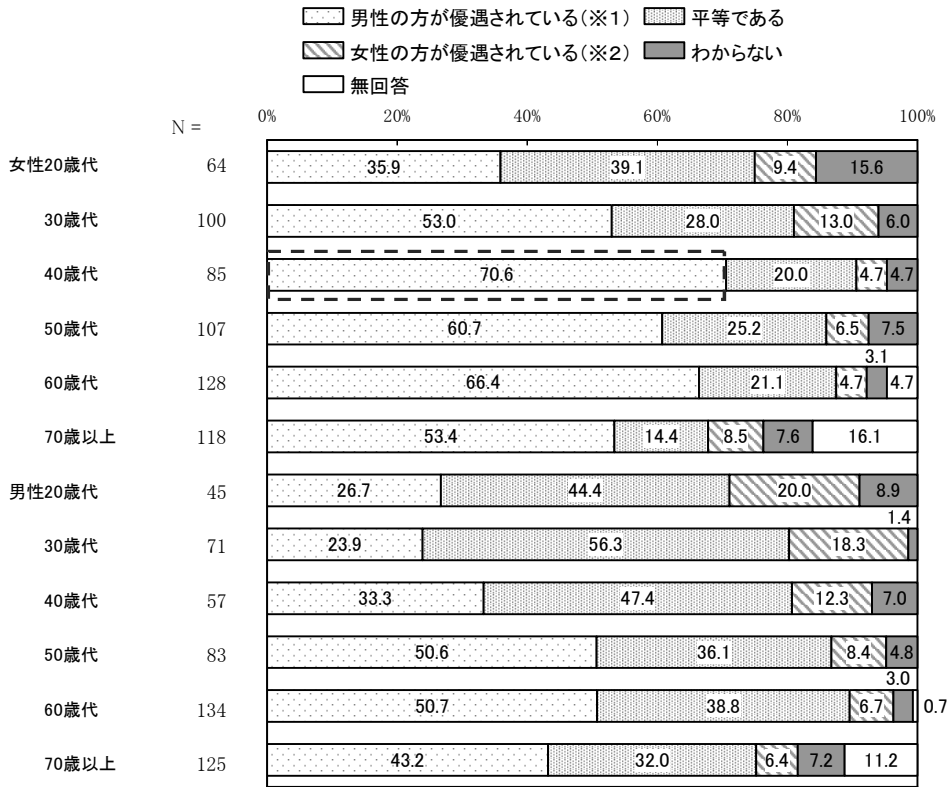
※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

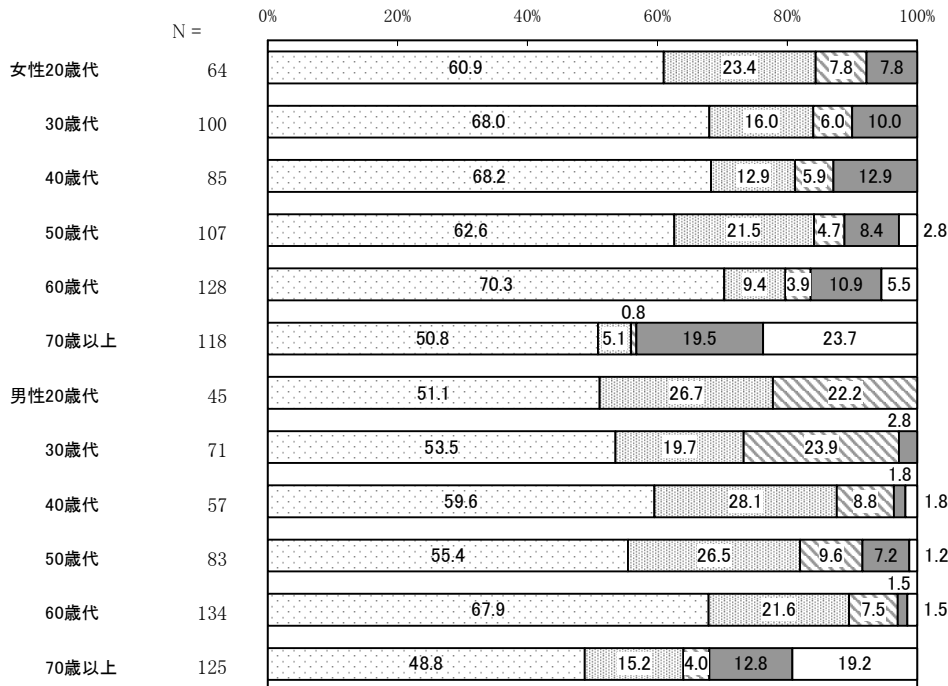
性・年代別でみると、“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が高いのは、『A 家庭』における女性40歳代、『E 法律や制度』の女性40～60歳代、『F しきたりや習慣』の女性40歳代、50歳代となっている。一方、“女性の方が優遇されている（※2）”と評価する人は、いずれの場面・分野においても男性20歳代・30歳代のどちらかが最も高くなっている。

【性・年代別】

A 家庭



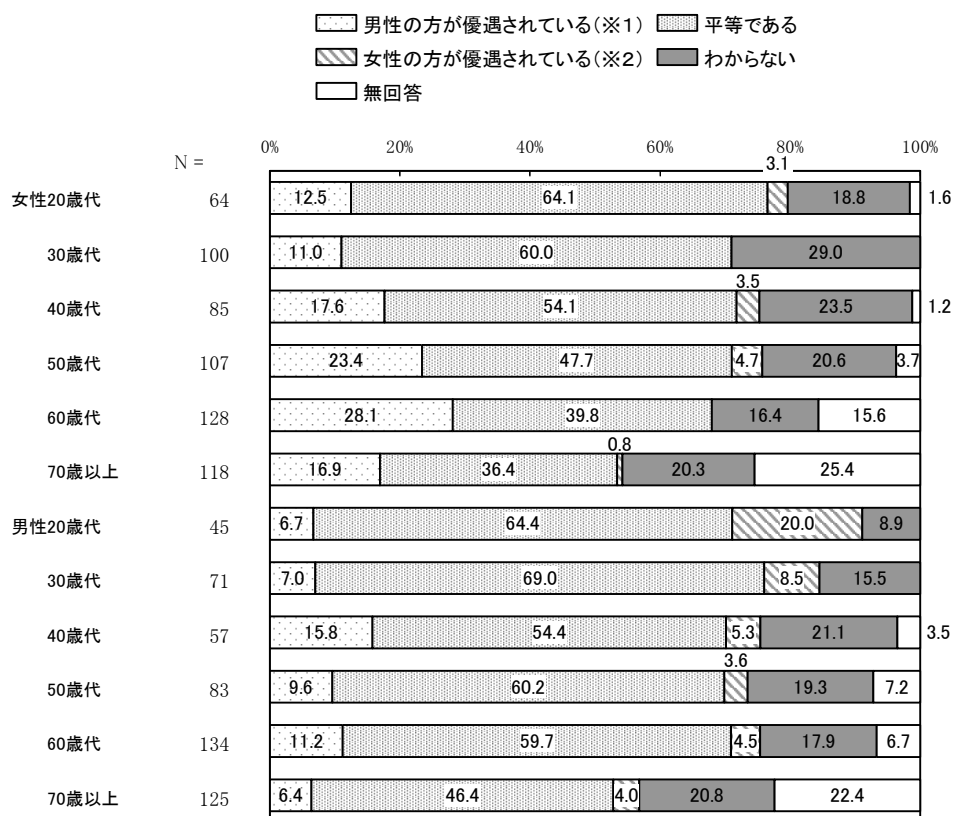
B 職場



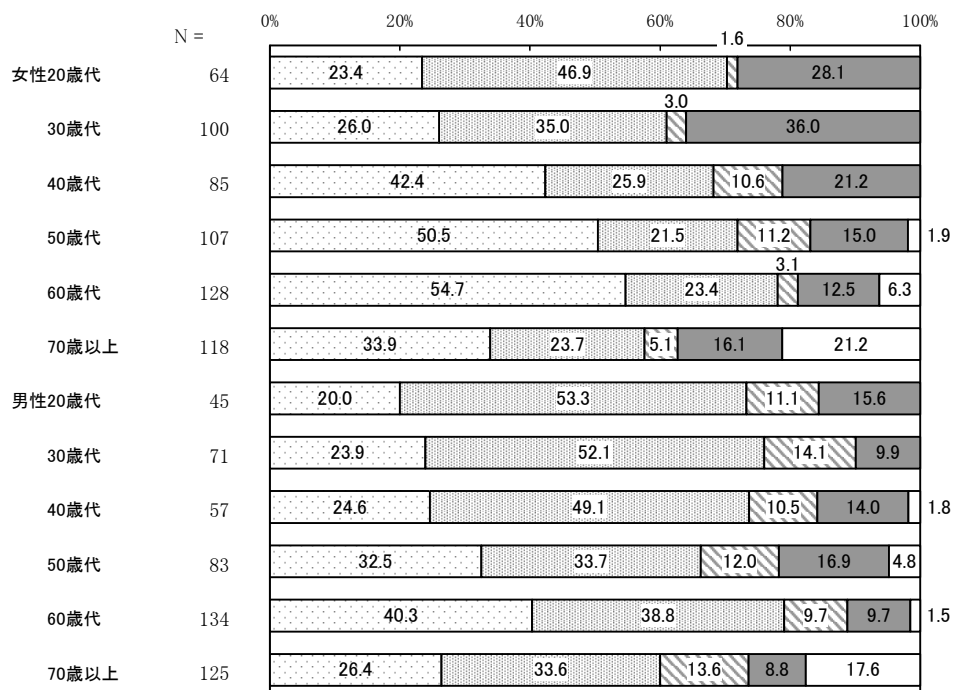
※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計  
 ※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計



### C 学校



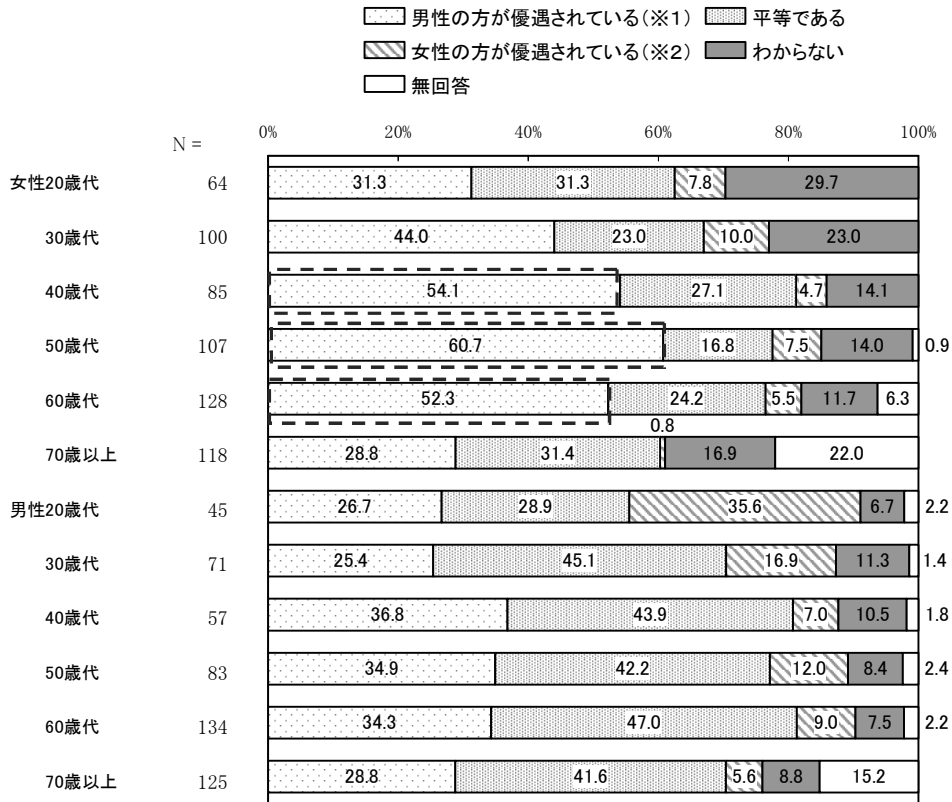
### D 地域活動の場



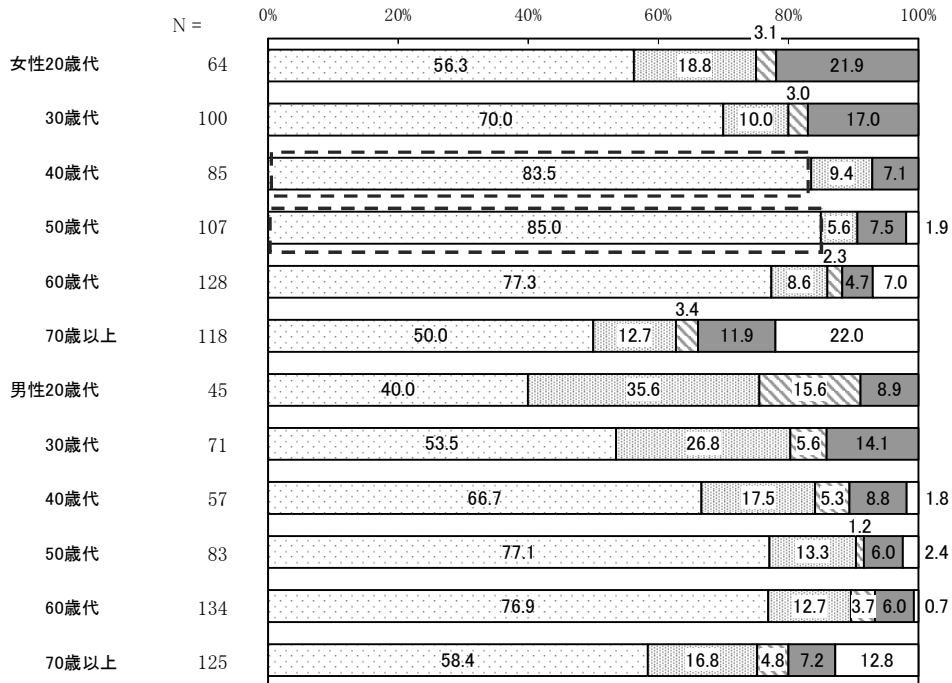
※1 : 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2 : 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

## E 法律や制度



## F しきたりや習慣



※1 : 「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2 : 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

国・愛知県との比較でみると、「平等である」の割合は、各項目で愛知県と同程度の数値となっているが、国より低い数値となっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年と比べて『A 家庭』『B 職場』『D 地域活動』で“男性の方が優遇されている”の割合が減少している。

【国・愛知県との比較・経年比較】

A 家庭

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている (A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている (B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている (C)	女性の方が非常に優遇されている (D)	わからない (H13 調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている (A+B)	女性の方が優遇されている (C+D)
国 (H24.10)	<b>8.5</b>	<b>34.7</b>	<b>47.0</b>	<b>6.1</b>	<b>1.3</b>	<b>2.3</b>	—	<b>43.3</b>	<b>7.4</b>
女性	10.6	40.0	41.0	5.3	1.2	1.9	—	50.5	6.6
男性	6.3	28.8	53.8	7.1	1.3	2.7	—	35.1	8.4
愛知県 (H20.9)	<b>16.4</b>	<b>40.4</b>	<b>26.6</b>	<b>7.0</b>	<b>2.3</b>	<b>4.1</b>	<b>3.1</b>	<b>56.8</b>	<b>9.3</b>
女性	23.1	42.9	19.8	4.9	1.7	4.5	3.0	66.0	6.6
男性	8.5	37.5	34.8	9.4	3.0	3.7	3.1	46.0	12.4
豊橋市 (H26.9)	<b>9.4</b>	<b>41.0</b>	<b>31.3</b>	<b>7.3</b>	<b>1.5</b>	<b>5.9</b>	<b>3.5</b>	<b>50.4</b>	<b>8.8</b>
女性	13.6	44.4	23.4	6.5	1.2	6.8	4.1	58.0	7.7
男性	4.5	36.7	40.6	8.3	1.9	5.0	2.9	41.2	10.2
豊橋市 (H23.6)	<b>9.7</b>	<b>41.4</b>	<b>30.4</b>	<b>9.3</b>	<b>1.5</b>	<b>5.1</b>	<b>2.5</b>	<b>51.1</b>	<b>10.8</b>
女性	13.1	47.3	23.2	8.6	1.2	4.3	2.3	60.4	9.8
男性	5.2	34.1	39.3	10.6	1.9	6.3	2.6	39.3	12.5
豊橋市 (H20.5)	<b>14.5</b>	<b>42.8</b>	<b>27.9</b>	<b>7.8</b>	<b>0.9</b>	<b>4.6</b>	<b>1.6</b>	<b>57.2</b>	<b>8.7</b>
女性	18.6	47.3	21.7	5.5	0.6	5.0	1.4	65.8	6.1
男性	9.7	36.9	36.1	10.9	1.2	4.0	1.2	46.6	12.1
豊橋市 (H17.5)	<b>14.2</b>	<b>47.0</b>	<b>23.3</b>	<b>6.2</b>	<b>0.5</b>	<b>4.4</b>	<b>4.4</b>	<b>61.2</b>	<b>6.7</b>
女性	20.0	48.4	18.1	4.9	0.5	4.2	3.9	68.4	5.4
男性	5.6	45.1	31.3	7.9	0.5	4.7	4.9	50.7	8.4
豊橋市 (H13.8)	<b>22.2</b>	<b>38.4</b>	<b>21.6</b>	<b>5.5</b>	<b>1.8</b>	<b>7.7</b>	<b>2.7</b>	<b>60.6</b>	<b>7.3</b>
女性	28.4	37.3	17.0	4.5	1.4	8.5	3.0	65.7	5.9
男性	15.2	40.6	28.2	5.7	2.3	6.2	1.8	55.8	8.0

B 職場

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)	女性の方が優遇されている(C+D)
国(H24.10)	<b>15.6</b>	<b>42.1</b>	<b>28.5</b>	<b>4.2</b>	<b>0.5</b>	<b>9.2</b>	—	<b>57.7</b>	<b>4.6</b>
女性	17.2	42.0	25.3	3.3	0.3	11.9	—	59.2	3.6
男性	13.7	42.2	32.0	5.1	0.7	6.3	—	55.9	5.8
愛知県(H20.9)	<b>23.7</b>	<b>44.5</b>	<b>14.1</b>	<b>5.8</b>	<b>1.9</b>	<b>6.5</b>	<b>3.4</b>	<b>68.2</b>	<b>7.7</b>
女性	27.8	43.7	11.4	3.9	0.8	8.8	3.7	71.5	4.7
男性	18.9	45.5	17.3	8.1	3.2	3.8	3.1	64.4	11.3
豊橋市(H26.9)	<b>16.0</b>	<b>44.5</b>	<b>17.4</b>	<b>5.8</b>	<b>1.6</b>	<b>8.8</b>	<b>5.9</b>	<b>60.5</b>	<b>7.4</b>
女性	20.2	43.3	13.8	3.8	0.7	11.9	6.3	63.5	4.5
男性	11.1	45.8	21.7	8.0	2.7	5.2	5.4	56.9	10.7
豊橋市(H23.6)	<b>14.6</b>	<b>50.1</b>	<b>17.7</b>	<b>6.5</b>	<b>0.4</b>	<b>7.2</b>	<b>3.5</b>	<b>64.7</b>	<b>6.9</b>
女性	18.7	51.6	13.8	4.5	0.0	8.1	3.3	70.3	4.5
男性	9.1	48.6	22.9	9.1	0.9	6.3	3.2	57.7	10.0
豊橋市(H20.5)	<b>16.5</b>	<b>52.7</b>	<b>14.7</b>	<b>5.3</b>	<b>0.5</b>	<b>6.9</b>	<b>3.4</b>	<b>69.2</b>	<b>5.8</b>
女性	19.5	52.0	12.0	3.4	0.5	9.4	3.3	71.5	3.9
男性	13.1	53.4	18.5	7.3	0.6	4.2	3.0	66.5	7.9
豊橋市(H17.5)	<b>15.9</b>	<b>50.3</b>	<b>13.5</b>	<b>5.1</b>	<b>0.6</b>	<b>7.0</b>	<b>7.7</b>	<b>66.2</b>	<b>5.7</b>
女性	19.4	51.6	9.8	3.3	0.0	9.0	7.0	71.0	3.3
男性	11.2	48.6	19.2	7.7	1.2	4.2	7.9	59.8	8.9
豊橋市(H13.8)	<b>26.6</b>	<b>43.3</b>	<b>12.2</b>	<b>3.5</b>	<b>1.4</b>	<b>6.2</b>	<b>6.8</b>	<b>69.9</b>	<b>4.9</b>
女性	32.3	43.0	9.1	2.2	1.4	6.3	5.7	75.3	3.6
男性	19.1	44.4	16.8	4.9	1.6	5.7	7.5	63.5	6.5

C 学校

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)	女性の方が優遇されている(C+D)
国(H24.10)	<b>2.4</b>	<b>11.0</b>	<b>67.0</b>	<b>3.0</b>	<b>0.7</b>	<b>15.8</b>	—	<b>13.5</b>	<b>3.8</b>
女性	2.6	13.0	65.7	1.9	0.6	16.1	—	15.6	2.6
男性	2.2	8.8	68.5	4.3	0.8	15.4	—	11.0	5.1
愛知県(H20.9)	<b>3.6</b>	<b>13.9</b>	<b>57.8</b>	<b>3.9</b>	<b>0.8</b>	<b>15.4</b>	<b>4.6</b>	<b>17.5</b>	<b>4.7</b>
女性	5.1	16.1	54.7	2.3	0.8	16.3	4.7	21.2	3.1
男性	1.8	11.2	61.4	5.9	0.9	14.3	4.5	13.0	6.8
豊橋市(H26.9)	<b>1.6</b>	<b>13.0</b>	<b>52.6</b>	<b>2.8</b>	<b>1.0</b>	<b>19.8</b>	<b>9.2</b>	<b>14.6</b>	<b>3.8</b>
女性	2.3	16.7	48.6	1.8		21.2	9.3	19.0	1.8
男性	0.8	8.5	57.7	4.1	2.1	18.1	8.7	9.3	6.2
豊橋市(H23.6)	<b>2.4</b>	<b>11.6</b>	<b>58.4</b>	<b>5.4</b>	<b>0.2</b>	<b>16.7</b>	<b>5.5</b>	<b>14.0</b>	<b>5.6</b>
女性	2.8	14.1	57.4	4.0	0.0	16.6	5.1	16.9	4.0
男性	1.9	7.8	59.8	7.3	0.4	17.3	5.4	9.7	7.7
豊橋市(H20.5)	<b>2.2</b>	<b>13.6</b>	<b>59.1</b>	<b>4.6</b>	<b>0.6</b>	<b>16.0</b>	<b>3.9</b>	<b>15.8</b>	<b>5.2</b>
女性	3.1	17.2	55.5	3.4	0.3	16.8	3.6	20.3	3.7
男性	1.2	9.3	64.3	6.0	1.0	14.7	3.6	10.5	6.9
豊橋市(H17.5)	<b>2.1</b>	<b>12.2</b>	<b>56.0</b>	<b>3.2</b>	<b>0.7</b>	<b>17.7</b>	<b>8.1</b>	<b>14.3</b>	<b>3.9</b>
女性	2.4	14.8	52.9	2.1	0.3	20.2	7.2	17.3	2.4
男性	1.4	8.4	61.9	4.4	1.2	13.8	8.9	9.8	5.6
豊橋市(H13.8)	<b>3.7</b>	<b>15.9</b>	<b>54.8</b>	<b>3.2</b>	<b>1.5</b>	<b>13.2</b>	<b>7.7</b>	<b>19.6</b>	<b>4.7</b>
女性	5.7	19.9	49.1	2.4	0.8	15.8	6.3	25.6	3.2
男性	1.3	10.9	62.3	4.7	1.8	10.6	8.5	12.2	6.5

D 地域活動の場

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)	女性の方が優遇されている(C+D)
国(H24.10)	<b>6.9</b>	<b>26.5</b>	<b>52.1</b>	<b>6.1</b>	<b>0.9</b>	<b>7.6</b>	—	<b>33.4</b>	<b>7.0</b>
女性	7.7	30.6	47.7	5.2	0.6	8.2	—	38.3	5.8
男性	6.0	21.9	57.0	7.1	1.2	6.8	—	27.9	8.2
愛知県(H20.9)	<b>7.2</b>	<b>29.5</b>	<b>37.8</b>	<b>8.5</b>	<b>1.4</b>	<b>11.7</b>	<b>3.9</b>	<b>36.7</b>	<b>9.9</b>
女性	10.2	34.1	31.7	6.3	0.7	12.7	4.2	44.3	7.0
男性	3.5	24.1	45.0	11.0	2.3	10.5	3.6	27.6	13.3
豊橋市(H26.9)	<b>5.2</b>	<b>30.1</b>	<b>34.0</b>	<b>7.7</b>	<b>0.9</b>	<b>16.2</b>	<b>5.9</b>	<b>35.3</b>	<b>8.6</b>
女性	6.6	33.3	27.9	5.8	0.2	20.4	5.8	39.9	6.0
男性	3.5	26.4	41.0	10.1	1.7	11.7	5.6	29.9	11.8
豊橋市(H23.6)	<b>7.0</b>	<b>35.1</b>	<b>33.4</b>	<b>5.9</b>	<b>0.1</b>	<b>14.5</b>	<b>4.0</b>	<b>42.1</b>	<b>6.0</b>
女性	8.5	39.5	25.9	5.0	0.2	17.1	4.0	48.0	5.2
男性	5.2	28.5	44.1	7.1	0.0	11.7	3.5	33.7	7.1
豊橋市(H20.5)	<b>5.5</b>	<b>28.2</b>	<b>39.3</b>	<b>9.0</b>	<b>0.9</b>	<b>13.1</b>	<b>3.9</b>	<b>33.8</b>	<b>9.9</b>
女性	7.2	34.9	33.7	5.9	0.6	14.4	3.3	42.1	6.6
男性	3.6	20.6	46.2	12.7	1.0	11.9	4.0	24.2	13.7
豊橋市(H17.5)	<b>5.4</b>	<b>30.3</b>	<b>37.3</b>	<b>7.3</b>	<b>0.2</b>	<b>12.3</b>	<b>7.2</b>	<b>35.7</b>	<b>7.5</b>
女性	6.4	33.9	32.6	6.4	0.0	14.0	6.8	40.2	6.4
男性	4.0	24.8	45.3	8.9	0.5	9.6	7.0	28.7	9.3
豊橋市(H13.8)	<b>10.5</b>	<b>33.9</b>	<b>30.1</b>	<b>7.3</b>	<b>1.2</b>	<b>12.1</b>	<b>5.0</b>	<b>44.4</b>	<b>8.5</b>
女性	13.2	36.9	24.3	4.3	1.0	15.2	5.1	50.1	5.3
男性	7.5	30.5	37.2	10.9	1.3	8.5	4.1	38.0	12.2

E 法律や制度

単位：%

	男性の方が非常に優遇されている (A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている (B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている (C)	女性の方が非常に優遇されている (D)	わからない (H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている (A+B)	女性の方が優遇されている (C+D)
国 (H24.10)	<b>8.7</b>	<b>29.5</b>	<b>45.4</b>	<b>6.2</b>	<b>1.1</b>	<b>9.0</b>	—	<b>38.2</b>	<b>7.4</b>
女性	10.9	34.0	37.5	4.8	0.7	12.1	—	44.9	5.5
男性	6.3	24.5	54.2	7.8	1.6	5.6	—	30.8	9.4
愛知県 (H20.9)	<b>13.0</b>	<b>29.2</b>	<b>35.5</b>	<b>5.7</b>	<b>1.2</b>	—	<b>15.4</b>	<b>42.2</b>	<b>6.9</b>
女性	18.3	33.4	26.6	2.1	0.3	—	19.3	51.7	2.4
男性	6.7	24.2	45.9	10.1	2.2	—	10.9	30.9	12.3
豊橋市 (H26.9)	<b>7.3</b>	<b>31.9</b>	<b>33.5</b>	<b>7.1</b>	<b>1.4</b>	<b>13.2</b>	<b>5.6</b>	<b>39.2</b>	<b>8.5</b>
女性	10.0	35.8	25.4	5.6	0.2	17.2	5.8	45.8	5.8
男性	4.1	27.4	42.7	8.9	2.9	8.7	5.2	31.5	11.8
豊橋市 (H23.6)	<b>7.3</b>	<b>31.5</b>	<b>32.7</b>	<b>8.8</b>	<b>0.9</b>	<b>14.7</b>	<b>4.1</b>	<b>38.8</b>	<b>9.7</b>
女性	10.3	36.0	24.7	6.3	0.3	18.4	4.0	46.3	6.6
男性	3.0	25.7	43.2	12.3	1.7	10.4	3.7	28.7	14.0
豊橋市 (H20.5)	<b>6.7</b>	<b>32.5</b>	<b>34.5</b>	<b>7.9</b>	<b>0.9</b>	<b>13.9</b>	<b>3.6</b>	<b>39.2</b>	<b>8.8</b>
女性	9.5	40.6	25.4	3.9	0.3	17.0	3.3	50.1	4.2
男性	3.4	23.4	45.4	12.9	1.4	10.1	3.4	26.8	14.3
豊橋市 (H17.5)	<b>6.5</b>	<b>35.8</b>	<b>30.2</b>	<b>7.7</b>	<b>0.8</b>	<b>12.4</b>	<b>6.6</b>	<b>42.3</b>	<b>8.4</b>
女性	9.4	42.3	21.8	5.7	0.3	14.5	5.9	51.8	6.0
男性	2.6	26.4	42.5	10.7	1.4	9.3	7.0	29.0	12.1
豊橋市 (H13.8)	<b>13.1</b>	<b>34.6</b>	<b>29.8</b>	<b>5.0</b>	<b>1.4</b>	<b>11.4</b>	<b>4.8</b>	<b>47.7</b>	<b>6.4</b>
女性	18.7	39.6	18.3	3.6	0.6	14.4	4.7	58.3	4.2
男性	6.2	29.2	44.4	7.0	2.3	7.0	3.9	35.4	9.3

F しきたりや習慣

単位：%

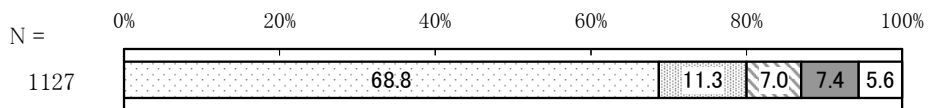
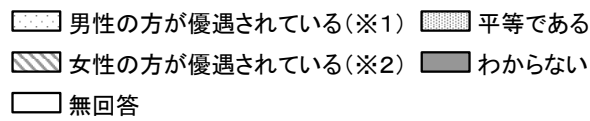
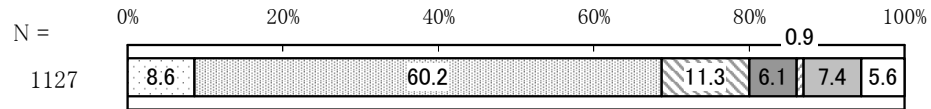
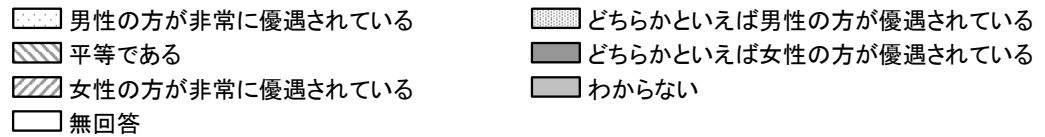
	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)	女性の方が優遇されている(C+D)
国(H24.10)	<b>18.6</b>	<b>51.7</b>	<b>21.4</b>	<b>2.9</b>	<b>0.6</b>	<b>4.7</b>	—	<b>70.4</b>	<b>3.5</b>
女性	20.5	54.0	17.1	2.6	0.4	5.4	—	74.5	3.0
男性	16.5	49.2	26.3	3.2	0.8	4.0	—	65.7	4.1
愛知県(H20.9)	<b>30.0</b>	<b>46.6</b>	<b>10.9</b>	<b>2.4</b>	<b>1.1</b>	—	<b>9.0</b>	<b>76.6</b>	<b>3.5</b>
女性	37.1	43.3	7.5	1.6	0.6	—	9.9	80.4	2.2
男性	21.5	50.6	14.9	3.4	1.6	—	7.9	72.1	5.0
豊橋市(H26.9)	<b>18.6</b>	<b>49.7</b>	<b>13.8</b>	<b>2.7</b>	<b>0.7</b>	<b>9.4</b>	<b>5.1</b>	<b>68.3</b>	<b>3.4</b>
女性	23.2	47.6	10.3	1.8	0.2	10.8	6.1	70.8	2.0
男性	13.4	51.5	18.3	3.7	1.4	8.0	3.9	64.9	5.1
豊橋市(H23.6)	<b>18.8</b>	<b>50.0</b>	<b>14.4</b>	<b>2.3</b>	<b>0.4</b>	<b>10.7</b>	<b>3.4</b>	<b>68.8</b>	<b>2.7</b>
女性	24.4	49.6	10.3	1.3	0.0	11.1	3.3	74.0	1.3
男性	11.0	51.0	20.1	3.7	0.9	10.4	3.0	62.0	4.6
豊橋市(H20.5)	<b>21.0</b>	<b>49.9</b>	<b>14.5</b>	<b>2.7</b>	<b>0.7</b>	<b>8.3</b>	<b>2.8</b>	<b>70.9</b>	<b>3.4</b>
女性	26.2	50.2	9.7	1.6	0.5	9.5	2.3	76.4	2.0
男性	14.9	50.2	20.4	4.2	0.8	6.7	2.8	65.1	5.0
豊橋市(H17.5)	<b>22.6</b>	<b>49.2</b>	<b>12.0</b>	<b>2.6</b>	<b>0.0</b>	<b>7.8</b>	<b>5.9</b>	<b>71.8</b>	<b>2.6</b>
女性	28.8	47.1	9.4	1.5	0.0	8.0	5.2	75.9	1.5
男性	13.6	53.3	15.9	4.0	0.0	7.2	6.1	66.8	4.0
豊橋市(H13.8)	<b>39.0</b>	<b>41.2</b>	<b>7.7</b>	<b>1.6</b>	<b>0.6</b>	<b>6.7</b>	<b>3.1</b>	<b>80.2</b>	<b>2.2</b>
女性	46.7	35.5	5.3	1.2	0.2	8.3	2.8	82.2	1.4
男性	28.9	49.6	10.6	2.1	1.0	4.4	3.4	78.5	3.1



## 2-2 社会全体の男女の地位評価

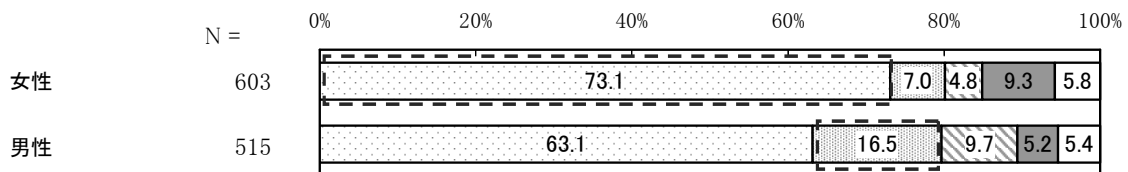
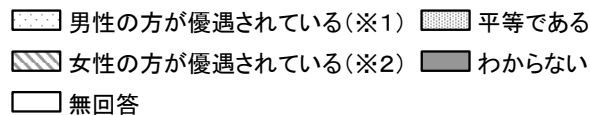
### 問2. 社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いますか（1つだけ）

“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が68.8%、“女性の方が優遇されている（※2）”の割合が7.0%、「平等である」の割合が11.3%となっている。



### 【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が高く、女性に比べ、男性で「平等である」の割合が高くなっている。



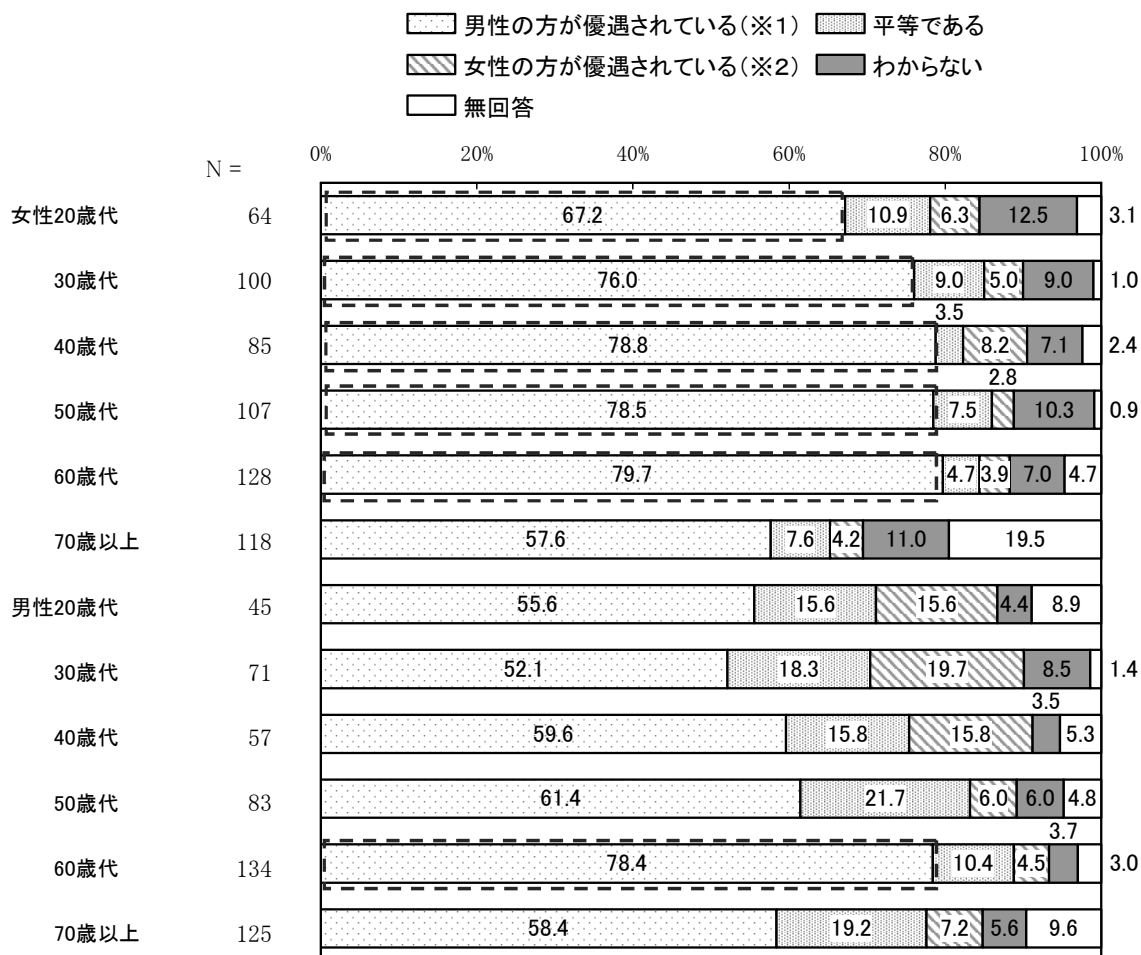
※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

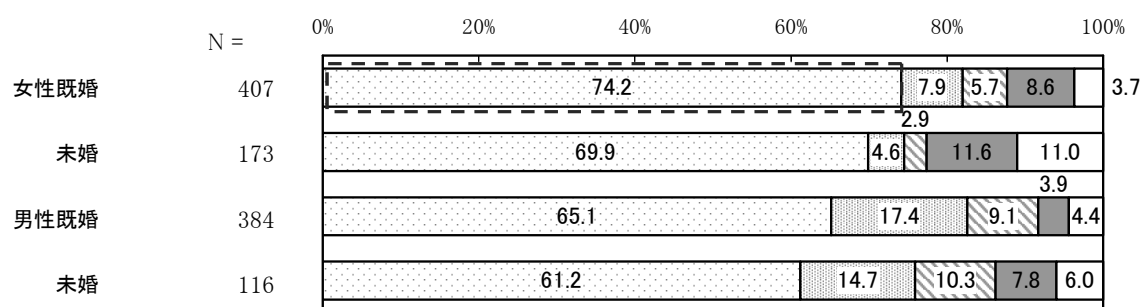
性・年代別で見ると、他に比べ、女性 60 歳代以下、男性 60 歳代で“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が高くなっている。

性・婚姻別で見ると、他に比べ、女性既婚で“男性の方が優遇されている（※1）”の割合が高くなっている。

【性・年代別】



【性・婚姻別】



※1：「男性の方が非常に優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の計

※2：「どちらかといえば女性の方が優遇されている」と「女性の方が非常に優遇されている」の計

国・愛知県との比較でみると、「平等である」の割合は、愛知県と同程度の数値となっているが、国より低い数値となっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年と比べて「平等である」の割合が減少している。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：％

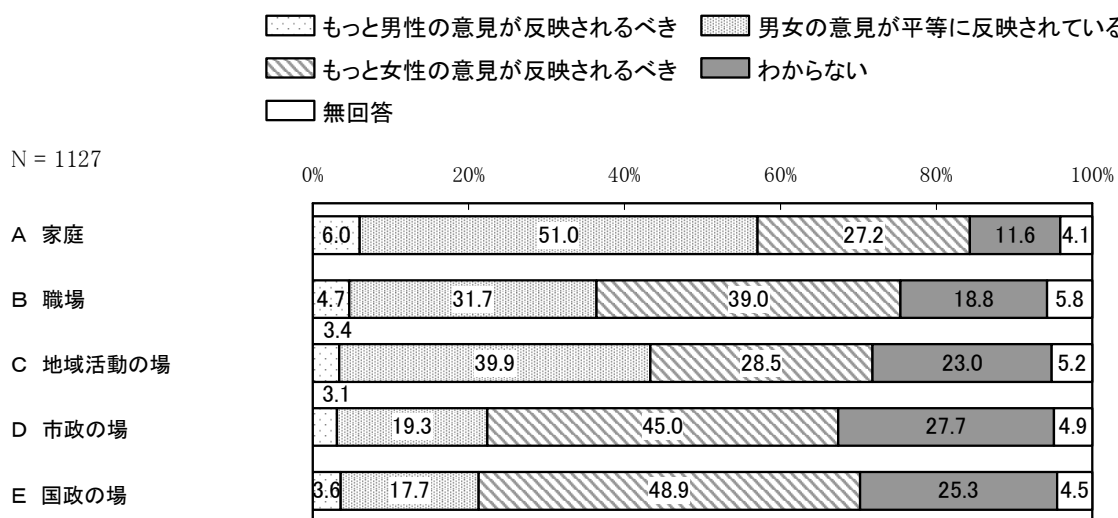
	男性の方が非常に優遇されている(A)	どちらかといえば男性の方が優遇されている(B)	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている(C)	女性の方が非常に優遇されている(D)	わからない(H13調査はどちらともいえない)	無回答	男性の方が優遇されている(A+B)	女性の方が優遇されている(C+D)
国(H24.10)	<b>10.8</b>	<b>59.1</b>	<b>24.6</b>	<b>3.4</b>	<b>0.4</b>	<b>1.8</b>	—	<b>69.8</b>	<b>3.8</b>
女性	12.7	62.1	19.8	2.5	0.2	2.6	—	74.8	2.7
男性	8.7	55.6	30.0	4.4	0.6	0.8	—	64.2	5.0
愛知県(H20.9)	<b>14.3</b>	<b>58.4</b>	<b>14.4</b>	<b>3.2</b>	<b>0.9</b>	—	<b>8.9</b>	<b>72.7</b>	<b>4.1</b>
女性	20.0	59.4	9.2	2.0	0.3	—	9.0	79.4	2.3
男性	7.5	57.2	20.6	4.5	1.5	—	8.7	64.7	6.0
豊橋市(H26.9)	<b>8.6</b>	<b>60.2</b>	<b>11.3</b>	<b>6.1</b>	<b>0.9</b>	<b>7.4</b>	<b>5.6</b>	<b>68.8</b>	<b>7.0</b>
女性	11.3	61.9	7.0	4.5	0.3	9.3	5.8	73.2	4.8
男性	5.0	58.1	16.5	8.2	1.6	5.2	5.4	63.1	9.8
豊橋市(H23.6)	<b>8.1</b>	<b>59.3</b>	<b>15.0</b>	<b>6.8</b>	<b>0.5</b>	<b>9.0</b>	<b>1.3</b>	<b>67.4</b>	<b>7.3</b>
女性	10.9	63.3	9.6	4.3	0.3	10.1	1.3	74.2	4.6
男性	4.1	54.2	22.0	10.4	0.6	7.6	1.1	58.3	11.0
豊橋市(H20.5)	<b>10.5</b>	<b>62.3</b>	<b>12.1</b>	<b>5.4</b>	<b>0.7</b>	<b>7.1</b>	<b>2.0</b>	<b>72.8</b>	<b>6.0</b>
女性	11.4	66.0	8.3	3.7	0.5	8.7	1.4	77.4	4.2
男性	9.5	57.9	17.3	7.3	1.0	5.6	1.4	67.5	8.3
豊橋市(H17.5)	<b>10.6</b>	<b>60.6</b>	<b>11.1</b>	<b>7.1</b>	<b>0.6</b>	<b>8.8</b>	<b>1.3</b>	<b>71.2</b>	<b>7.7</b>
女性	13.5	64.5	6.2	3.6	0.2	10.6	1.5	78.0	3.7
男性	6.8	54.9	18.0	11.9	1.2	6.3	0.9	61.7	13.1
豊橋市(H13.8)	<b>19.8</b>	<b>55.4</b>	<b>7.7</b>	<b>4.3</b>	<b>0.4</b>	<b>10.9</b>	<b>1.4</b>	<b>75.2</b>	<b>4.7</b>
女性	25.6	55.4	3.9	4.1	0.0	9.7	1.2	81.0	4.1
男性	12.4	56.1	12.7	4.4	1.0	12.1	1.3	68.5	5.4

### 3 男女の意思決定について

#### 3-1 各場面の意見の反映度

問3. 次の各場面における男女の意見の反映のされ方について、どのように思いますか。  
(各1つずつ)

『A 家庭』で「男女の意見が平等に反映されている」の割合が高く、約5割となっている。一方、『D 市政の場』、『E 国政の場』で「もっと女性の意見が反映されるべき」の割合が高く、4割を超えている。

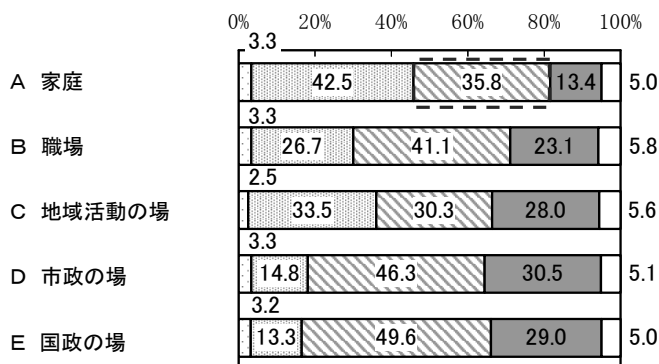


#### 【性別】

性別でみると、すべての項目で、女性に比べ男性で「男女の意見が平等に反映されている」の割合が高く、女性で「もっと女性の意見が反映されるべき」の割合が高くなっている。特に、『A 家庭』で男女の差が大きくなっている。

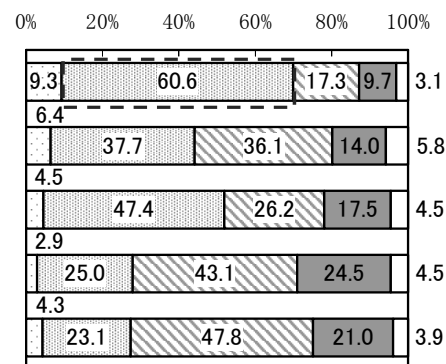
#### <女性>

N = 603



#### <男性>

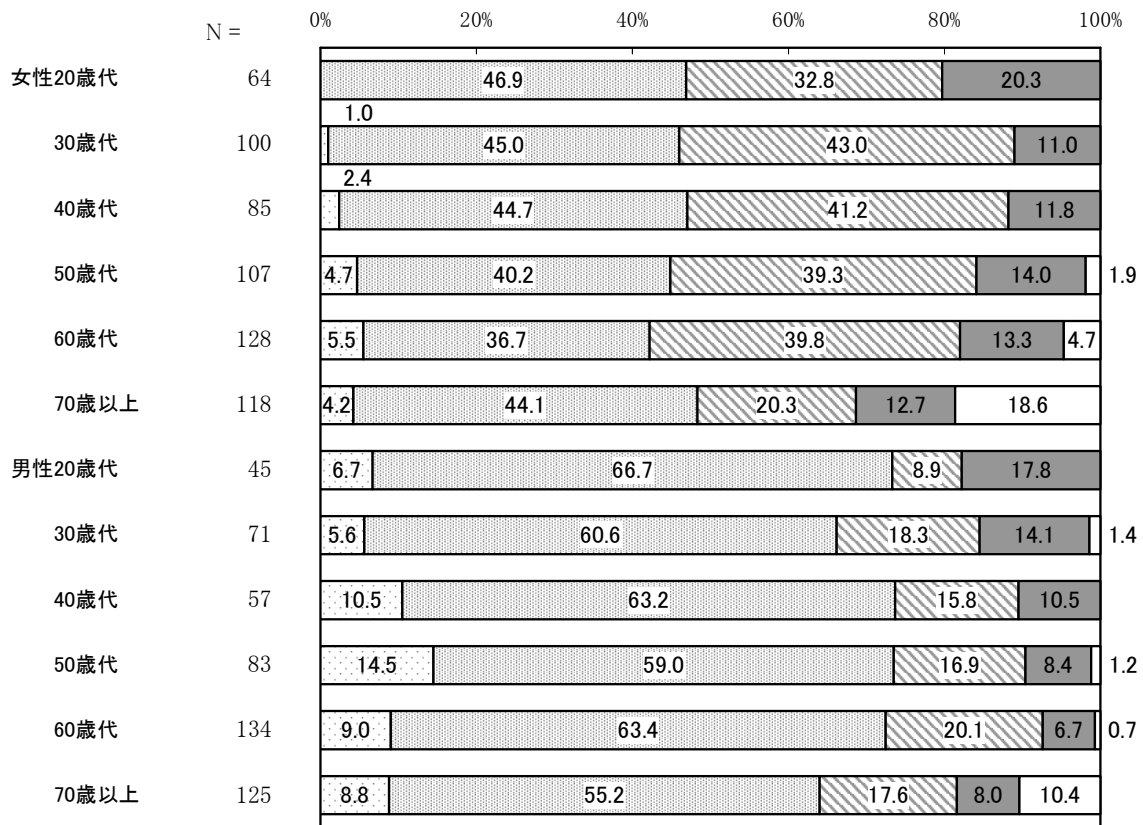
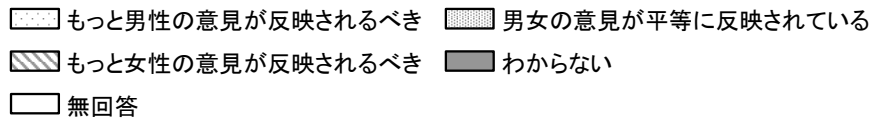
N = 515



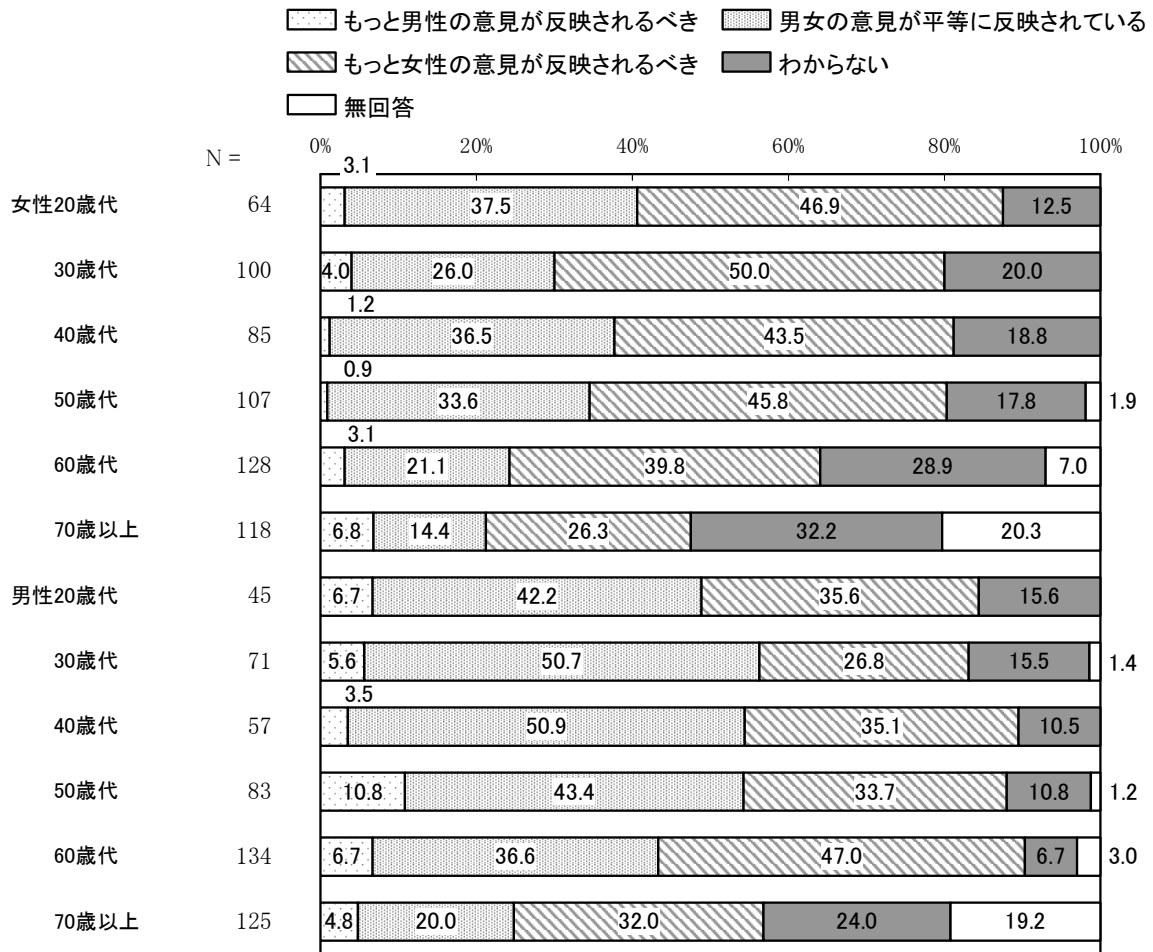
性・年代別で見ると、『D 市政の場』『E 国政の場』において、女性40歳代で「もっと女性の意見が反映されるべき」の割合が高くなっている。

【性・年代別】

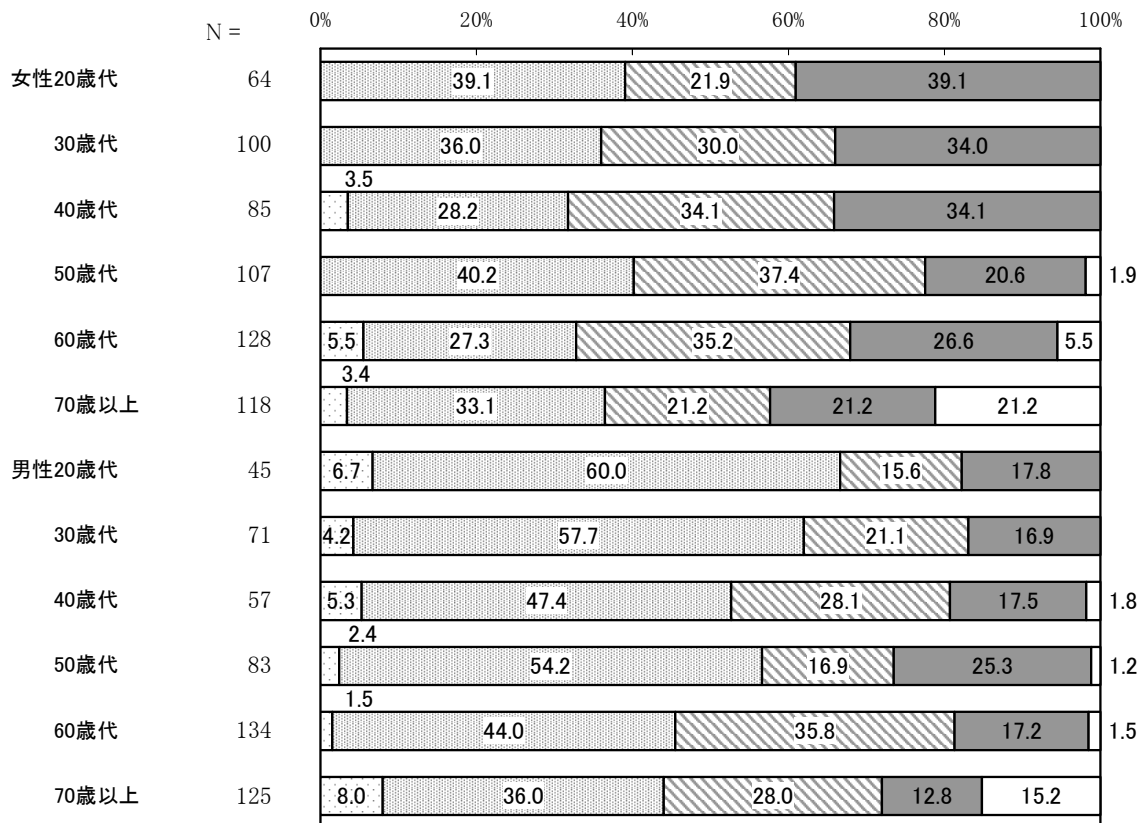
A 家庭



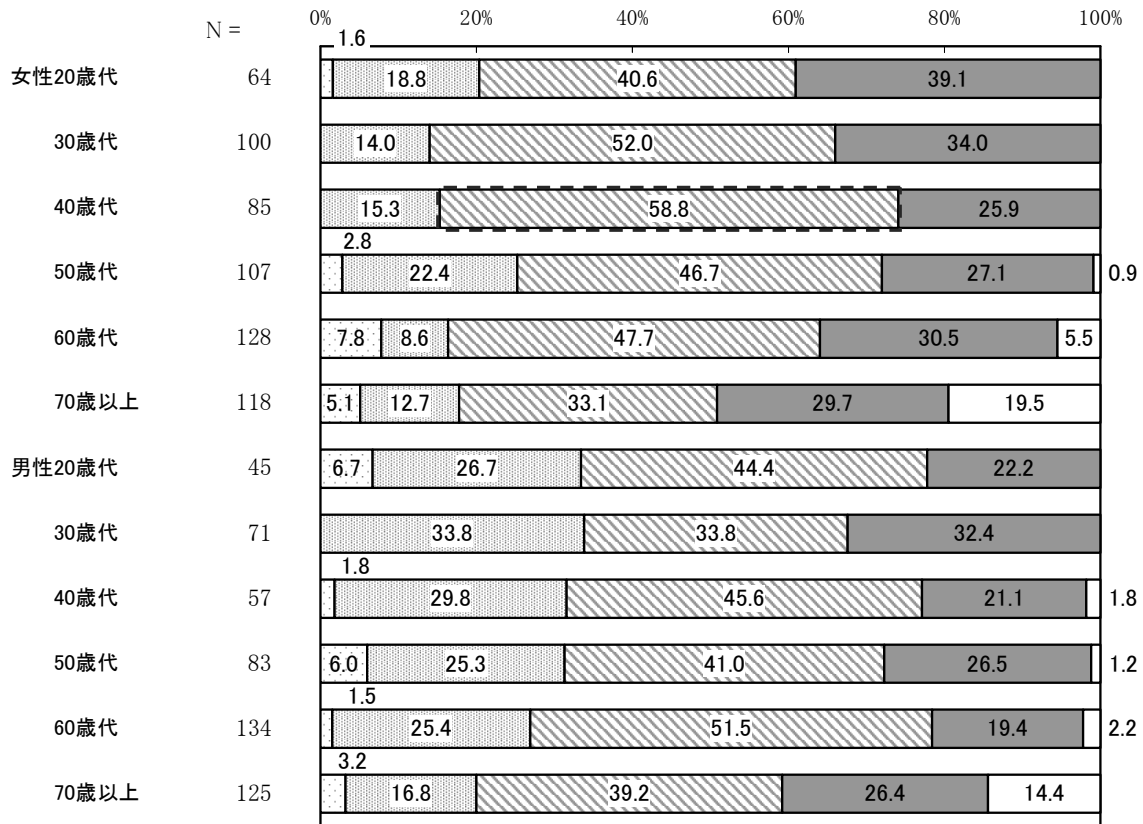
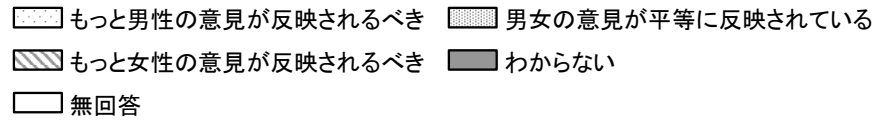
## B 職場



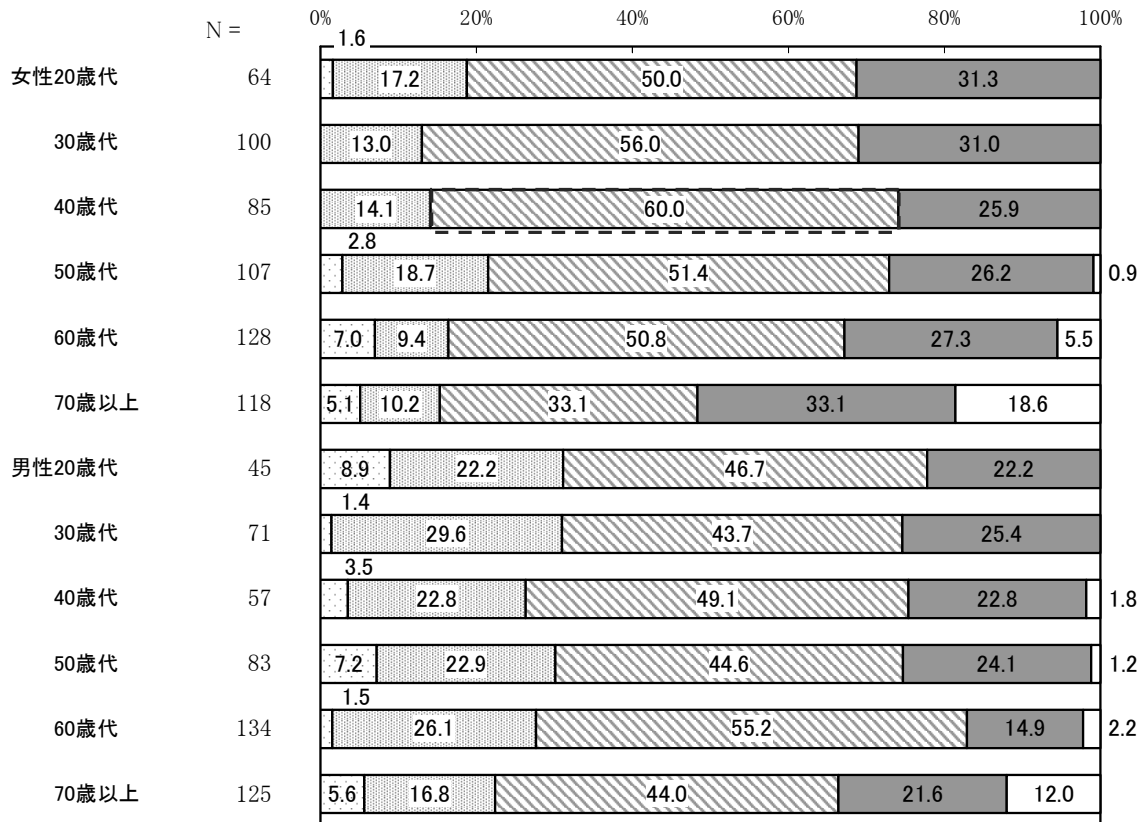
## C 地域活動の場



## D 市政の場



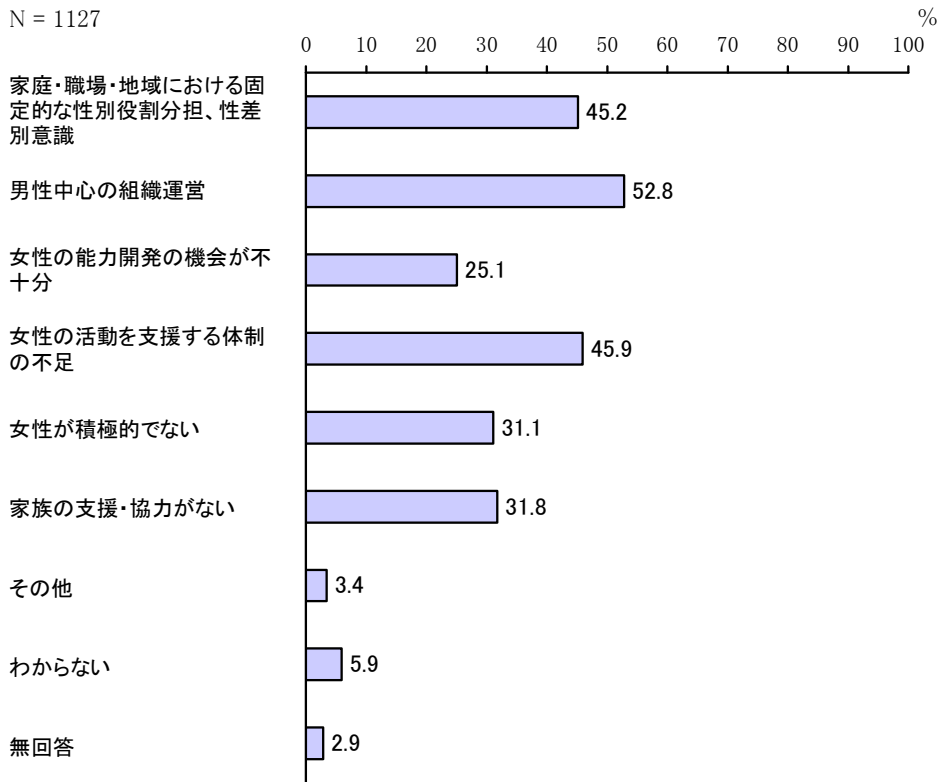
## E 国政の場



### 3-2 政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由

問4. 豊橋市で、現在、政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い理由は何だと思いますか。(いくつでも)

「男性中心の組織運営」の割合が52.8%と最も高く、次いで「女性の活動を支援する体制の不足」の割合が45.9%、「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」の割合が45.2%となっている。



#### 【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識」「家族の支援・協力がいない」の割合が高くなっている。

単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭・職場・地域における固定的な性別役割分担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会が不十分	女性の活動を支援する体制の不足	女性が積極的でない	家族の支援・協力がいない	その他	わからない	無回答
女性	603	48.3	51.1	26.2	45.3	32.3	36.5	2.7	5.6	4.0
男性	515	41.6	54.6	23.9	47.0	28.9	26.2	4.1	6.2	1.7



【性・年代別】

性・年代別で見ると、他に比べ、女性の30歳代、50歳代、男性の60歳代で「男性中心の組織運営」の割合が高く、6割を超えている。また、女性の30歳代、40歳代で「家族の支援・協力が無い」の割合が高くなっている。

単位：％

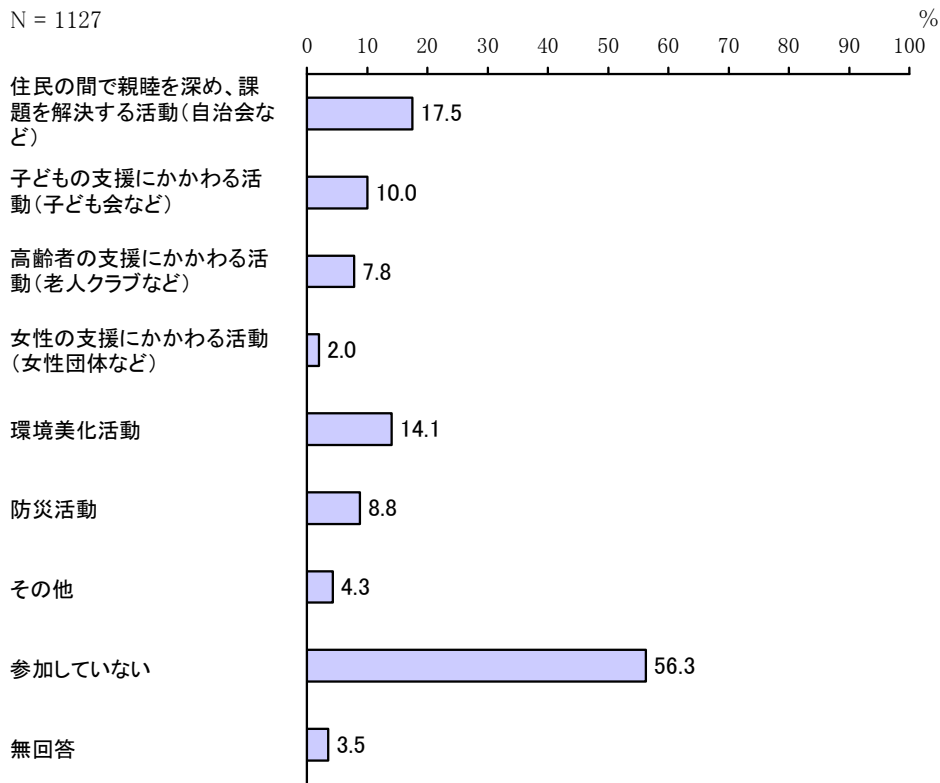
区分	有効回答数 (件)	家庭・職場・地域における 固定的な性別役割分 担、性差別意識	男性中心の組織運営	女性の能力開発の機会 が不十分	女性の活動を支援する 体制の不足	女性が積極的でない	家族の支援・協力が無い	その他	わからない	無回答
女性 20歳代	64	46.9	51.6	21.9	53.1	18.8	31.3	—	9.4	—
30歳代	100	51.0	62.0	24.0	59.0	36.0	45.0	4.0	2.0	—
40歳代	85	52.9	54.1	21.2	51.8	36.5	48.2	2.4	3.5	1.2
50歳代	107	55.1	65.4	29.9	48.6	37.4	38.3	0.9	4.7	0.9
60歳代	128	49.2	40.6	28.9	40.6	33.6	37.5	4.7	3.9	3.9
70歳以上	118	36.4	37.3	28.0	26.3	28.0	21.2	2.5	11.0	14.4
男性 20歳代	45	26.7	48.9	26.7	55.6	42.2	37.8	2.2	4.4	2.2
30歳代	71	50.7	49.3	16.9	43.7	18.3	25.4	5.6	5.6	1.4
40歳代	57	42.1	56.1	17.5	42.1	31.6	21.1	7.0	7.0	—
50歳代	83	33.7	54.2	21.7	44.6	27.7	27.7	2.4	4.8	1.2
60歳代	134	46.3	64.9	28.4	50.7	29.9	28.4	2.2	5.2	—
70歳以上	125	41.6	48.0	26.4	45.6	28.8	21.6	5.6	8.8	4.8

## 4 家庭・仕事・地域活動のバランスについて

### 4-1 参加している地域活動

問5. 現在、地域のどのような活動に参加していますか。(いくつでも)

「参加していない」の割合が56.3%と最も高く、次いで「住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動(自治会など)」の割合が17.5%、「環境美化活動」の割合が14.1%となっている。



性別でみると、女性に比べ、男性で「住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動（自治会など）」「環境美化活動」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、他に比べ、女性30歳代、40歳代、男性40歳代で「子どもの支援にかかわる活動（子ども会など）」の割合が高くなっている。また、男女ともに70歳以上で「高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）」の割合が高くなっている。

### 【性別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動（自治会など）	子どもの支援にかかわる活動（子ども会など）	高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）	女性の支援にかかわる活動（女性団体など）	環境美化活動	防災活動	その他	参加していない	無回答
女性	603	14.9	11.1	7.5	2.7	11.8	7.8	3.2	57.9	4.5
男性	515	<u>20.6</u>	8.9	8.3	1.2	<u>16.9</u>	9.9	5.8	54.6	2.1

### 【性・年代別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動（自治会など）	子どもの支援にかかわる活動（子ども会など）	高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）	女性の支援にかかわる活動（女性団体など）	環境美化活動	防災活動	その他	参加していない	無回答
女性 20歳代	64	3.1	1.6	—	—	1.6	3.1	4.7	89.1	—
30歳代	100	10.0	<u>24.0</u>	1.0	1.0	8.0	6.0	2.0	63.0	1.0
40歳代	85	27.1	<u>29.4</u>	3.5	3.5	7.1	4.7	4.7	49.4	1.2
50歳代	107	22.4	10.3	4.7	2.8	15.9	15.0	0.9	57.9	—
60歳代	128	15.6	3.1	7.8	3.9	16.4	6.3	3.1	54.7	6.3
70歳以上	118	8.5	0.8	<u>22.0</u>	3.4	15.3	9.3	4.2	46.6	14.4
男性 20歳代	45	6.7	6.7	—	2.2	6.7	8.9	4.4	68.9	2.2
30歳代	71	16.9	9.9	2.8	2.8	21.1	9.9	5.6	57.7	—
40歳代	57	21.1	<u>22.8</u>	1.8	—	14.0	5.3	3.5	50.9	1.8
50歳代	83	21.7	12.0	—	1.2	12.0	9.6	3.6	62.7	—
60歳代	134	23.1	3.7	10.4	—	16.4	9.0	4.5	58.2	—
70歳以上	125	24.0	6.4	<u>20.8</u>	1.6	23.2	13.6	10.4	40.0	7.2

豊橋市の平成23年の調査との比較でみると、男性で「高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）」の割合が高くなっている。

【経年比較】

単位：％

	住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動（自治会など）	子どもの支援にかかわる活動（子ども会など）	高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）	女性の支援にかかわる活動（女性団体など）	環境美化活動	防災活動	その他	参加していない	無回答
豊橋市（H26.9）	<b>17.5</b>	<b>10.0</b>	<b>7.8</b>	<b>2.0</b>	<b>14.1</b>	<b>8.8</b>	<b>4.3</b>	<b>56.3</b>	<b>3.5</b>
女性	14.9	11.1	7.5	2.7	11.8	7.8	3.2	57.9	4.5
男性	20.6	8.9	8.3	1.2	16.9	9.9	5.8	54.6	2.1
豊橋市（H23.6）	<b>17.3</b>	<b>12.6</b>	<b>4.1</b>	<b>0.4</b>	<b>14.3</b>	<b>6.3</b>	<b>3.2</b>	<b>58.2</b>	<b>2.4</b>
女性	15.9	14.4	5.1	0.5	12.1	3.2	3.0	59.9	1.7
男性	19.2	10.4	2.8	0.2	17.3	10.4	3.2	56.2	2.8

#### 4-2 平日・休日の活動時間

問6. 次のA～Gの項目について、1日平均でどのくらいの時間をあてていますか。(数字を記入)

平日では、男女とも『A 仕事(収入の得られる労働)』の時間が最も長くなっている。

休日では、男性では『G 趣味・レジャーなどの余暇活動』が最も長いのに対し、女性では『B 家事(掃除・洗濯・炊事等)』『E 子育て(乳幼児から学生まで)』が長くなっている。

単位：時間

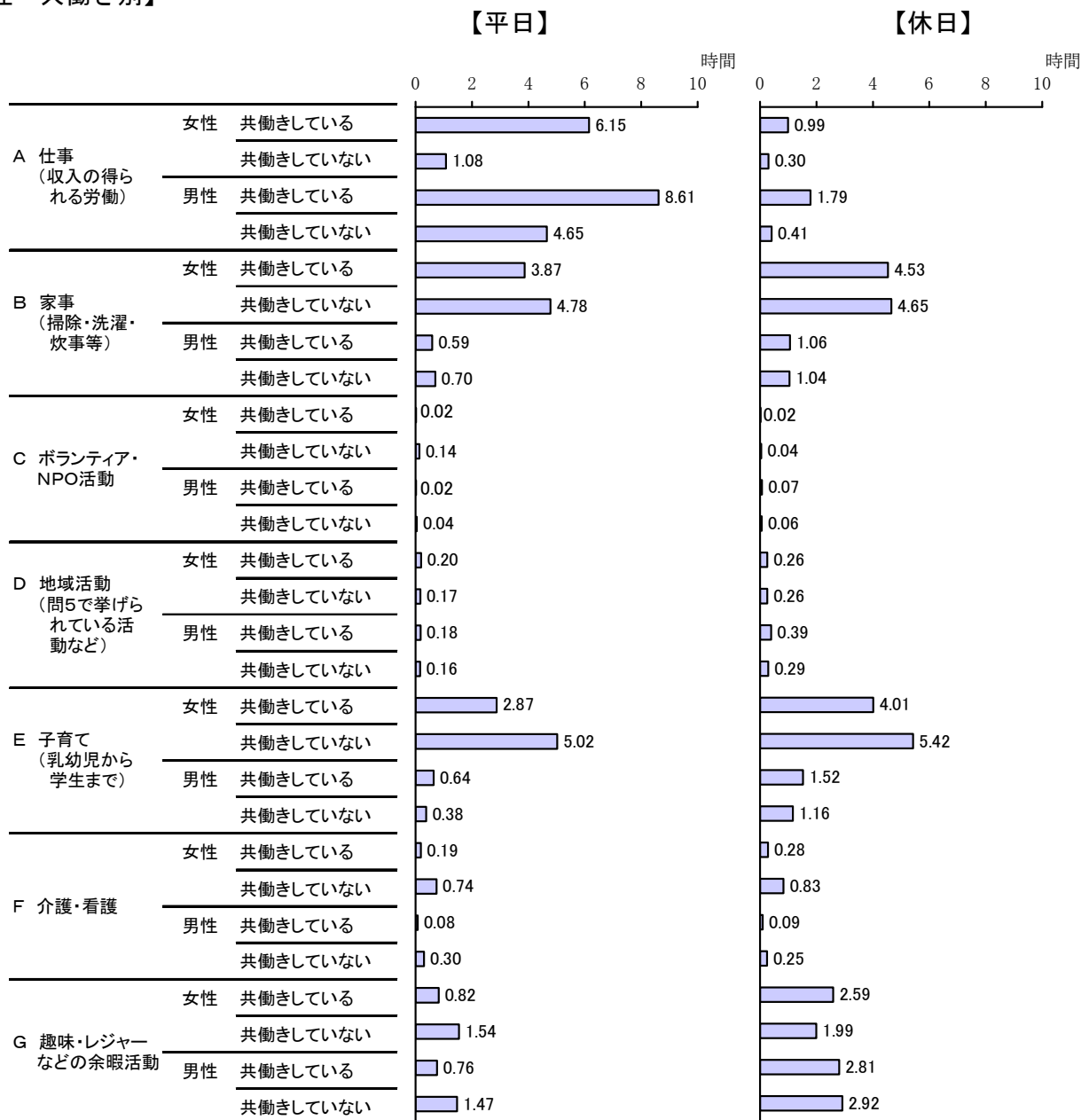
	平日			休日		
	全体	女性	男性	全体	女性	男性
A 仕事(収入の得られる労働)	5.35	4.34	6.45	1.06	0.96	1.20
B 家事(掃除・洗濯・炊事等)	2.34	3.67	0.74	2.66	3.99	1.06
C ボランティア・NPO活動	0.06	0.07	0.05	0.05	0.04	0.06
D 地域活動(問5で挙げられている活動など)	0.17	0.17	0.17	0.27	0.22	0.34
E 子育て(乳幼児から学生まで)	1.70	2.87	0.39	2.31	3.49	1.00
F 介護・看護	0.31	0.40	0.17	0.35	0.49	0.14
G 趣味・レジャーなどの余暇活動	1.26	1.23	1.31	2.81	2.55	3.06

性・共働き別でみると、『B 家事（掃除・洗濯・炊事等）』については、女性の共働きしている人は平日 3.87 時間、休日 4.53 時間で休日の方が長い。男性の共働きしている人は平日 0.59 時間、休日 1.06 時間で女性に比べ短い。また、女性の共働きしていない人では、平日 4.78 時間、休日 4.65 時間で休日の方が短い。

『E 子育て（乳幼児から学生まで）』については、男性の共働きしている人は平日 0.64 時間、休日 1.52 時間で、共働きしていない人の平日 0.38 時間、休日 1.16 時間と比べ、長い。

『G 趣味・レジャーなどの余暇活動』については、男性の共働きしている人の休日 2.81 時間と、共働きしていない人の 2.92 時間でほとんど差がない。

【性・共働き別】



※ 女性 共働きしている N =203 :共働きしていない N =194

※ 男性 共働きしている N =170 :共働きしていない N =209

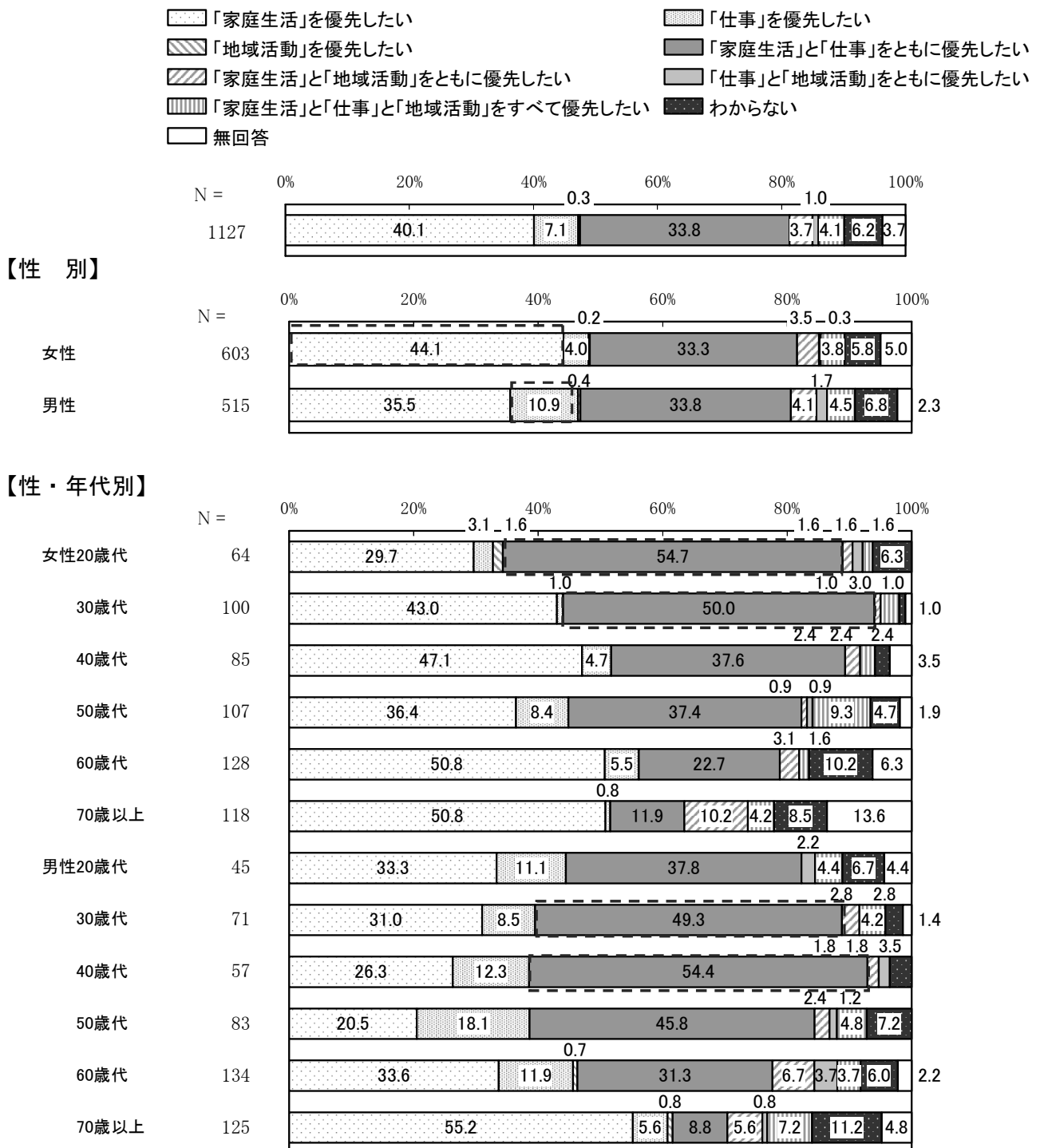
### 4-3 望ましい家庭生活・仕事・地域活動の関係

問7. 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。(1つだけ)

『家庭生活』を優先したいの割合が40.1%と最も高く、次いで『家庭生活』と『仕事』をともに優先したいの割合が33.8%となっている。

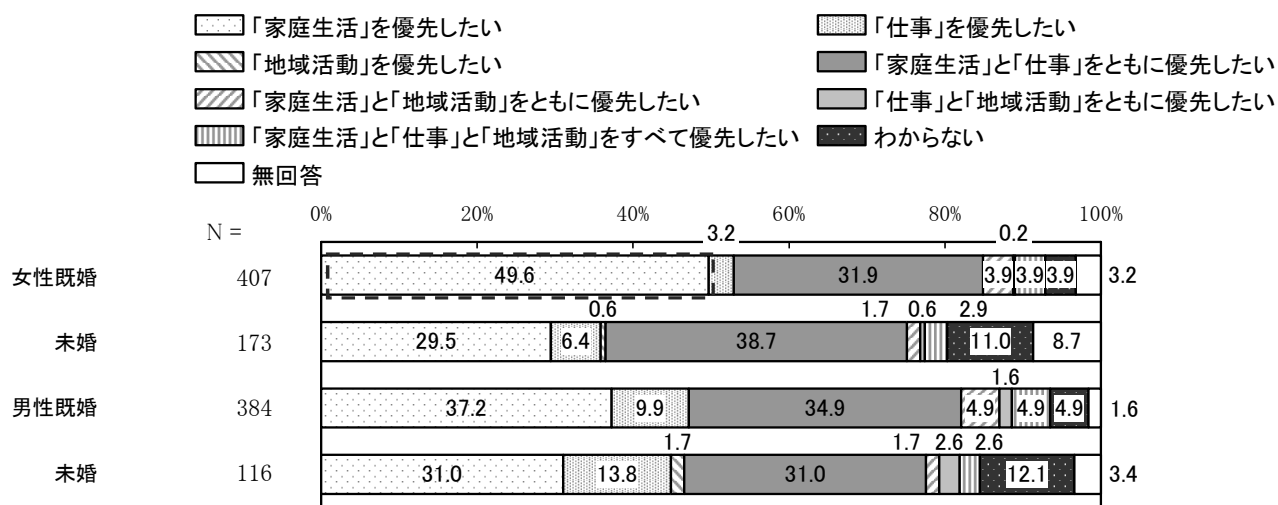
性別でみると、男性に比べ、女性で『家庭生活』を優先したいの割合が高く、女性に比べ、男性で『仕事』を優先したいの割合が高くなっている。

性・年代別でみると、他に比べ、女性20歳代、30歳代、男性30歳代、40歳代で『家庭生活』と『仕事』をともに優先したいの割合が高くなっている。



性・婚姻別でみると、女性既婚で『家庭生活』を優先したいの割合が高くなっている。

【性・婚姻別】





国・愛知県との比較でみると、国、県に比べ、豊橋市で『家庭生活』を優先したい」の割合が高く、『家庭生活』と『仕事』と『地域活動』をすべて優先したい」の割合が低くなっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成 23 年に比べ、平成 26 年で『家庭生活』を優先したい」の割合が高くなっている。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：％

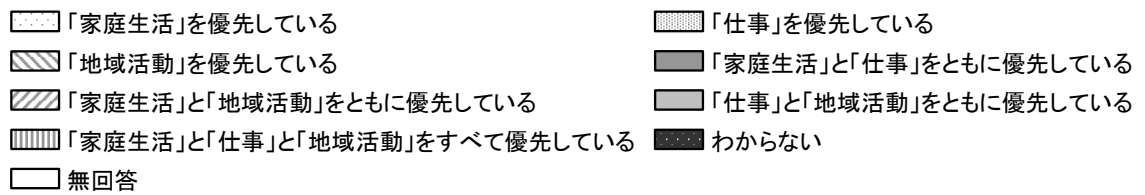
	「家庭生活」を優先したい	「仕事」を優先したい	「地域活動」を優先したい	「家庭生活」と「仕事」をともに優先したい	「家庭生活」と「地域活動」をともに優先したい	「仕事」と「地域活動」をともに優先したい	「家庭生活」と「仕事」と「地域活動」をすべて優先したい	その他	わからない	無回答
国（H24.10）	<b>27.6</b>	<b>9.8</b>	<b>2.4</b>	<b>30.5</b>	<b>9.0</b>	<b>3.5</b>	<b>15.9</b>	—	<b>1.4</b>	—
女性	33.6	3.5	2.4	29.7	10.8	2.4	16.3	—	1.3	—
男性	20.8	16.8	2.4	31.4	7.1	4.7	15.5	—	1.4	—
愛知県（H20.9）	<b>21.9</b>	<b>4.8</b>	<b>2.6</b>	<b>27.8</b>	<b>9.0</b>	<b>1.7</b>	<b>27.8</b>	<b>0.8</b>	<b>1.2</b>	<b>2.3</b>
女性	25.6	2.1	2.4	23.4	11.1	1.6	29.6	0.8	1.2	2.3
男性	17.5	8.0	2.9	33.1	6.6	2.0	25.6	0.7	1.2	2.4
豊橋市（H26.9）	<b>40.1</b>	<b>7.1</b>	<b>0.3</b>	<b>33.8</b>	<b>3.7</b>	<b>1.0</b>	<b>4.1</b>	—	<b>6.2</b>	<b>3.7</b>
女性	44.1	4.0	0.2	33.3	3.5	0.3	3.8	—	5.8	5.0
男性	35.5	10.9	0.4	33.8	4.1	1.7	4.5	—	6.8	2.3
豊橋市（H23.6）	<b>31.5</b>	<b>6.2</b>	<b>0.6</b>	<b>35.6</b>	<b>7.5</b>	<b>1.2</b>	<b>10.7</b>	—	<b>5.2</b>	<b>1.6</b>
女性	36.7	3.8	0.2	34.8	7.3	0.0	10.4	—	5.3	1.5
男性	24.8	9.1	1.1	36.3	8.0	2.8	11.4	—	5.2	1.3

#### 4-4 現状における家庭生活・仕事・地域活動の関係

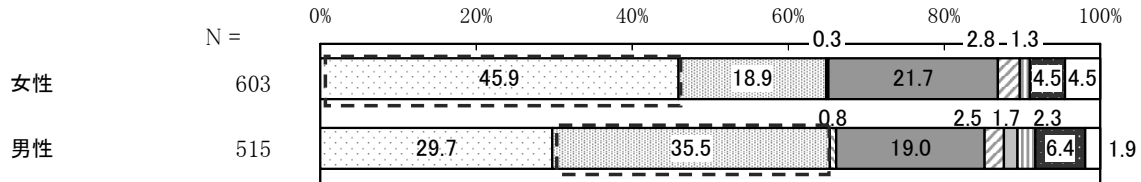
問8. 生活の中での「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、現在の状況に最も近いものはどれですか。(1つだけ)

『家庭生活』を優先している」の割合が38.3%と最も高く、次いで『仕事』を優先している」の割合が26.7%、『家庭生活』と『仕事』をともに優先している」の割合が20.6%となっている。

性別でみると、男性に比べ、女性で『家庭生活』を優先している」の割合が高く、女性に比べ、男性で『仕事』を優先している」の割合が高くなっている。

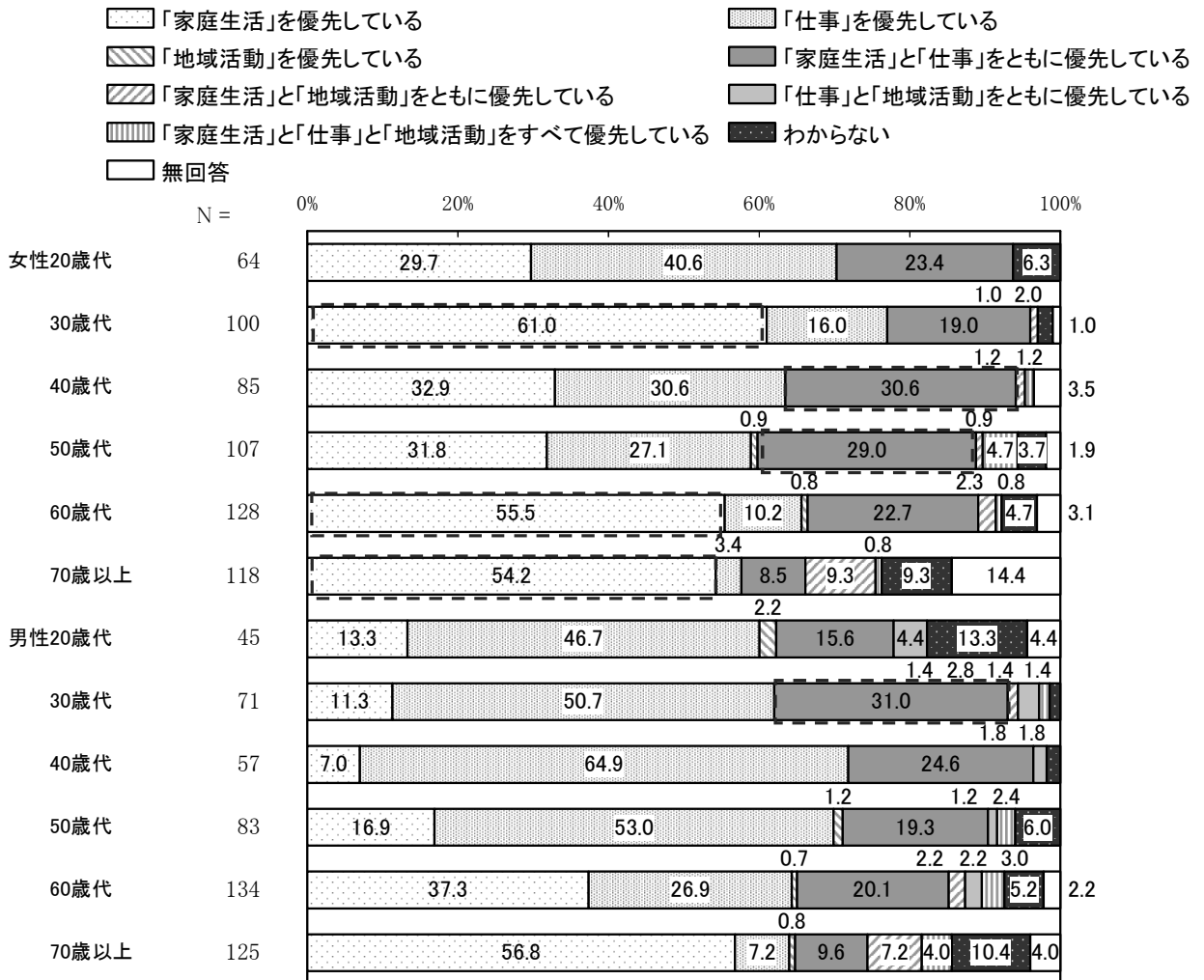


#### 【性別】



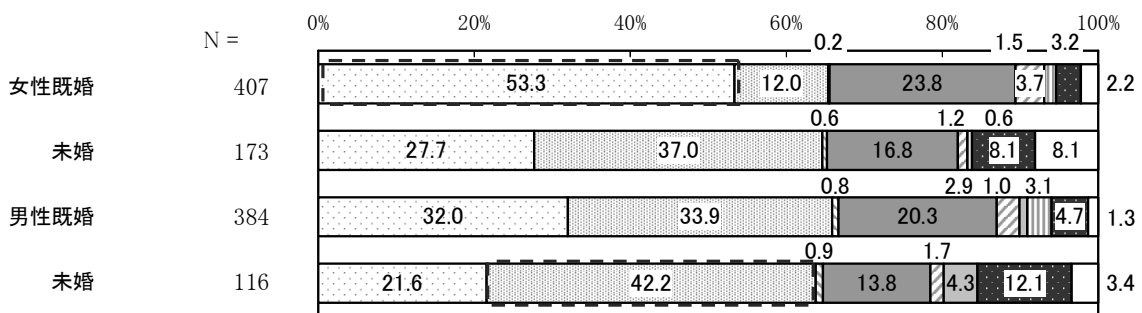
性・年代別で見ると、女性30歳代、60歳以上で『家庭生活』を優先している」の割合が、男性50歳代以下で『仕事』を優先している」の割合が高くなっている。一方、女性40歳代、50歳代、男性30歳代で『家庭生活』と『仕事』をともに優先している」の割合が高く、約3割となっている。

【性・年代別】



【性・婚姻別】

性・婚姻別で見ると、他に比べ、女性既婚で『家庭生活』を優先している」の割合が高く、男性未婚で『仕事』を優先している」の割合が高くなっている。



国・愛知県との比較でみると、国、県に比べ、豊橋市で『家庭生活』を優先している」の割合が高くなっている。

豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年に比べ、平成26年で『家庭生活』を優先している』『仕事』を優先している」の割合が高く、『家庭生活』と『仕事』をともに優先している」の割合が低くなっている。

【国・愛知県との比較・経年比較】

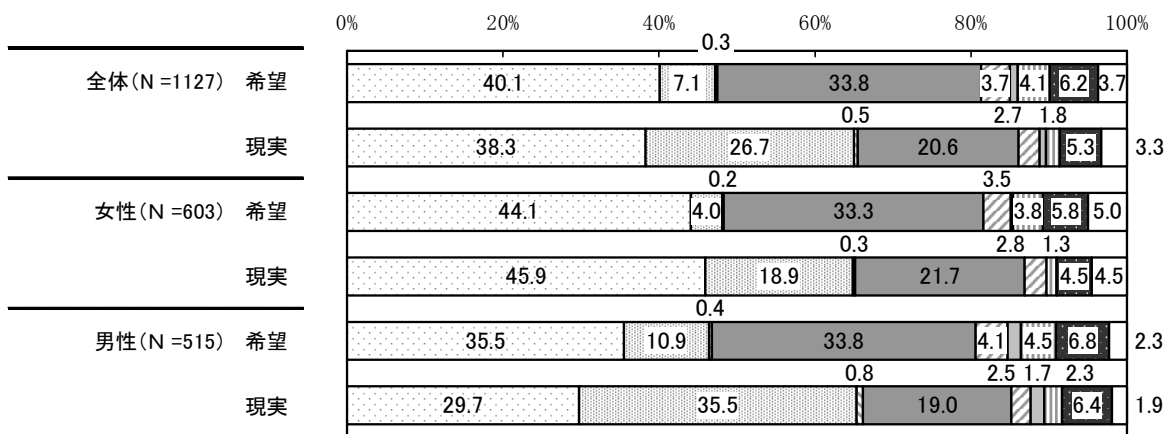
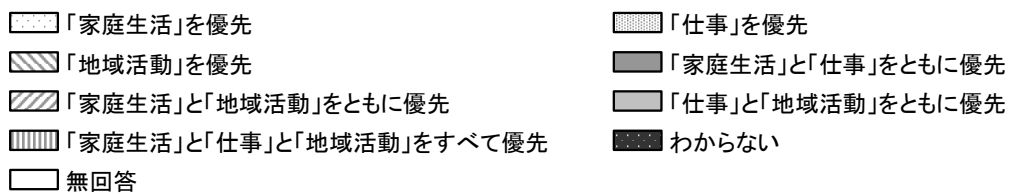
単位：％

	「家庭生活」を優先している	「仕事」を優先している	「地域活動」を優先している	「家庭生活」と「仕事」をともに優先している	「家庭生活」と「地域活動」をともに優先している	「仕事」と「地域活動」をともに優先している	「家庭生活」と「仕事」と「地域活動」をすべて優先している	その他	わからない	無回答
国（H24.10）	<b>32.8</b>	<b>26.1</b>	<b>2.7</b>	<b>21.1</b>	<b>6.8</b>	<b>3.7</b>	<b>5.2</b>	—	<b>1.6</b>	—
女性	45.3	15.7	2.4	20.0	8.2	2.3	4.6	—	1.4	—
男性	18.9	37.7	3.0	22.3	5.2	5.2	6.0	—	1.7	—
愛知県（H20.9）	<b>23.4</b>	<b>30.2</b>	<b>2.5</b>	<b>20.2</b>	<b>5.8</b>	<b>3.2</b>	<b>8.4</b>	<b>1.0</b>	<b>2.6</b>	<b>2.5</b>
女性	36.0	16.2	2.1	19.9	8.0	2.2	9.5	1.0	2.9	2.3
男性	8.5	46.9	3.0	20.6	3.3	4.4	7.2	0.9	2.4	2.8
豊橋市（H26.9）	<b>38.3</b>	<b>26.7</b>	<b>0.5</b>	<b>20.6</b>	<b>2.7</b>	<b>0.8</b>	<b>1.8</b>	—	<b>5.3</b>	<b>3.3</b>
女性	45.9	18.9	0.3	21.7	2.8	—	1.3	—	4.5	4.5
男性	29.7	35.5	0.8	19.0	2.5	1.7	2.3	—	6.4	1.9
豊橋市（H23.6）	<b>32.5</b>	<b>21.7</b>	<b>0.6</b>	<b>30.3</b>	<b>4.3</b>	<b>1.0</b>	<b>4.1</b>	—	<b>3.6</b>	<b>1.8</b>
女性	42.6	14.6	0.0	29.9	5.5	0.3	2.7	—	3.0	1.5
男性	19.2	31.1	1.5	31.3	3.0	1.9	5.8	—	4.3	1.7

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」との優先順位の希望と現実について比較すると、全体では、「『仕事』を優先」の割合が希望の7.1%に対し、現実には26.7%と増加しており、「『家庭生活』と『仕事』をともに優先」と「『家庭生活』と『仕事』と『地域活動』をすべて優先」において、現実には希望に対し減少している。

性別でみると、男女ともに希望に対し現実の「『仕事』を優先」の割合が増加しており、「『家庭生活』と『仕事』をともに優先」の割合が減少する傾向は、全体と同様になっているが、女性の「『家庭生活』を優先」の割合については、希望が44.1%に対して現実が45.9%と増加している。

【「仕事」、「家庭生活」、「地域活動」の関わり方（希望と現実） 性別】



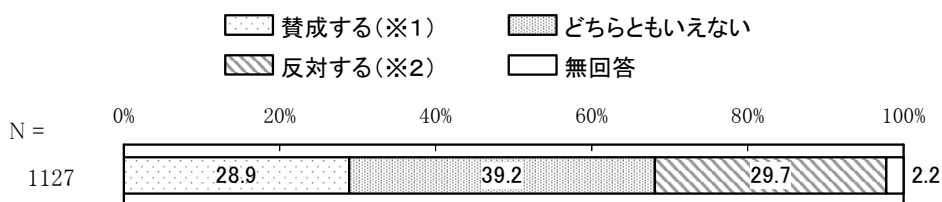
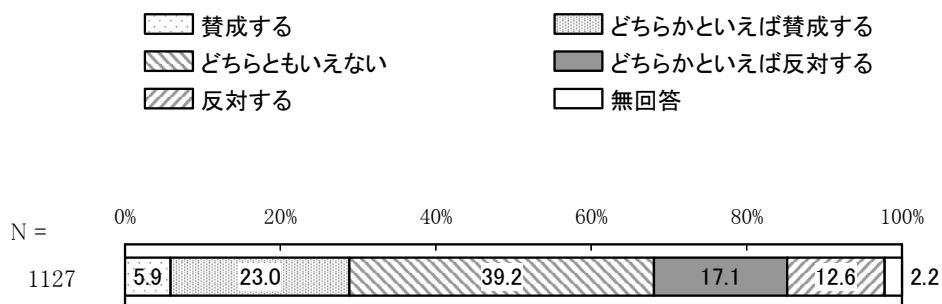
## 5 男女の働き方について

### 5-1 性別役割分担意識

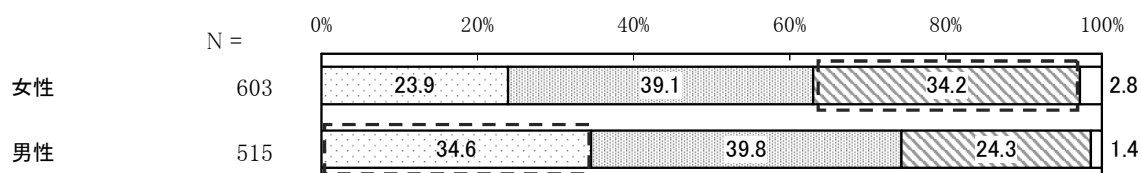
問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。(1つだけ)

“賛成する(※1)”の割合が28.9%、“反対する(※2)”の割合が29.7%、「どちらともいえない」の割合が39.2%となっている。

性別で見ると、女性に比べ、男性で“賛成する(※1)”の割合が高く、男性に比べ、女性で“反対する(※2)”の割合が高くなっている。



#### 【性別】



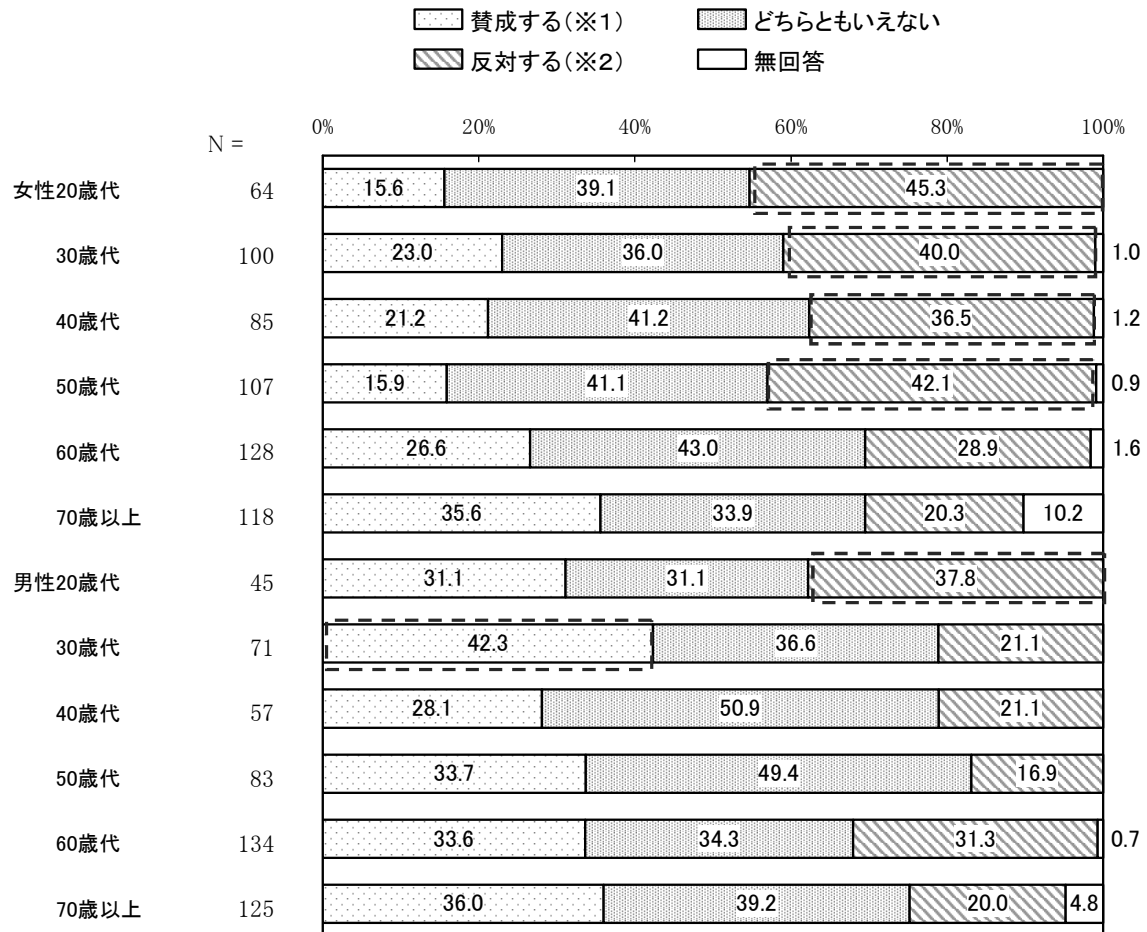
※1 : 「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計

※2 : 「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

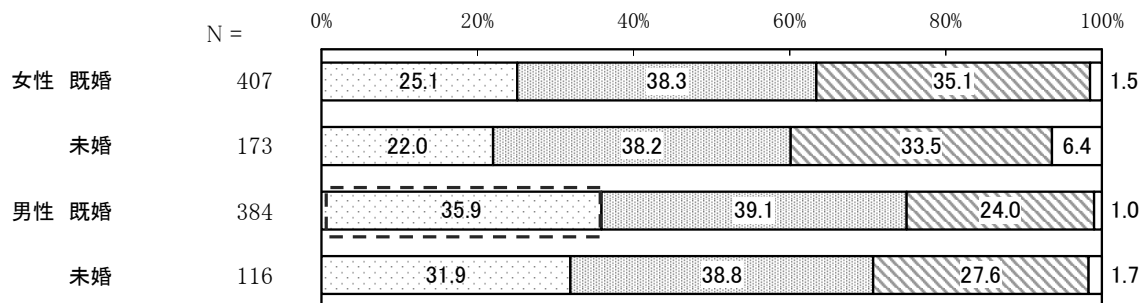
性・年代別で見ると、他に比べ、男性30歳代で“賛成する（※1）”の割合が高く、女性20歳代から50歳代、男性20歳代で“反対する（※2）”の割合が高くなっている。

性・婚姻別で見ると、他に比べ、男性既婚で“賛成する（※1）”の割合が高くなっている。

【性・年代別】



【性・婚姻別】

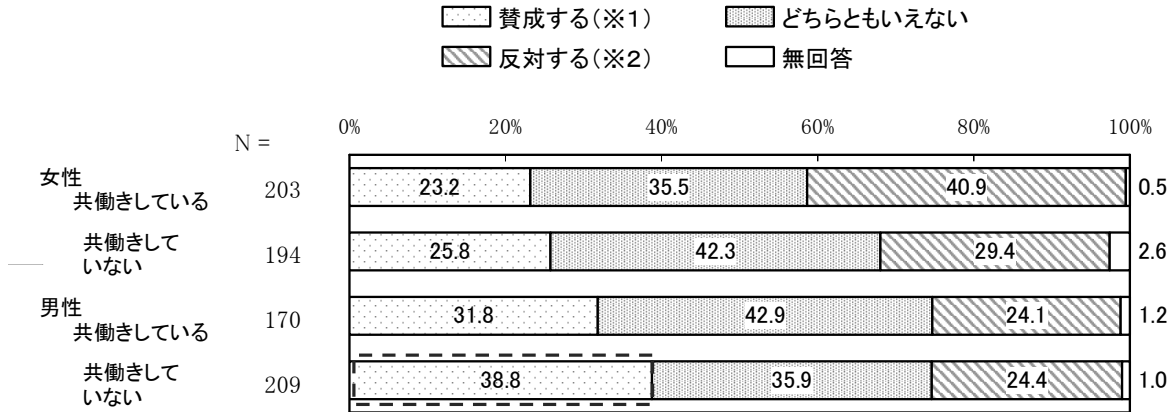


※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計

※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計

性・共働き別で見ると、他に比べ、共働きしていない男性で“賛成する（※1）”の割合が高くなっている。また、男女とも共働きしている人よりも、共働きしていない人で“賛成する（※1）”の割合が高くなっている

【性・共働き別】



※1：「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」の計

※2：「どちらかといえば反対する」と「反対する」の計



豊橋市の過去の調査との比較でみると、過去の調査に比べ、平成26年で“賛成する”の割合が最も低くなっている。

【国・愛知県との比較・経年比較】

単位：％

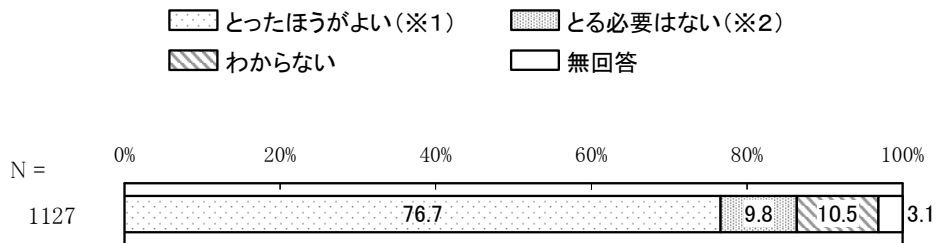
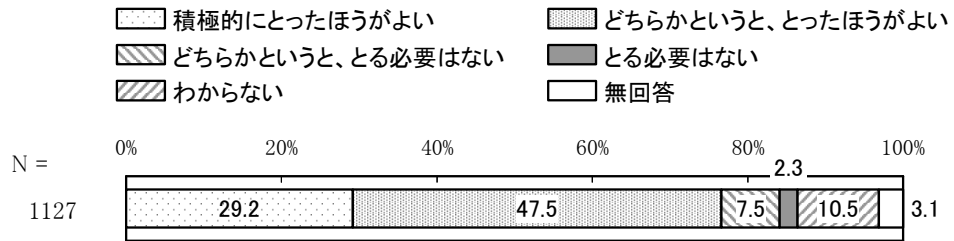
	賛成する そう思う (A)	どちらかといえば賛成する どちらかといえばそう思う (B)	どちらともいえない	どちらかといえば反対する どちらかといえばそう思わない (C)	反対する そうは思わない (D)	わからない	無回答	賛成する 肯定的 (A+B)	反対する 否定的 (C+D)
国 (H24.10)	<b>12.9</b>	<b>38.7</b>	—	<b>27.9</b>	<b>17.2</b>	—	—	<b>51.6</b>	<b>45.1</b>
女性	12.4	36.0	—	30.4	18.4	—	—	48.4	48.8
男性	13.3	41.8	—	25.2	15.8	—	—	55.2	41.0
愛知県 (H20.9)	<b>8.3</b>	<b>39.7</b>	—	<b>25.2</b>	<b>14.8</b>	<b>10.2</b>	<b>1.8</b>	<b>48.0</b>	<b>40.0</b>
女性	6.2	37.2	—	27.0	17.3	10.2	2.0	43.4	44.3
男性	10.7	42.6	—	23.1	11.8	10.2	1.5	53.3	34.9
豊橋市 (H26.9)	<b>5.9</b>	<b>23.0</b>	<b>39.2</b>	<b>17.1</b>	<b>12.6</b>	—	<b>2.2</b>	<b>28.9</b>	<b>29.7</b>
女性	4.5	19.4	39.1	20.2	13.9	—	2.8	23.9	34.1
男性	7.4	27.2	39.8	13.4	10.9	—	1.4	34.6	24.3
豊橋市 (H23.6)	<b>7.2</b>	<b>31.3</b>	<b>26.4</b>	<b>12.6</b>	<b>20.7</b>	—	<b>1.9</b>	<b>38.5</b>	<b>33.3</b>
女性	5.1	27.9	27.7	13.3	24.9	—	1.2	33.0	38.2
男性	9.9	35.9	24.8	11.4	15.6	—	2.4	45.8	27.0
豊橋市 (H20.5)	<b>6.4</b>	<b>28.2</b>	<b>28.3</b>	<b>15.1</b>	<b>21.4</b>	—	<b>0.6</b>	<b>34.6</b>	<b>36.5</b>
女性	5.1	23.6	29.6	17.5	24.0	—	0.2	28.7	41.5
男性	8.3	34.5	27.2	11.9	17.5	—	0.6	42.9	29.4
豊橋市 (H17.5)	<b>7.4</b>	<b>31.0</b>	<b>28.3</b>	<b>11.7</b>	<b>19.1</b>	—	<b>2.6</b>	<b>38.4</b>	<b>30.8</b>
女性	5.9	28.7	29.5	13.7	20.0	—	2.3	34.5	33.7
男性	9.8	33.4	26.9	9.1	18.0	—	2.8	43.2	27.1
豊橋市 (H13.8)	<b>9.4</b>	<b>30.8</b>	<b>27.5</b>	<b>13.3</b>	<b>18.3</b>	—	<b>0.6</b>	<b>40.2</b>	<b>31.6</b>
女性	6.7	27.8	27.4	17.0	20.5	—	0.6	34.5	37.5
男性	12.7	33.9	28.7	9.3	15.0	—	0.5	46.6	24.3

## 5-2 男性が育児や介護で休みをとることについての考え方

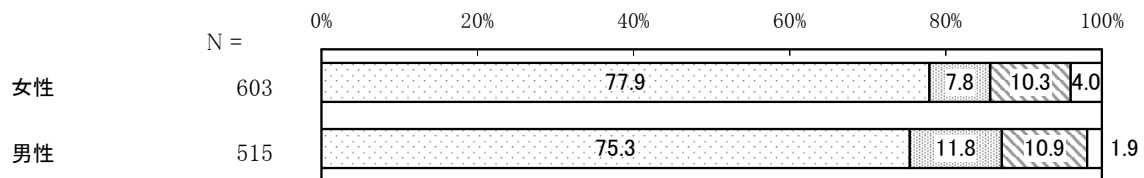
### 問10. 男性が育児や介護で休みをとることについて、どのように思いますか。(1つだけ)

“とったほうがよい(※1)”の割合が76.7%、“とる必要はない(※2)”の割合が9.8%となっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。



### 【性別】



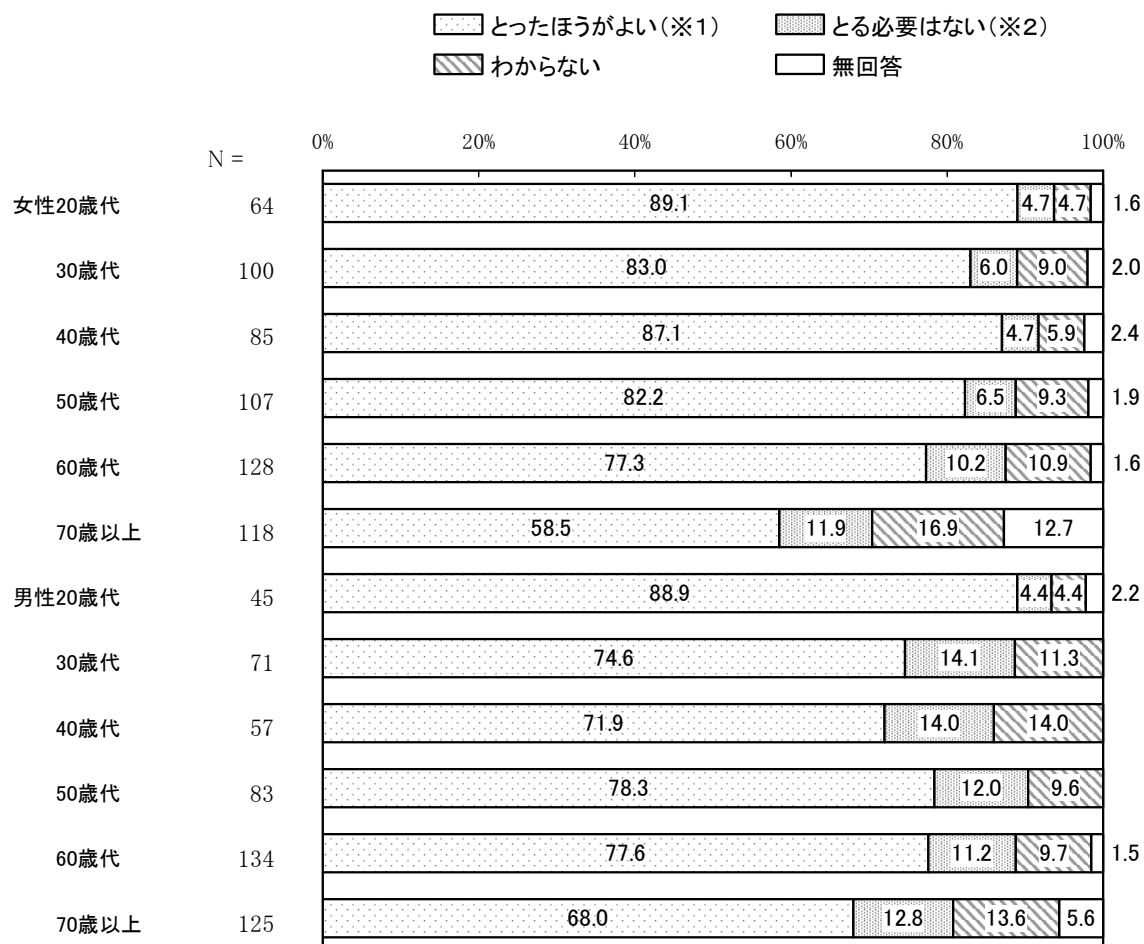
※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計

※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

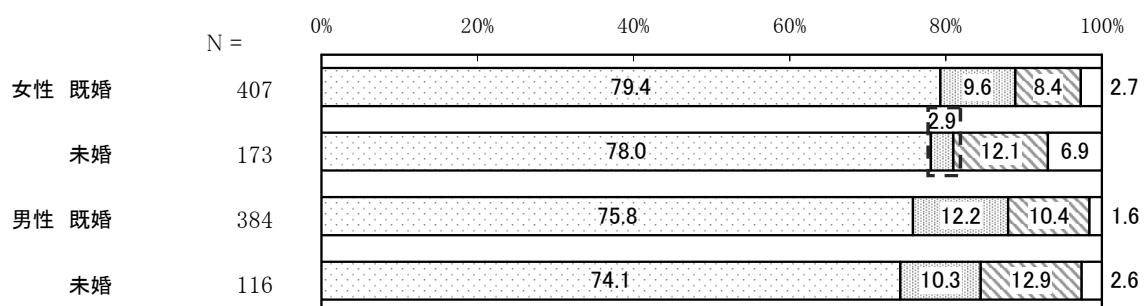
性・年代別で見ると、男女ともに年齢が高くなるにつれ“とったほうがよい(※1)”の割合が低くなる傾向がみられる。

性・婚姻別で見ると、他に比べ、未婚の女性で“とる必要はない(※2)”の割合が低くなっている。

【性・年代別】



【性・婚姻別】



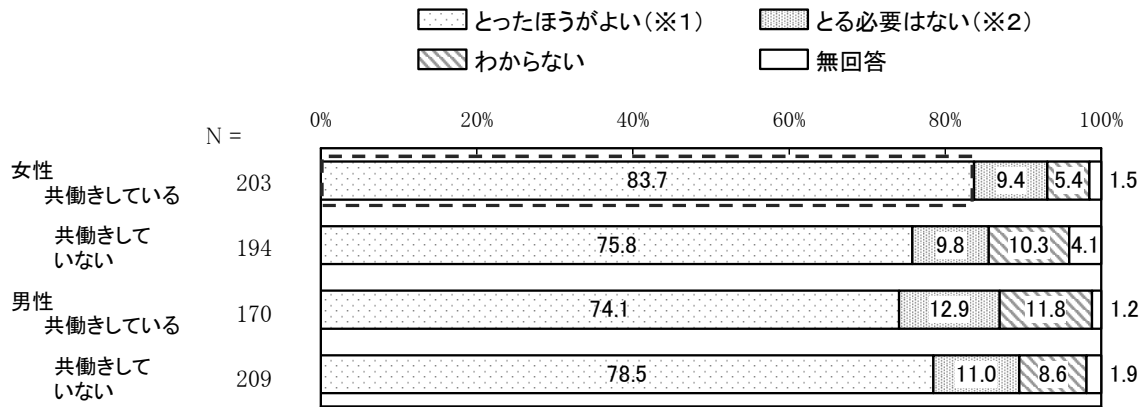
※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計

※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

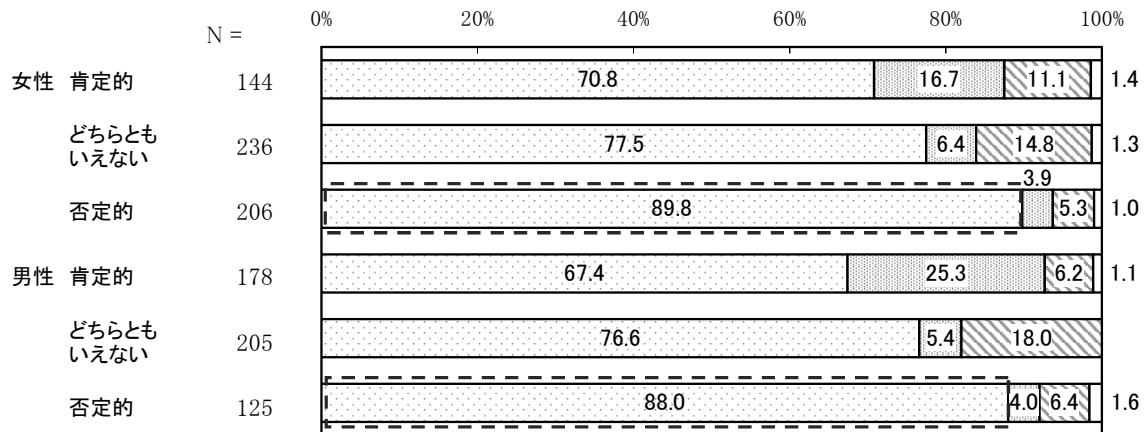
性・共働き状況別でみると、共働きしている女性で“とったほうがよい(※1)”の割合が高くなっている。

性別役割分担意識別でみると、否定的な女性、男性ともに“とったほうがよい(※1)”の割合が高くなっている。

【性・共働き状況別】



【性別役割分担意識別】



※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかという、とったほうがよい」の計

※2：「どちらかという、とる必要はない」と「とる必要はない」の計

豊橋市の平成 23 年の調査との比較で見ると、男女とも“とったほうがよい（※1）”の割合が増加している。

【経年比較】

単位：%

	積極的にとったほうがよい	どちらかというのとったほうがよい	どちらかというのとる必要はない	とる必要はない	わからない	無回答	とったほうがよい※1	とる必要はない※2
豊橋市 (H26.9)	<b>29.2</b>	<b>47.5</b>	<b>7.5</b>	<b>2.3</b>	<b>10.5</b>	<b>3.1</b>	<b>76.7</b>	<b>9.8</b>
女性	34.8	43.1	6.3	1.5	10.3	4.0	77.9	7.8
男性	22.7	52.6	8.5	3.3	10.9	1.9	75.3	11.8
豊橋市 (H23.6)	<b>27.3</b>	<b>43.9</b>	<b>14.4</b>	<b>2.7</b>	<b>10.0</b>	<b>1.7</b>	<b>71.2</b>	<b>17.1</b>
女性	29.4	44.8	13.4	1.8	9.0	1.7	74.1	15.3
男性	24.8	42.3	16.0	3.5	11.7	1.7	67.2	19.4

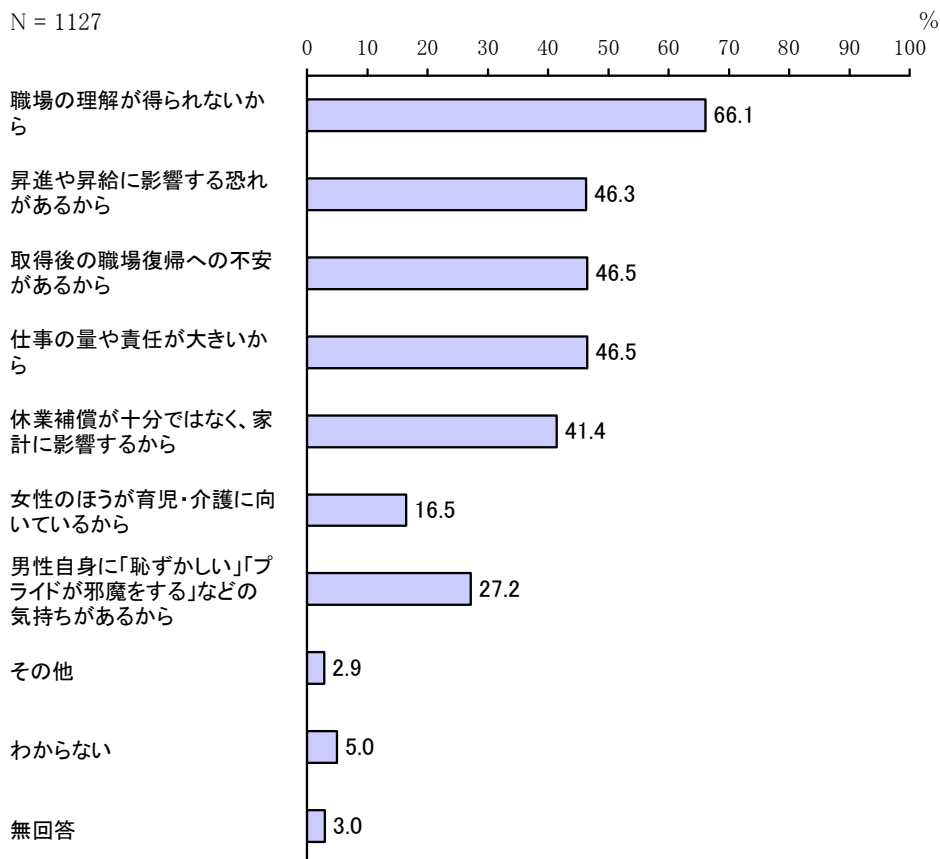
※1：「積極的にとったほうがよい」と「どちらかというのとったほうがよい」の計

※2：「どちらかというのとる必要はない」と「とる必要はない」の計

### 5-3 男性が育児や介護で休みをとらない理由

問 11. 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にありますか、その理由は何だと思えますか。  
(いくつでも)

「職場の理解が得られないから」の割合が 66.1%と最も高く、次いで「取得後の職場復帰への不安があるから」「仕事の量や責任が大きいから」の割合が 46.5%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「職場の理解が得られないから」「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」「取得後の職場復帰への不安があるから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」「男性自身に『恥ずかしい』『プライドが邪魔をする』などの気持ちがあるから」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、女性 20 歳代から 50 歳代、男性 20 歳代で「職場の理解が得られないから」「取得後の職場復帰への不安があるから」の割合が高くなっている。また、女性 40 歳代、50 歳代、男性 20 歳代で「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」の割合が、女性 40 歳代・50 歳代で「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性	603	73.5	50.1	49.1	47.3	46.8	15.9	33.3	3.3	3.2	3.8
男性	515	57.7	41.9	43.5	45.4	35.1	17.1	19.8	2.5	7.2	1.9

【性・年代別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性 20 歳代	64	82.8	51.6	54.7	54.7	35.9	18.8	39.1	6.3	1.6	—
30 歳代	100	86.0	56.0	54.0	50.0	54.0	16.0	40.0	7.0	—	1.0
40 歳代	85	84.7	65.9	58.8	58.8	60.0	16.5	35.3	1.2	—	1.2
50 歳代	107	81.3	61.7	56.1	52.3	56.1	13.1	42.1	2.8	1.9	0.9
60 歳代	128	68.0	46.1	45.3	44.5	43.0	10.9	32.0	2.3	3.9	3.1
70 歳以上	118	48.3	27.1	33.1	30.5	32.2	22.0	16.9	0.8	9.3	13.6
男性 20 歳代	45	82.2	62.2	57.8	51.1	48.9	13.3	22.2	2.2	—	2.2
30 歳代	71	62.0	43.7	45.1	64.8	43.7	7.0	14.1	2.8	1.4	—
40 歳代	57	68.4	49.1	47.4	61.4	31.6	8.8	22.8	1.8	7.0	—
50 歳代	83	62.7	33.7	48.2	49.4	33.7	24.1	20.5	2.4	4.8	—
60 歳代	134	58.2	41.8	43.3	38.8	38.1	17.2	21.6	2.2	4.5	1.5
70 歳以上	125	37.6	36.0	32.8	29.6	24.8	23.2	18.4	3.2	17.6	5.6

性・婚姻別でみると、既婚の女性で「取得後の職場復帰への不安があるから」「仕事の量や責任が大きいから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」の割合が高くなっている。

性・共働き状況別でみると、共働きをしている女性で「職場の理解が得られないから」「昇進や昇給に影響する恐れがあるから」「取得後の職場復帰への不安があるから」「休業補償が十分ではなく、家計に影響するから」「男性自身に『恥ずかしい』『プライドが邪魔をする』などの気持ちがあるから」の割合が高くなっている。

【性・婚姻別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性既婚	407	74.9	51.1	51.1	51.4	48.9	17.0	34.2	3.4	2.7	2.2
未婚	173	70.5	48.6	46.2	39.9	42.8	13.3	31.8	2.9	3.5	7.5
男性既婚	384	56.3	41.7	43.5	46.1	33.3	17.7	20.1	2.9	7.0	1.3
未婚	116	65.5	45.7	44.0	45.7	39.7	14.7	21.6	1.7	6.9	3.4

【性・共働き状況別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性 共働きしている	203	78.8	56.7	56.2	54.2	51.7	17.7	41.4	4.9	0.5	1.5
共働きしていない	194	72.2	47.4	47.4	50.0	46.4	16.0	27.3	2.1	3.6	3.1
男性共働きしている	170	58.8	41.2	41.2	51.2	37.6	18.8	19.4	2.4	5.3	1.2
共働きしていない	209	55.0	43.1	46.4	43.1	29.7	17.2	20.6	3.3	7.2	1.4



性別役割分担意識別でみると、肯定的な男性で「職場の理解が得られないから」の割合が低くなっている。

【性別役割分担意識別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
女性肯定的	144	66.7	44.4	43.8	45.8	40.3	22.2	20.1	3.5	2.8	4.2
どちらともいえない	236	75.4	55.1	54.7	47.5	48.3	13.1	33.5	2.5	5.1	—
否定的	206	82.0	52.4	50.5	51.9	53.4	16.0	45.1	4.4	1.5	—
男性肯定的	178	50.0	38.8	41.0	49.4	32.6	27.0	18.5	2.2	6.7	1.1
どちらともいえない	205	59.5	38.5	39.5	45.4	35.6	14.6	19.0	1.5	9.8	—
否定的	125	68.8	54.4	56.0	42.4	40.0	8.0	24.0	4.8	4.0	0.8

【経年比較】

豊橋市の平成23年の調査との比較でみると、女性で「職場の理解が得られないから」の割合が増加している。一方、男性で「仕事の量や責任が大きいから」の割合が減少している。

単位：％

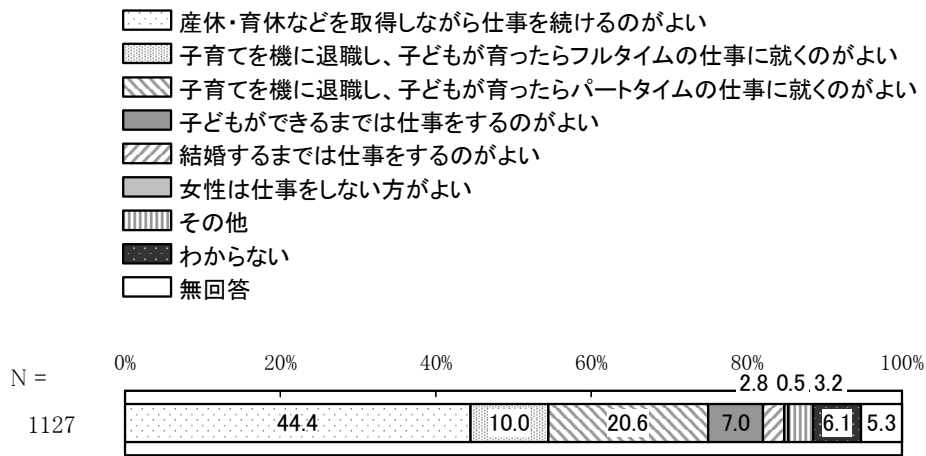
	職場の理解が得られないから	昇進や昇給に影響する恐れがあるから	取得後の職場復帰への不安があるから	仕事の量や責任が大きいから	休業補償が十分ではなく、家計に影響するから	女性のほうが育児・介護に向いているから	男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから	その他	わからない	無回答
豊橋市 (H26.9)	<b>66.1</b>	<b>46.3</b>	<b>46.5</b>	<b>46.5</b>	<b>41.4</b>	<b>16.5</b>	<b>27.2</b>	<b>2.9</b>	<b>5.0</b>	<b>3.0</b>
女性	73.5	50.1	49.1	47.3	46.8	15.9	33.3	3.3	3.2	3.8
男性	57.7	41.9	43.5	45.4	35.1	17.1	19.8	2.5	7.2	1.9
豊橋市 (H23.6)	<b>63.9</b>	<b>42.6</b>	<b>44.4</b>	<b>46.3</b>	<b>43.4</b>	<b>17.5</b>	<b>30.9</b>	<b>3.9</b>	<b>2.2</b>	<b>1.4</b>
女性	68.3	45.8	46.4	43.8	47.3	16.1	37.5	3.8	2.0	1.3
男性	58.3	38.4	42.3	50.1	38.2	19.2	21.8	4.1	2.6	1.5

## 5-4 女性の就労についての考え方

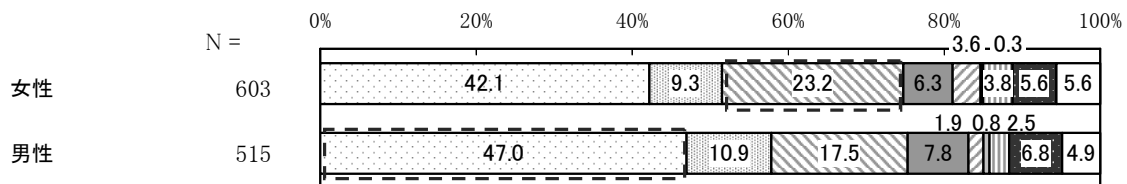
### 問 12. 女性が仕事をする事について、どのように思いますか。(1つだけ)

「産休・育休などを取得しながら仕事を続けるのがよい」の割合が44.4%と最も高く、次いで「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい」の割合が20.6%、「子育てを機に退職し、子どもが育ったらフルタイムの仕事に就くのがよい」の割合が10.0%となっている。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい」の割合が高く、女性に比べ、男性で「産休・育休などを取得しながら仕事を続けるのがよい」の割合が高くなっている。

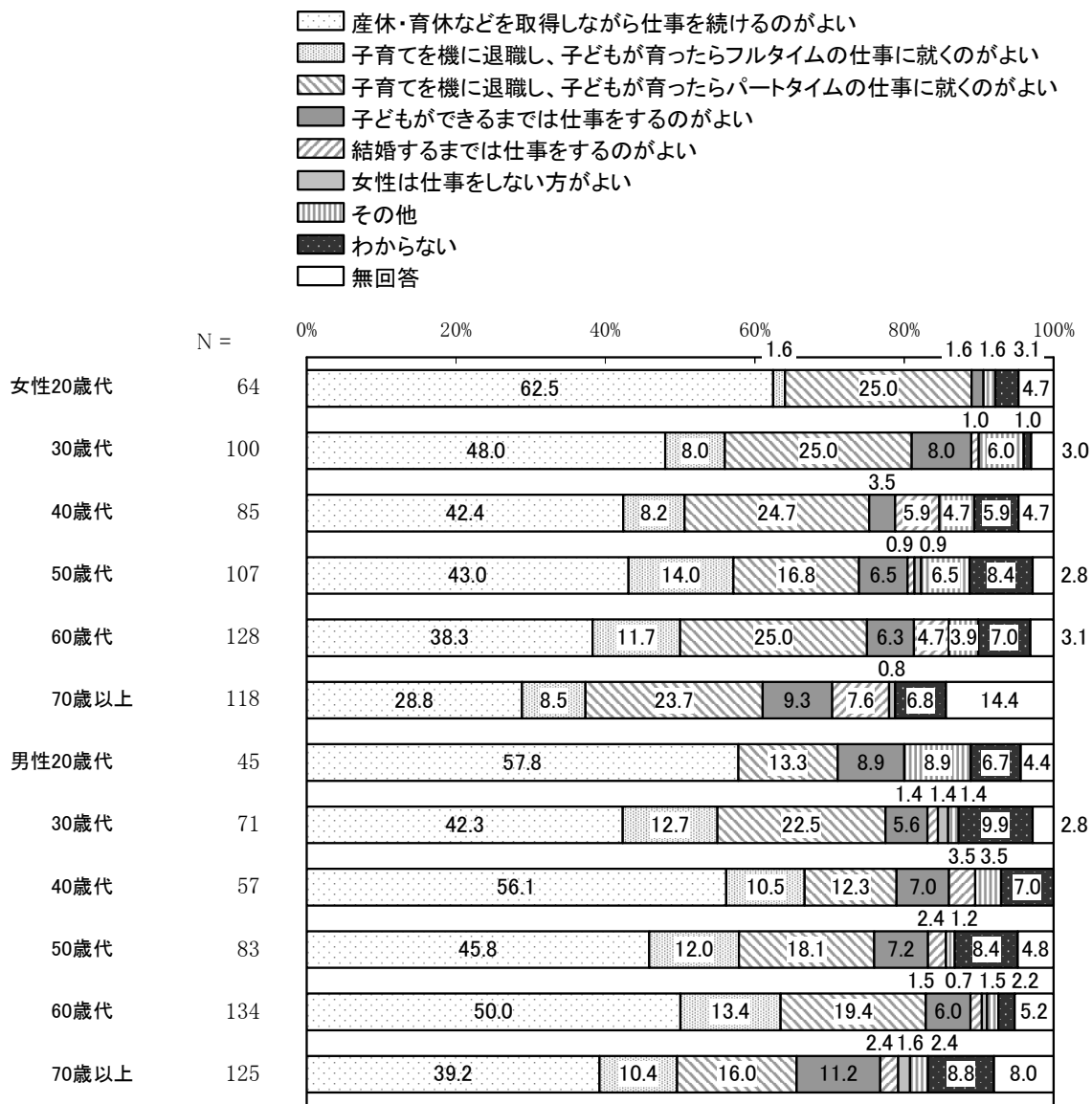


### 【性別】



性・年代別でみると、女性で年代が低くなるにつれ「産休・育休などを取得しながら仕事を続けるのがよい」の割合が高くなる傾向がみられる。

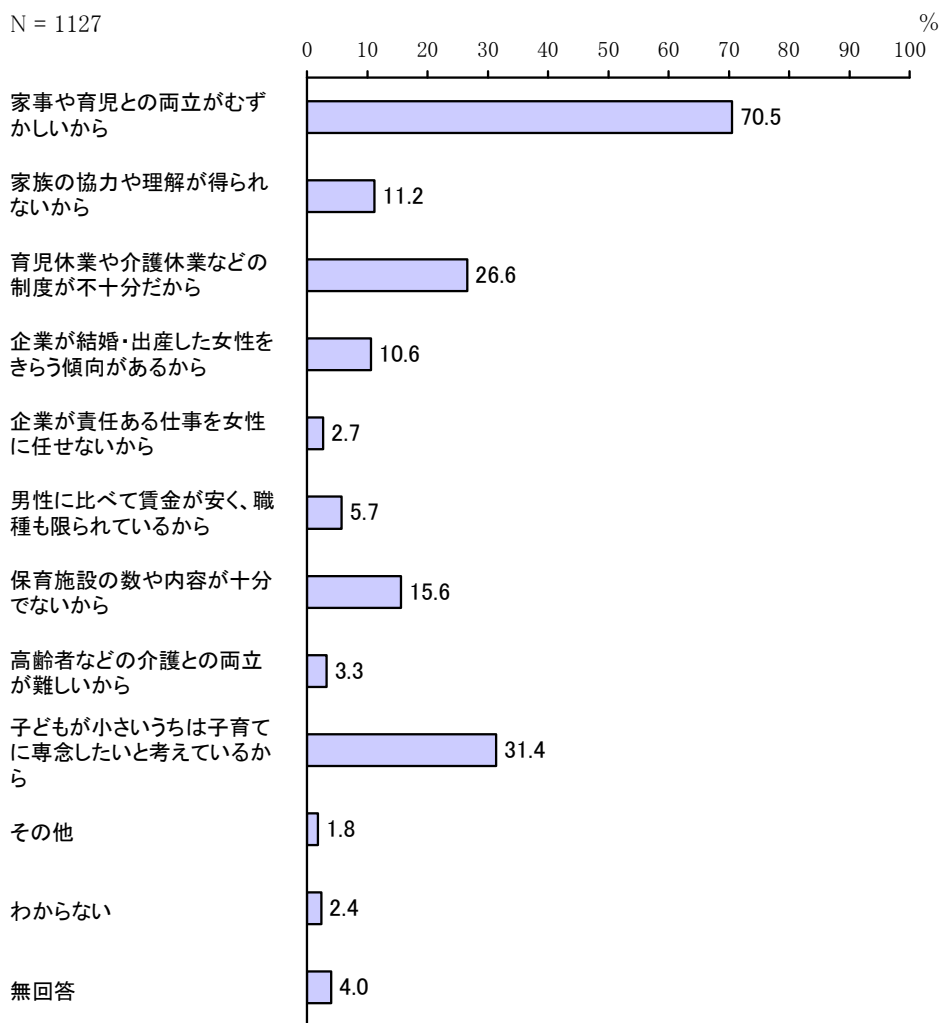
【性・年代別】



## 5-5 女性が結婚や出産を機に仕事をやめる理由

問 13. 結婚や出産を機に仕事をやめる女性がありますが、その理由は何だと思えますか。(主なものを2つ)

「家事や育児との両立がむずかしいから」の割合が70.5%と最も高く、次いで「子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから」の割合が31.4%、「育児休業や介護休業などの制度が不十分だから」の割合が26.6%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから」の割合が高く、女性に比べ、男性で「育児休業や介護休業などの制度が不十分だから」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、他に比べ、女性20歳代から60歳代、男性30歳代から50歳代で「家事や育児との両立がむずかしいから」の割合が高くなっている。また、女性20歳代、男性40歳代、60歳代で「育児休業や介護休業などの制度が不十分だから」の割合が、女性20歳代、30歳代で「子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事や育児との両立がむずかしいから	家族の協力や理解が得られないから	育児休業や介護休業などの制度が不十分だから	企業が結婚・出産した女性をきらう傾向があるから	企業が責任ある仕事を女性に任せないから	職種も限られているから	男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから	保育施設の数や内容が十分でないから	高齢者などの介護との両立が難しいから	子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから	その他	わからない	無回答
女性	603	69.8	13.4	23.4	10.4	1.3	6.3	15.8	4.1	33.7	1.5	2.0	4.8	
男性	515	70.9	8.7	30.5	10.9	4.3	5.0	15.3	2.1	28.5	2.1	2.9	3.1	

【性・年代別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事や育児との両立がむずかしいから	家族の協力や理解が得られないから	育児休業や介護休業などの制度が不十分だから	企業が結婚・出産した女性をきらう傾向があるから	企業が責任ある仕事を女性に任せないから	職種も限られているから	男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから	保育施設の数や内容が十分でないから	高齢者などの介護との両立が難しいから	子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから	その他	わからない	無回答
女性 20歳代	64	71.9	9.4	31.3	10.9	—	9.4	10.9	—	42.2	3.1	1.6	3.1	
30歳代	100	78.0	12.0	25.0	12.0	1.0	7.0	12.0	1.0	44.0	1.0	—	1.0	
40歳代	85	74.1	16.5	25.9	14.1	4.7	10.6	12.9	1.2	31.8	—	—	2.4	
50歳代	107	75.7	15.9	20.6	13.1	0.9	6.5	21.5	2.8	26.2	1.9	2.8	1.9	
60歳代	128	70.3	14.1	23.4	10.2	0.8	4.7	15.6	5.5	35.2	3.1	2.3	1.6	
70歳以上	118	52.5	11.9	18.6	4.2	0.8	2.5	17.8	11.0	27.1	—	4.2	16.9	
男性 20歳代	45	68.9	6.7	28.9	2.2	6.7	8.9	17.8	—	22.2	8.9	2.2	4.4	
30歳代	71	76.1	7.0	28.2	9.9	8.5	8.5	14.1	—	29.6	4.2	2.8	—	
40歳代	57	75.4	10.5	35.1	12.3	3.5	1.8	12.3	1.8	35.1	—	3.5	—	
50歳代	83	80.7	13.3	27.7	9.6	3.6	3.6	9.6	3.6	31.3	—	—	3.6	
60歳代	134	68.7	11.2	35.1	17.2	3.0	3.0	20.9	2.2	26.1	0.7	1.5	0.7	
70歳以上	125	62.4	4.0	27.2	8.0	3.2	6.4	14.4	3.2	28.0	2.4	6.4	8.0	

性・婚姻別でみると、既婚の女性、男性ともに「子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから」の割合が高くなっている。

性・共働き状況別でみると、共働きしている女性、男性ともに「企業が結婚・出産した女性をきらう傾向があるから」の割合が高くなっている。

【性・婚姻別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事や育児との両立がむずかしいから	家族の協力や理解が得られないから	育児休業や介護休業などの制度が不十分だから	企業が結婚・出産した女性をきらう傾向があるから	企業が責任ある仕事を女性に任せないから	男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから	保育施設の数や内容が十分でないから	高齢者などの介護との両立が難しいから	子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから	その他	わからない	無回答
女性既婚	407	71.5	13.5	22.6	10.6	1.2	5.7	16.2	5.9	36.6	1.5	1.7	2.9
未婚	173	66.5	12.1	22.5	11.0	1.7	7.5	15.6	0.6	27.7	1.7	2.3	9.8
男性既婚	384	47.2	9.1	30.5	11.5	3.6	4.7	14.3	2.6	30.7	1.8	1.6	2.3
未婚	116	62.9	7.8	31.9	10.3	6.9	4.3	16.4	0.9	23.3	3.4	6.0	4.3

【性・共働き状況別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家事や育児との両立がむずかしいから	家族の協力や理解が得られないから	育児休業や介護休業などの制度が不十分だから	企業が結婚・出産した女性をきらう傾向があるから	企業が責任ある仕事を女性に任せないから	男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから	保育施設の数や内容が十分でないから	高齢者などの介護との両立が難しいから	子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから	その他	わからない	無回答
女性 共働きしている	203	73.4	13.8	27.6	12.3	1.5	5.4	17.7	3.0	32.5	1.5	1.0	3.0
共働きしていない	194	69.6	13.9	18.0	9.3	1.0	6.2	15.5	8.2	40.2	1.5	2.1	2.6
男性 共働きしている	170	71.2	10.6	27.1	15.3	4.1	5.9	12.9	3.5	32.4	2.4	—	3.5
共働きしていない	209	77.5	8.1	34.0	8.6	3.3	3.8	15.3	1.9	29.2	1.0	2.4	1.4

豊橋市の平成 23 年の調査との比較でみると、男女とも「家族の協力や理解が得られないから」「育児休業や介護休業などの制度が不十分だから」「保育施設の数や内容が十分でないから」の割合が減少している。

【経年比較】

単位：%

	家事や育児との両立がむずかしいから	家族の協力や理解が得られないから	育児休業や介護休業などの制度が不十分だから	企業が結婚・出産した女性をきょう傾向があるから	企業が責任ある仕事を女性に任せないから	男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから	保育施設の数や内容が十分でないから	高齢者などの介護との両立が難しいから	子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから	女性自身に職業に対する熱意や積極性が不足しているから	その他	わからない	無回答
豊橋市（H26.9）	<b>70.5</b>	<b>11.2</b>	<b>26.6</b>	<b>10.6</b>	<b>2.7</b>	<b>5.7</b>	<b>15.6</b>	<b>3.3</b>	<b>31.4</b>	—	<b>1.8</b>	<b>2.4</b>	<b>4.0</b>
女性	69.8	13.4	23.4	10.4	1.3	6.3	15.8	4.1	33.7	—	1.5	2.0	4.8
男性	70.9	8.7	30.5	10.9	4.3	5.0	15.3	2.1	28.5	—	2.1	2.9	3.1
豊橋市（H23.6）	<b>69.4</b>	<b>16.1</b>	<b>32.2</b>	<b>13.4</b>	<b>4.4</b>	<b>9.0</b>	<b>21.6</b>	<b>6.4</b>	—	<b>6.7</b>	<b>3.9</b>	<b>1.7</b>	<b>2.2</b>
女性	69.0	21.1	32.5	14.8	3.6	8.5	21.1	7.5	—	5.0	4.1	1.3	1.8
男性	70.4	9.3	32.2	11.4	5.6	9.5	22.5	5.2	—	9.1	3.7	2.2	1.9

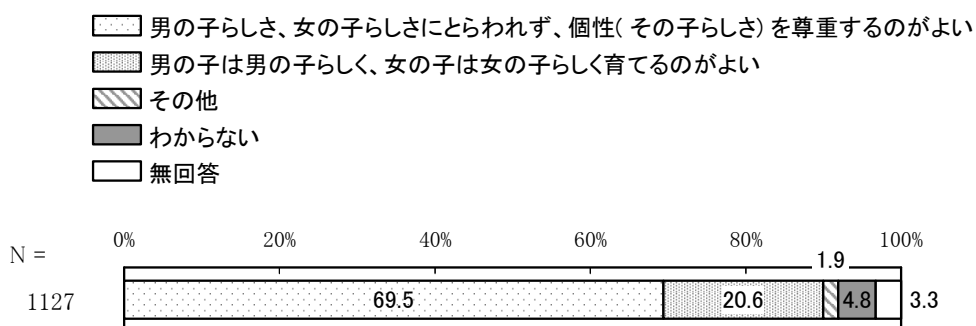
## 6 子どもへの男女共同参画教育について

### 6-1 子育てについての考え方

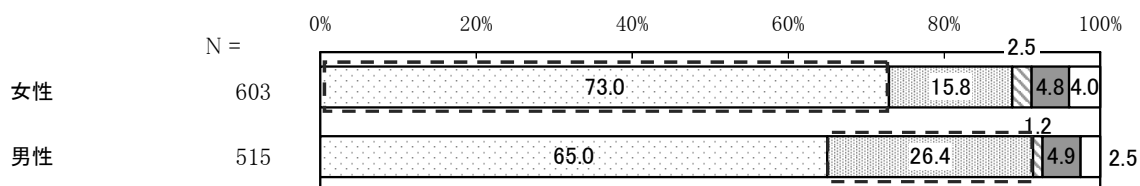
問 14. 子育ての方針について、どのように考えていますか。(1つだけ)

「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい」の割合が69.5%と最も高く、次いで「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が20.6%となっている。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性(その子らしさ)を尊重するのがよい」の割合が高く、女性に比べ、男性で「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい」の割合が高くなっている。



#### 【性別】

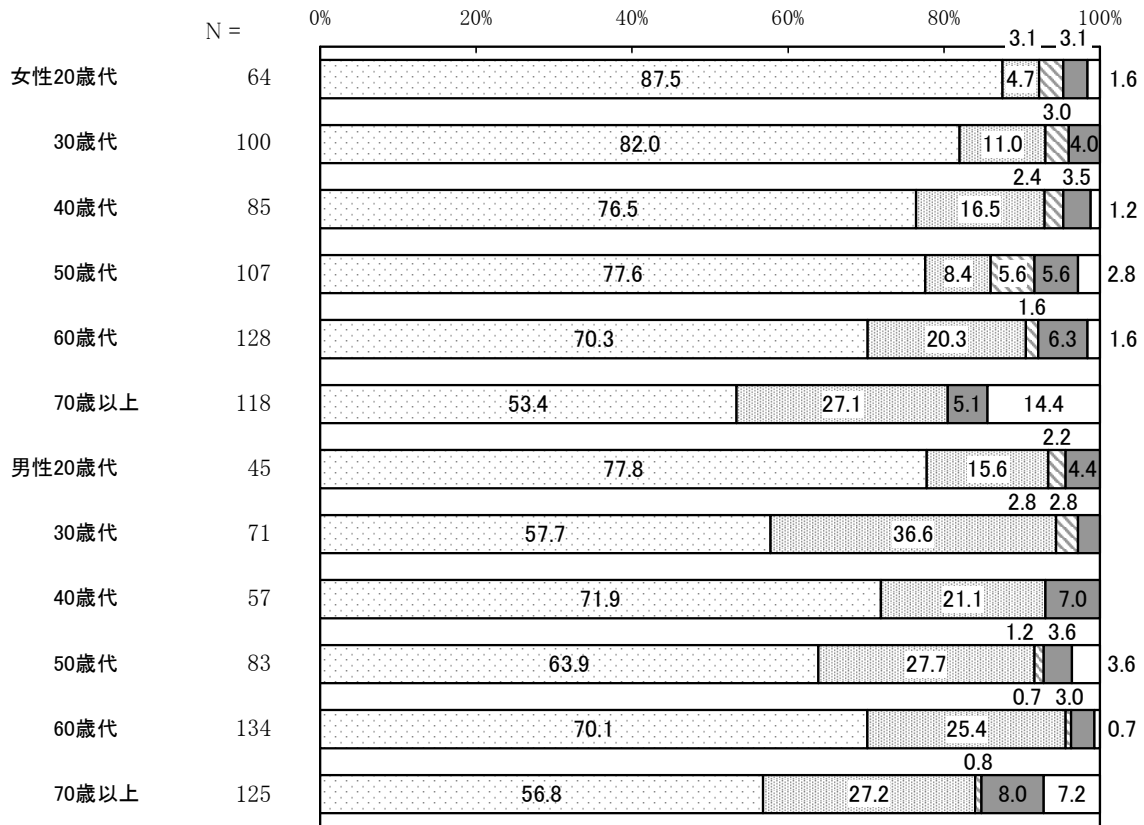
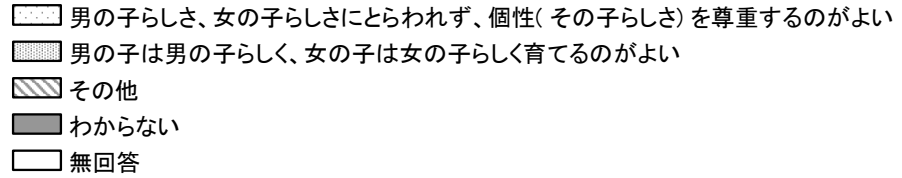




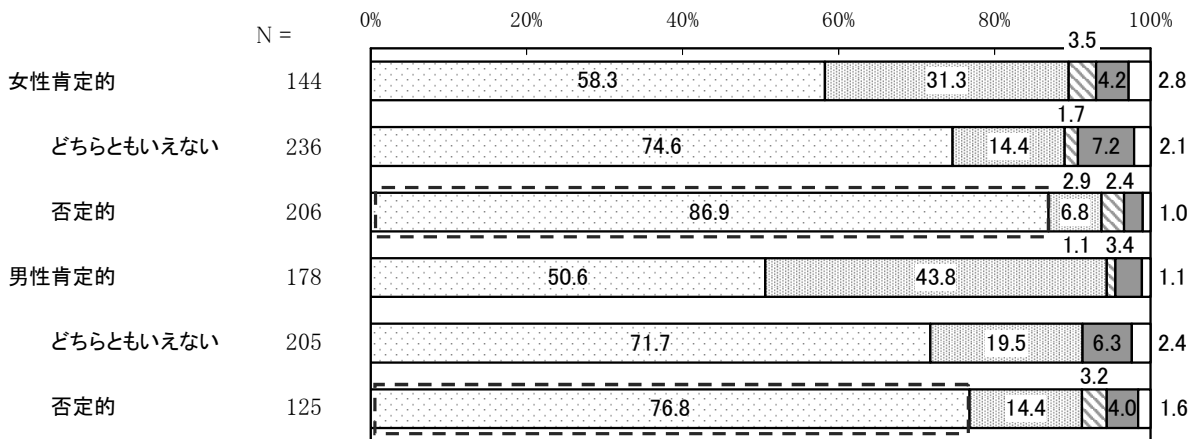
性・年代別でみると、女性で年齢が低いほど「男の子らしさ、女の子らしさにとられず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が高くなる傾向がみられる。

性別役割分担意識別でみると、否定的な女性、男性ともに「男の子らしさ、女の子らしさにとられず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が高くなっている。

【性・年代別】



【性別役割分担意識別】



豊橋市の過去の調査との比較で見ると、過去の調査に比べ、平成26年で「男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性（その子らしさ）を尊重するのがよい」の割合が最も高くなっている。

【経年比較】

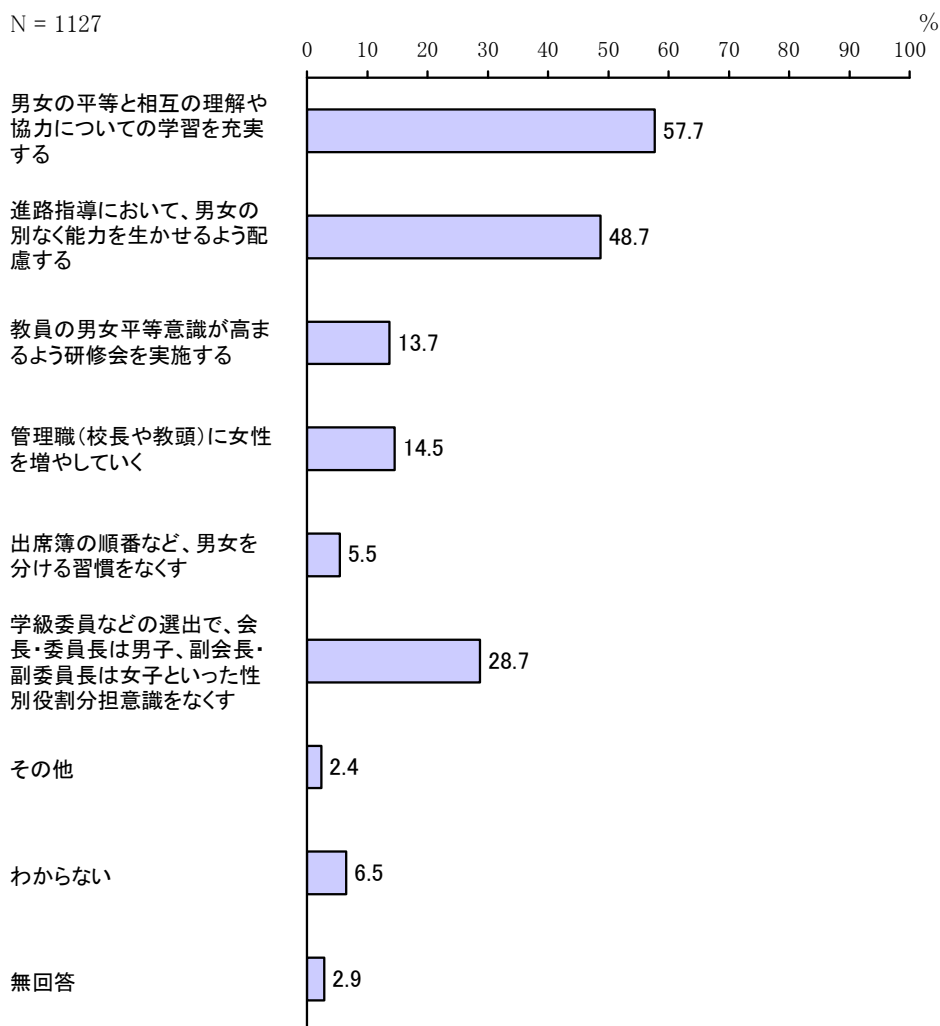
単位：％

	男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい	男の子らしさ、女の子らしさにとらわれず、個性を尊重するのがよい	その他	わからない	無回答
豊橋市（H26.9）	<b>69.5</b>	<b>20.6</b>	<b>1.9</b>	<b>4.8</b>	<b>3.3</b>
女性	73.0	15.8	2.5	4.8	4.0
男性	65.0	26.4	1.2	4.9	2.5
豊橋市（H23.6）	<b>68.6</b>	<b>22.6</b>	<b>3.3</b>	<b>3.8</b>	<b>1.7</b>
女性	75.5	15.9	4.3	2.7	1.7
男性	60.3	30.9	2.2	5.4	1.3
豊橋市（H20.5）	<b>62.3</b>	<b>28.0</b>	<b>4.1</b>	<b>3.2</b>	<b>2.4</b>
女性	67.7	21.7	5.8	3.4	1.4
男性	56.0	36.7	2.2	3.0	2.2
豊橋市（H17.5）	<b>55.9</b>	<b>33.9</b>	<b>3.3</b>	<b>3.3</b>	<b>3.6</b>
女性	61.6	27.0	3.9	4.1	3.4
男性	48.4	43.5	2.3	2.3	3.5
豊橋市（H13.8）	<b>61.5</b>	<b>29.1</b>	<b>3.4</b>	<b>3.5</b>	<b>2.6</b>
女性	66.9	24.3	3.9	2.8	2.2
男性	54.8	36.2	2.8	3.6	2.6

## 6-2 男女平等のための学校教育のあり方

問 15. 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で何が重要だと思いますか。(主なものを2つ)

「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が57.7%と最も高く、次いで「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が48.7%、「学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の割合が28.7%となっている。



性別でみると、大きな差異はみられない。

性・年代別でみると、他に比べ、女性40歳代から60歳代で「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が高くなっている。また、男女ともに40歳代で「学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす」の割合が高くなっている。

## 【性別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性	603	59.5	50.6	12.6	12.8	4.8	27.7	1.7	7.0	3.5
男性	515	55.7	46.8	15.1	16.1	6.4	29.1	3.3	6.0	2.3

## 【性・年代別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性 20歳代	64	54.7	42.2	7.8	26.6	14.1	31.3	3.1	4.7	—
30歳代	100	60.0	51.0	15.0	17.0	7.0	29.0	—	6.0	—
40歳代	85	63.5	44.7	15.3	18.8	3.5	37.6	1.2	3.5	—
50歳代	107	65.4	50.5	20.6	12.1	0.9	29.0	1.9	6.5	0.9
60歳代	128	65.6	54.7	10.2	7.8	3.9	25.0	3.1	6.3	1.6
70歳以上	118	46.6	54.2	6.8	3.4	3.4	19.5	0.8	12.7	15.3
男性 20歳代	45	53.3	51.1	15.6	13.3	13.3	20.0	6.7	8.9	—
30歳代	71	56.3	43.7	8.5	18.3	9.9	23.9	8.5	5.6	—
40歳代	57	52.6	43.9	8.8	26.3	3.5	40.4	5.3	5.3	1.8
50歳代	83	57.8	50.6	15.7	18.1	7.2	30.1	2.4	1.2	1.2
60歳代	134	58.2	45.5	20.1	17.2	5.2	31.3	0.7	5.2	1.5
70歳以上	125	53.6	47.2	16.0	8.8	4.0	27.2	1.6	9.6	6.4

性・婚姻別で見ると、既婚の女性で「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」「進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する」の割合が高くなっている。

【性・婚姻別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
女性既婚	407	61.4	55.3	14.5	12.5	2.9	27.0	2.2	6.4	1.5
未婚	173	55.5	39.3	8.1	15.0	8.7	30.1	0.6	8.1	8.1
男性既婚	384	57.3	47.1	15.1	16.9	5.7	29.4	2.9	5.2	1.8
未婚	116	53.4	44.8	15.5	14.7	9.5	28.4	5.2	7.8	2.6

【経年比較】

豊橋市の過去の調査との比較で見ると、過去の調査に比べ、平成26年で「男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が最も高くなっている。

単位：％

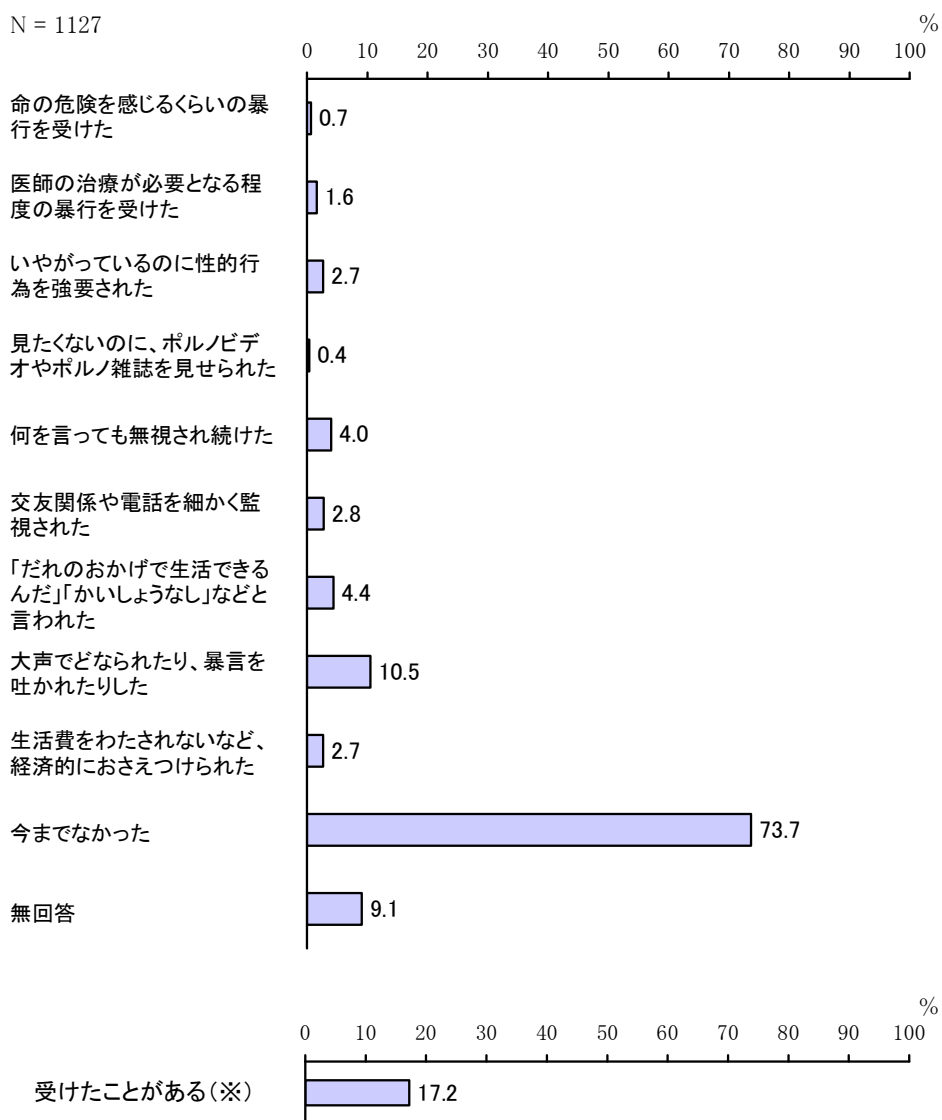
	男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する	教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する	管理職(校長や教頭)に女性を増やしていく	出席簿の順番など、男女を分ける習慣をなくす	会長は男子、副会長は女子といった性別役割分担意識をなくす	その他	わからない	無回答
豊橋市(H26.9)	<b>57.7</b>	<b>48.7</b>	<b>13.7</b>	<b>14.5</b>	<b>5.5</b>	<b>28.7</b>	<b>2.4</b>	<b>6.5</b>	<b>2.9</b>
女性	59.5	50.6	12.6	12.8	4.8	27.7	1.7	7.0	3.5
男性	55.7	46.8	15.1	16.1	6.4	29.1	3.3	6.0	2.3
豊橋市(H23.6)	<b>53.3</b>	<b>43.8</b>	<b>15.4</b>	<b>16.2</b>	<b>7.8</b>	<b>27.5</b>	<b>4.3</b>	<b>5.6</b>	<b>3.1</b>
女性	55.1	46.4	12.9	14.8	6.1	29.7	3.2	6.8	3.0
男性	51.0	40.2	18.1	18.4	10.2	25.3	5.8	4.3	2.6
豊橋市(H20.5)	<b>51.0</b>	<b>47.8</b>	<b>15.3</b>	<b>20.5</b>	<b>6.7</b>	<b>36.1</b>	<b>3.5</b>	—	<b>2.9</b>
女性	51.8	49.1	14.8	21.4	5.9	34.6	2.5	—	2.3
男性	50.6	46.0	16.7	18.8	7.7	36.9	5.0	—	3.6
豊橋市(H17.5)	<b>51.5</b>	<b>54.3</b>	<b>12.0</b>	<b>18.2</b>	<b>5.9</b>	<b>31.9</b>	<b>2.6</b>	—	<b>4.3</b>
女性	53.9	54.9	10.7	20.0	5.4	29.3	2.1	—	4.2
男性	47.7	53.0	14.3	16.4	6.8	36.0	3.5	—	4.2
豊橋市(H13.8)	<b>51.0</b>	<b>57.6</b>	<b>13.3</b>	<b>15.7</b>	<b>6.5</b>	<b>31.0</b>	<b>2.1</b>	—	<b>3.8</b>
女性	52.7	58.8	12.2	17.8	7.1	30.8	1.4	—	3.2
男性	48.8	55.8	15.2	12.7	5.9	31.0	3.1	—	4.1

## 7 配偶者等からの暴力について

### 7-1 夫または妻や恋人から暴力を受けた経験

問 16. これまでに、あなたの配偶者や交際相手から、次のような行為を受けた経験がありますか。  
(いくつでも)

「今までなかった」の割合が73.7%と最も高く、次いで「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が10.5%となっている。全体から「今までなかった」と無回答を除いた“何らかの暴力を受けたことがある(※)”人の割合は17.2%となっている。



※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

性別でみると、男性に比べ、女性で「大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした」の割合が高く、女性に比べ、男性で「今までなかった」の割合が高くなっている。また、男性に比べ、女性で「何らかの暴力を受けたことがある（※）」割合が高く25.2%となっている。

性・年代別でみると、他に比べ、女性40歳代で「今までなかった」の割合が低く、「何らかの暴力を受けたことがある（※）」割合が42.4%となっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	いやがっているのに性的行為を強要された	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしよつなし」などと言われた	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられた	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性	603	1.3	2.8	5.0	0.8	4.5	4.1	6.8	15.4	4.6	68.2	6.6	25.2
男性	515	—	0.2	—	—	3.1	1.4	1.7	4.5	0.4	80.4	11.8	7.8

【性・年代別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	いやがっているのに性的行為を強要された	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしよつなし」などと言われた	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられた	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性 20歳代	64	1.6	1.6	—	—	1.6	6.3	1.6	10.9	3.1	78.1	6.3	15.6
30歳代	100	—	1.0	6.0	1.0	4.0	5.0	9.0	17.0	5.0	71.0	1.0	28.0
40歳代	85	4.7	5.9	7.1	—	9.4	11.8	12.9	29.4	8.2	55.3	2.4	42.4
50歳代	107	1.9	2.8	8.4	0.9	4.7	1.9	6.5	15.9	2.8	75.7	2.8	21.5
60歳代	128	0.8	3.1	3.1	1.6	3.9	2.3	6.3	11.7	4.7	70.3	6.3	23.4
70歳以上	118	—	2.5	4.2	0.8	3.4	0.8	4.2	10.2	4.2	60.2	18.6	21.2
男性 20歳代	45	—	—	—	—	2.2	2.2	4.4	4.4	2.2	86.7	6.7	6.7
30歳代	71	—	—	—	—	—	2.8	2.8	8.5	—	83.1	7.0	9.9
40歳代	57	—	—	—	—	3.5	3.5	3.5	5.3	1.8	87.7	1.8	10.5
50歳代	83	—	—	—	—	6.0	1.2	1.2	3.6	—	83.1	7.2	9.6
60歳代	134	—	0.7	—	—	1.5	0.7	1.5	3.7	—	80.6	13.4	6.0
70歳以上	125	—	—	—	—	4.8	—	—	3.2	—	71.2	22.4	6.4

※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

性・婚姻別で見ると、他に比べ、未婚の女性で「今までなかった」の割合が低くなっている。

【性・婚姻別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	いやがっているのに性的行為を強要された	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと言われた	大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられた	今までなかった	無回答	何らかの暴力を受けたことがある(※)
女性既婚	407	—	2.2	5.4	1.0	5.2	2.9	7.9	14.0	2.7	71.3	4.2	24.6
未婚	173	3.5	4.0	4.0	—	2.9	6.9	4.0	16.8	8.7	62.4	12.1	25.4
男性既婚	384	—	—	—	—	3.6	1.0	1.8	4.7	0.3	82.0	9.6	8.3
未婚	116	—	0.9	—	—	0.9	2.6	1.7	3.4	0.9	81.9	12.1	6.0

※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合



豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年に比べ、平成26年で“何らかの暴力を受けたことがある（※）”の割合が低くなっている。

【経年比較】

単位：％

	命の危険を感じるくらいの暴行を受けた	医師の治療が必要となる程度の暴行を受けた	いやがっているのに性的行為を強要された	見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた	何を言っても無視され続けた	交友関係や電話を細かく監視された	「だれのおかげで生活できるんだ」とか「かいしようなし」と言われた	大声でどなられたり、暴言を吐かれた	生活費をわたされれないなど、経済的におさえつけられた	医師の治療が必要でない程度の暴行を受けた	今までなかった（そのようなことはなかった）	無回答 H20調査では該当なし（そのようなことはなかった）として分析	何らかの暴力を受けたことがある（※）
豊橋市（H26.9）	<b>0.7</b>	<b>1.6</b>	<b>2.7</b>	<b>0.4</b>	<b>4.0</b>	<b>2.8</b>	<b>4.4</b>	<b>10.5</b>	<b>2.7</b>	—	<b>73.7</b>	<b>9.1</b>	<b>17.2</b>
女性	1.3	2.8	5.0	0.8	4.5	4.1	6.8	15.4	4.6	—	68.2	6.6	25.2
男性	—	0.2	—	—	3.1	1.4	1.7	4.5	0.4	—	80.4	11.8	7.8
豊橋市（H23.6）	<b>1.7</b>	<b>1.4</b>	<b>4.3</b>	<b>0.8</b>	<b>5.6</b>	<b>3.7</b>	<b>5.3</b>	<b>13.2</b>	<b>3.9</b>	—	<b>73.3</b>	<b>4.3</b>	<b>22.4</b>
女性	2.5	2.0	6.6	0.8	4.6	4.3	7.5	17.9	6.3	—	67.8	3.5	28.7
男性	0.6	0.6	1.1	0.6	6.7	2.8	2.4	6.9	0.6	—	80.3	5.2	14.5
豊橋市（H20.5）	<b>1.1</b>	<b>1.9</b>	<b>4.0</b>	<b>0.9</b>	<b>5.9</b>	<b>4.2</b>	<b>5.8</b>	<b>13.9</b>	<b>3.3</b>	<b>3.1</b>	—	<b>76.5</b>	<b>23.5</b>
女性	1.9	3.1	6.2	1.1	5.1	4.2	7.3	18.9	5.5	4.8	—	70.4	29.6
男性	0.2	0.4	1.2	0.6	6.9	4.2	4.0	8.1	0.8	0.8	—	83.7	16.3
豊橋市（H17.5）	<b>0.6</b>	<b>0.9</b>	<b>3.1</b>	<b>0.3</b>	<b>3.7</b>	<b>3.7</b>	<b>4.0</b>	<b>9.7</b>	<b>2.4</b>	<b>3.3</b>	<b>72.2</b>	<b>9.9</b>	<b>17.9</b>
女性	1.0	1.3	5.2	0.3	3.9	3.9	5.4	13.8	3.6	5.2	67.6	8.6	23.8
男性	0.0	0.2	0.2	0.2	3.3	3.3	2.1	4.2	0.7	0.7	78.7	11.4	9.9
豊橋市（H13.8）	<b>1.0</b>	<b>1.4</b>	<b>4.3</b>	<b>0.6</b>	<b>3.5</b>	<b>2.8</b>	<b>3.9</b>	<b>8.3</b>	<b>2.2</b>	<b>3.9</b>	<b>68.5</b>	<b>15.6</b>	<b>15.9</b>
女性	1.8	2.4	6.9	1.0	3.9	3.4	5.7	12.6	3.4	5.9	65.1	12.6	22.3
男性	0.0	0.0	1.0	0.3	2.8	2.1	1.6	3.1	0.5	1.6	74.4	18.3	7.3

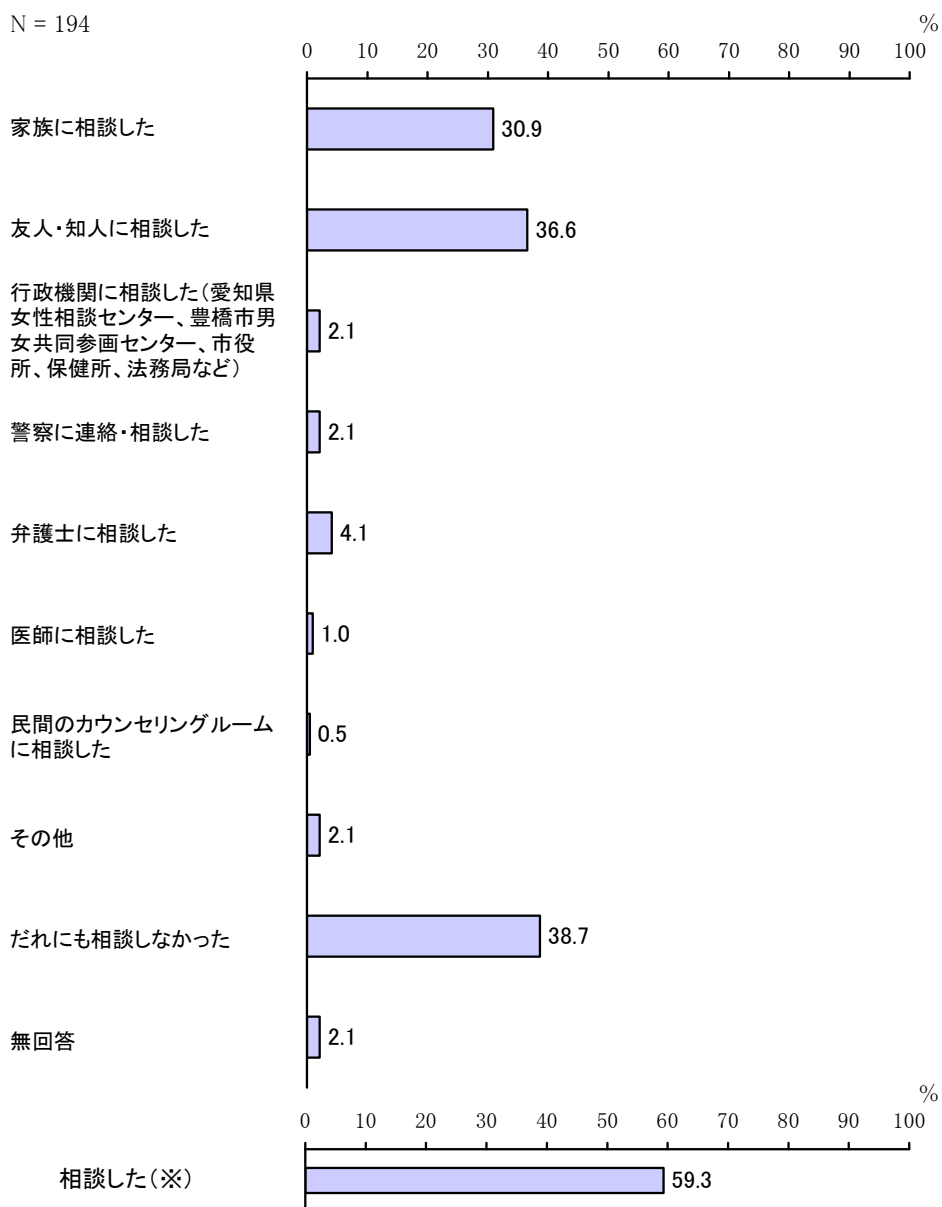
※ 全体から「今までなかった」と「無回答」を除いた割合

## 7-2 暴力行為についての相談相手

<問 16 で該当した方にお聞きします>

問 16-1. これまでに配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。(いくつでも)

「だれにも相談しなかった」の割合が 38.7%と最も高く、次いで「友人・知人に相談した」の割合が 36.6%、「家族に相談した」の割合が 30.9%となっている。全体から「だれにも相談しなかった」と無回答を除いた“相談した(※)”人の割合は 59.3%となっている。



※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

性別で見ると、男性に比べ、女性で「家族に相談した」「友人・知人に相談した」の割合が高くなっている。女性に比べ、男性で「だれにも相談しなかった」の割合が高く 60.0%となっているが、女性においても 32.9%となっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した(愛知県女性相談センター、豊橋市男女共同参画センター、市役所、保健所、法務局など)	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
女性	152	32.9	40.8	2.6	2.6	4.6	1.3	0.7	2.6	32.9	2.0	65.1
男性	40	22.5	20.0	—	—	2.5	—	—	—	60.0	2.5	37.5

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

性・年代別で見ると、いずれの年代でも、男性に比べ女性で“相談した（※）”の割合が高くなっている。

【性・年代別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した（愛知県女性相談センター、豊橋市男女共同参画センター、市役所、保健所、法務局など）	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した（※）
女性 20 歳代	10	70.0	70.0	10.0	20.0	10.0	—	—	—	10.0	—	90.0
30 歳代	28	25.0	50.0	—	3.6	3.6	—	—	—	25.0	3.6	71.4
40 歳代	36	22.2	50.0	5.6	2.8	8.3	—	—	—	38.9	—	61.1
50 歳代	23	52.2	43.5	4.3	—	4.3	4.3	4.3	—	26.1	—	73.9
60 歳代	30	30.0	33.3	—	—	3.3	—	—	3.3	36.7	3.3	60.0
70 歳以上	25	28.0	12.0	—	—	—	4.0	—	12.0	44.0	4.0	52.0
男性 20 歳代	3	—	33.3	—	—	—	—	—	—	33.3	33.3	33.3
30 歳代	7	—	—	—	—	—	—	—	—	100.0	—	—
40 歳代	6	16.7	16.7	—	—	—	—	—	—	66.7	—	33.3
50 歳代	8	37.5	50.0	—	—	12.5	—	—	—	37.5	—	62.5
60 歳代	8	25.0	12.5	—	—	—	—	—	—	62.5	—	37.5
70 歳以上	8	37.5	12.5	—	—	—	—	—	—	50.0	—	50.0

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

性・婚姻別で見ると、未婚の女性で「家族に相談した」の割合が高く、未婚の男性で「だれにも相談しなかった」の割合が高くなっている。

【性・婚姻別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	家族に相談した	友人・知人に相談した	行政機関に相談した(愛知県女性相談センター、豊橋市男女共同参画センター、市役所、保健所、法務局など)	警察に連絡・相談した	弁護士に相談した	医師に相談した	民間のカウンセリングルームに相談した	その他	だれにも相談しなかった	無回答	相談した(※)
女性既婚	100	29.0	39.0	2.0	2.0	—	1.0	—	3.0	35.0	1.0	64.0
未婚	44	45.5	45.5	4.5	4.5	15.9	2.3	2.3	—	27.3	2.3	70.5
男性既婚	32	28.1	18.8	—	—	3.1	—	—	—	56.3	3.1	40.6
未婚	7	—	14.3	—	—	—	—	—	—	85.7	—	14.3

※ 全体から「だれにも相談しなかった」と「無回答」を除いた割合

豊橋市の過去の調査との比較でみると、過去の調査に比べ、平成26年で“相談した（※）”の割合が最も高くなっている。

【経年比較】

単位：％

	家族	友人・知人	行政機関	警察	弁護士	医師	民間のカウンセリ ンググループ	その他	だれにも相談しな かった	無回答	相談した（※）
豊橋市 (H26.9)	<b>30.9</b>	<b>36.6</b>	<b>2.1</b>	<b>2.1</b>	<b>4.1</b>	<b>1.0</b>	<b>0.5</b>	<b>2.1</b>	<b>38.7</b>	<b>2.1</b>	<b>59.3</b>
女性	32.9	40.8	2.6	2.6	4.6	1.3	0.7	2.6	32.9	2.0	65.1
男性	22.5	20.0	—	—	2.5	—	—	—	60.0	2.5	37.5
豊橋市 (H23.6)	<b>27.2</b>	<b>36.2</b>	<b>5.3</b>	<b>2.9</b>	<b>2.5</b>	<b>2.9</b>	<b>2.5</b>	<b>2.5</b>	<b>43.6</b>	<b>1.6</b>	<b>54.8</b>
女性	31.2	40.5	6.4	2.3	2.9	2.3	2.3	2.9	37.6	1.7	60.7
男性	17.9	23.9	3.0	4.5	1.5	4.5	3.0	1.5	59.7	1.5	38.8
豊橋市 (H20.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	<b>53.3</b>	<b>6.9</b>	<b>39.9</b>
女性	—	—	—	—	—	—	—	—	51.6	5.8	42.6
男性	—	—	—	—	—	—	—	—	56.1	9.8	34.1
豊橋市 (H17.5)	—	—	—	—	—	—	—	—	<b>29.1</b>	<b>50.3</b>	<b>20.6</b>
女性	—	—	—	—	—	—	—	—	28.8	47.9	23.3
男性	—	—	—	—	—	—	—	—	31.0	57.1	11.9

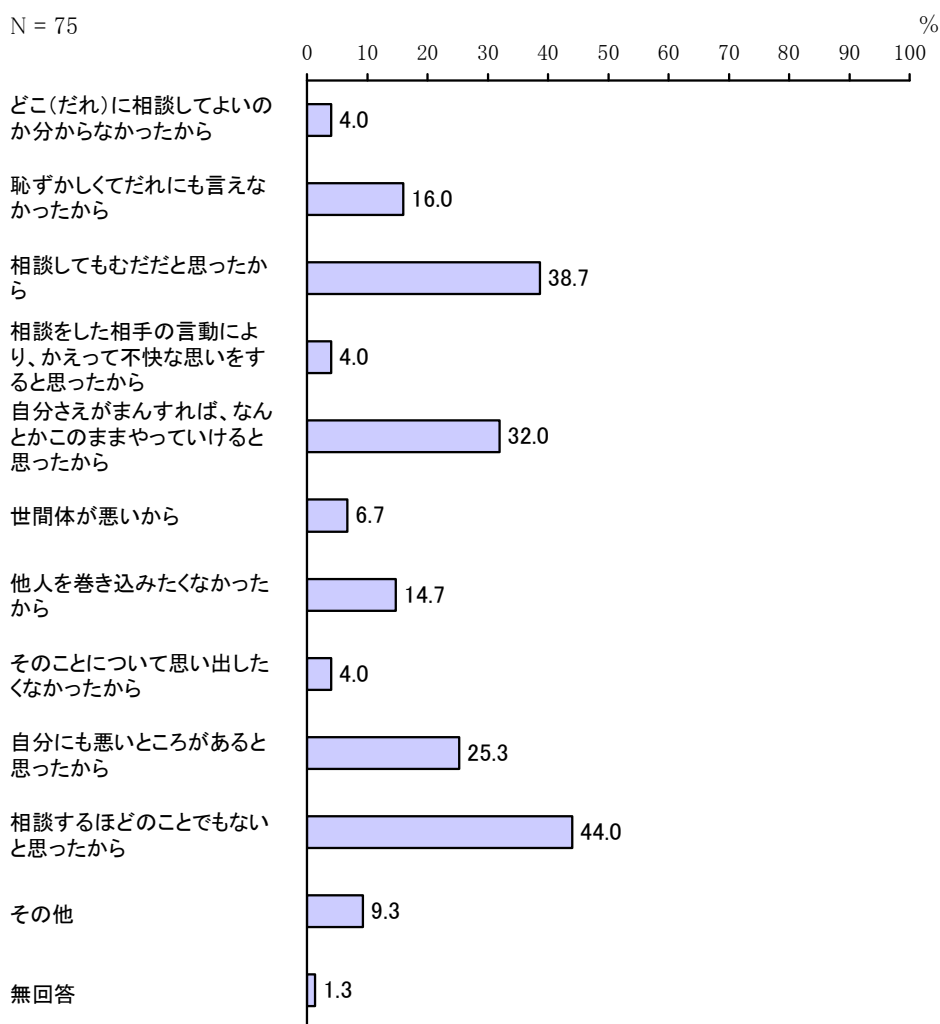
※ 全体から「誰にも相談しなかった」「無回答」を除いた割合

### 7-3 相談をしなかった理由

<問 16-1 で「誰にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします>

問 16-2. だれにも相談しなかった理由は何ですか。(いくつでも)

「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が 44.0%と最も高く、次いで「相談してもむだだと思ったから」の割合が 38.7%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が 32.0%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」の割合が高く、女性に比べ、男性で「自分にも悪いところがあると思ったから」「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	どこ(だれ)に相談してよいのか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談をした相手の言動により、かえって不快な思いをす ると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていける と思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
女性	50	6.0	18.0	42.0	6.0	38.0	6.0	14.0	6.0	20.0	32.0	10.0	—
男性	24	—	12.5	33.3	—	20.8	8.3	16.7	—	33.3	66.7	8.3	4.2



豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年に比べ、平成26年で「相談してもむだだと思ったから」の割合が高く、「相談するほどのことでもないと思ったから」の割合が低くなっている。

【経年比較】

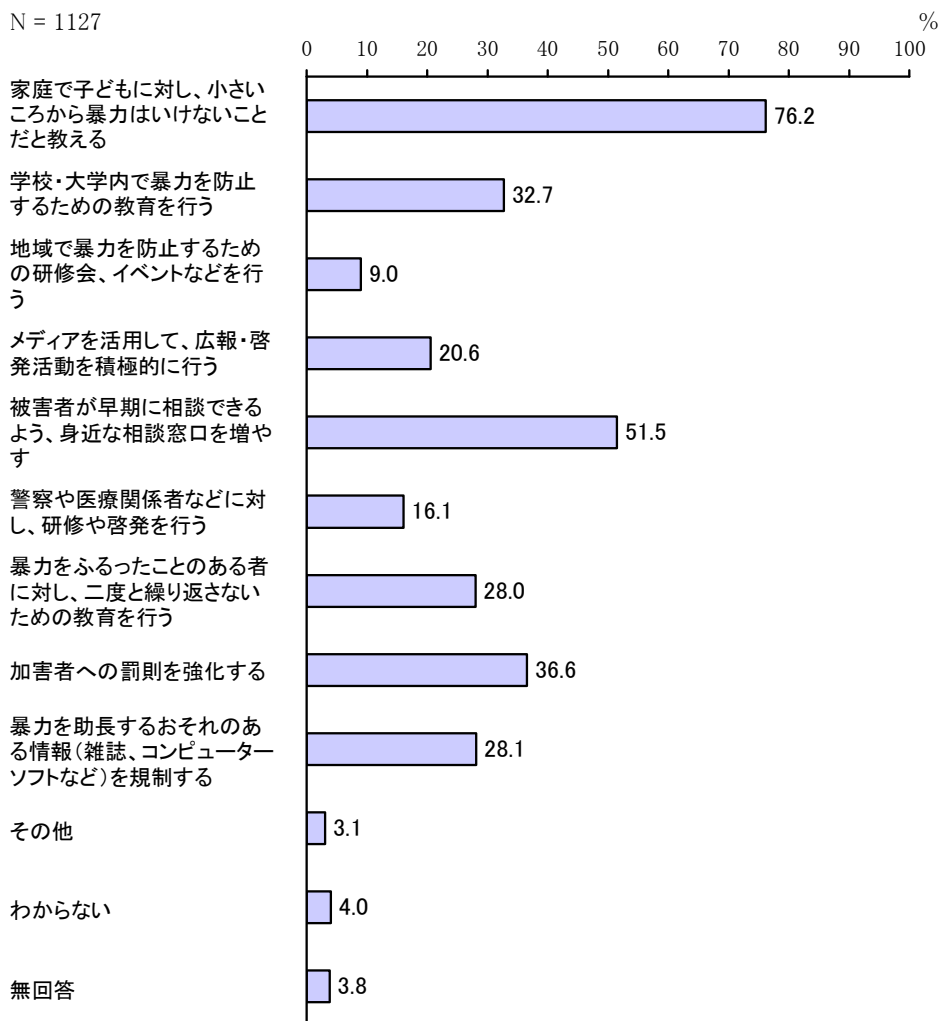
単位：%

	どこ(だれ)に相談してよいか分からなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談してもむだだと思ったから	相談したことがわかると、もっとひどい暴力をうけると思ったから	相談をした相手の言動により、かえって不快な思いをすと思うたから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	そのことについて思い出しなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相談するほどのことでもないと思ったから	その他	無回答
豊橋市 (H26.9)	<b>4.0</b>	<b>16.0</b>	<b>38.7</b>	—	<b>4.0</b>	<b>32.0</b>	<b>6.7</b>	<b>14.7</b>	<b>4.0</b>	<b>25.3</b>	<b>44.0</b>	<b>9.3</b>	<b>1.3</b>
女性	6.0	18.0	42.0	—	6.0	38.0	6.0	14.0	6.0	20.0	32.0	10.0	—
男性	—	12.5	33.3	—	—	20.8	8.3	16.7	—	33.3	66.7	8.3	4.2
豊橋市 (H23.6)	<b>5.7</b>	<b>15.1</b>	<b>33.0</b>	<b>0.9</b>	<b>2.8</b>	<b>25.5</b>	<b>6.6</b>	<b>9.4</b>	<b>4.7</b>	<b>30.2</b>	<b>52.8</b>	—	<b>0.9</b>
女性	7.7	18.5	30.8	0.0	4.6	27.7	6.2	9.2	1.5	23.1	49.2	—	1.5
男性	2.5	7.5	37.5	0.0	0.0	22.5	7.5	10.0	10.0	42.5	60.0	—	0.0
豊橋市 (H20.5)	<b>12.2</b>	<b>12.2</b>	<b>41.5</b>	<b>8.2</b>	<b>4.8</b>	<b>30.6</b>	<b>5.4</b>	<b>12.2</b>	<b>8.8</b>	<b>31.3</b>	<b>40.8</b>	<b>2.7</b>	<b>0.0</b>
女性	12.2	10.2	42.9	8.2	4.1	29.6	5.1	11.2	10.2	25.5	38.8	3.1	0.0
男性	13.0	17.4	39.1	8.7	6.5	30.4	6.5	15.2	6.5	43.5	43.5	2.2	0.0
豊橋市 (H17.5)	<b>5.5</b>	<b>29.1</b>	<b>36.4</b>	<b>9.1</b>	<b>3.6</b>	<b>41.8</b>	<b>9.1</b>	<b>12.7</b>	<b>10.9</b>	<b>23.6</b>	<b>29.1</b>	<b>1.8</b>	<b>1.8</b>
女性	4.8	31.0	31.0	11.9	4.8	40.5	9.5	14.3	14.3	19.0	23.8	2.4	0.0
男性	7.7	23.1	53.8	0.0	0.0	46.2	7.7	7.7	0.0	38.5	46.2	0.0	7.7
豊橋市 (H13.8)	<b>6.8</b>	<b>22.7</b>	<b>47.7</b>	<b>6.8</b>	<b>4.5</b>	<b>34.1</b>	<b>13.6</b>	<b>15.9</b>	<b>9.1</b>	<b>36.4</b>	<b>38.6</b>	<b>6.8</b>	<b>2.3</b>
女性	9.1	21.2	54.5	9.1	6.1	33.3	12.1	15.2	12.1	33.3	39.4	3.0	0.0
男性	0.0	30.0	30.0	0.0	0.0	30.0	20.0	20.0	0.0	50.0	40.0	20.0	10.0

#### 7-4 男女間の暴力を防止するために必要なこと

問 17. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと思いますか。  
(いくつでも)

「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が76.2%と最も高く、次いで「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が51.5%、「加害者への罰則を強化する」の割合が36.6%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」「学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う」「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」「暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う」「暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数（件）	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
女性	603	78.9	35.5	7.3	21.1	55.6	16.3
男性	515	72.8	28.9	11.1	20.2	46.8	16.3

区分	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピューターソフトなど）を規制する	その他	わからない	無回答
女性	30.7	35.8	32.7	2.5	3.6	3.6
男性	25.0	37.9	22.7	3.9	4.5	3.9

性・年代別でみると、女性 30 歳代から 60 歳代で「家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える」の割合が高くなっている。また、女性 20 歳代、30 歳代で「被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす」の割合が高くなっている。

【性・年代別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える	学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う	地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う	メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的にを行う	被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす	警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
女性 20 歳代	64	67.2	34.4	10.9	15.6	68.8	14.1
30 歳代	100	81.0	40.0	7.0	24.0	63.0	24.0
40 歳代	85	84.7	48.2	3.5	20.0	58.8	10.6
50 歳代	107	82.2	40.2	5.6	28.0	57.0	20.6
60 歳代	128	82.0	30.5	8.6	26.6	53.9	15.6
70 歳以上	118	72.9	23.7	8.5	10.2	39.8	11.0
男性 20 歳代	45	73.3	20.0	15.6	26.7	53.3	20.0
30 歳代	71	76.1	36.6	7.0	12.7	43.7	31.0
40 歳代	57	66.7	26.3	14.0	28.1	56.1	22.8
50 歳代	83	66.3	27.7	6.0	21.7	48.2	14.5
60 歳代	134	77.6	26.9	13.4	17.9	46.3	11.9
70 歳以上	125	72.8	32.0	11.2	20.0	41.6	9.6

区分	暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う	加害者への罰則を強化する	暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、コンピュータソフトなど)を規制する	その他	わからない	無回答
女性 20 歳代	35.9	43.8	20.3	3.1	3.1	1.6
30 歳代	34.0	61.0	33.0	2.0	1.0	—
40 歳代	31.8	41.2	21.2	1.2	1.2	—
50 歳代	34.6	32.7	41.1	5.6	5.6	1.9
60 歳代	28.9	25.0	39.1	1.6	4.7	3.1
70 歳以上	22.9	21.2	33.1	1.7	5.1	12.7
男性 20 歳代	37.8	44.4	11.1	4.4	—	4.4
30 歳代	25.4	50.7	15.5	2.8	2.8	1.4
40 歳代	21.1	38.6	12.3	—	5.3	—
50 歳代	26.5	48.2	22.9	6.0	4.8	3.6
60 歳代	23.1	30.6	28.4	3.0	3.0	2.2
70 歳以上	23.2	28.8	29.6	5.6	8.0	8.8

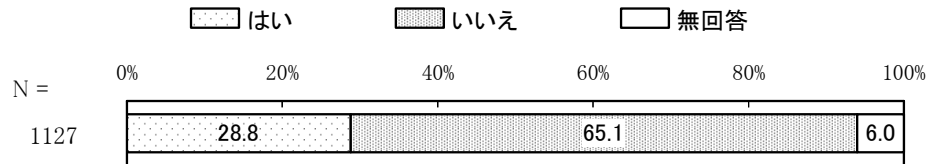
## 7-5 豊橋市DV相談窓口の認知度

問 18. 豊橋市にDV相談窓口があることを知っていましたか。

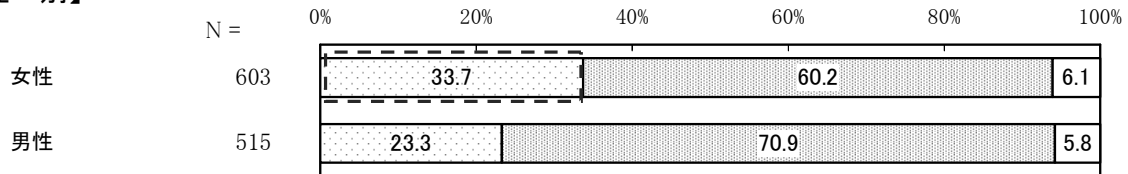
「はい」の割合が28.8%、「いいえ」の割合が65.1%となっている。

性別で見ると、男性に比べ、女性で「はい」の割合が高くなっている。

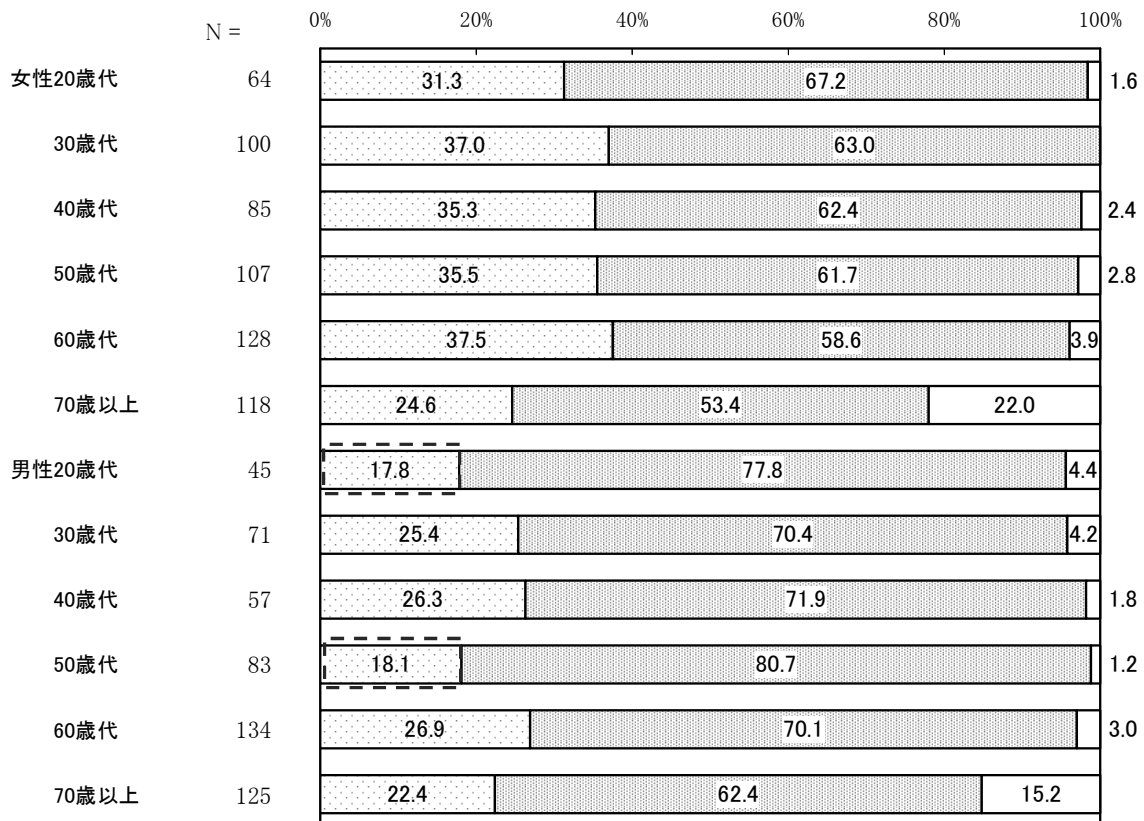
性・年代別で見ると、いずれの年代でも、男性に比べ女性で「はい」の割合が高くなっている。一方、男性の20歳代、50歳代で「はい」の割合が低くなっている。



### 【性別】



### 【性・年代別】



## 8 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について

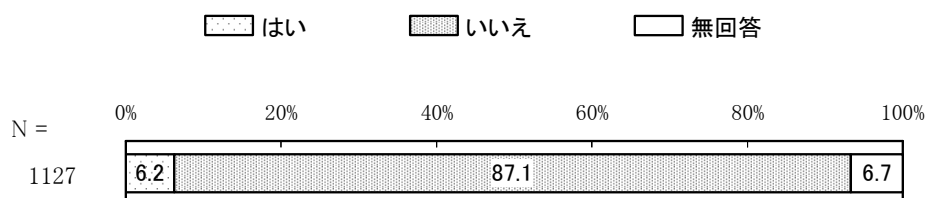
### 8-1 男女共同参画センター「パルモ」の利用の有無

問 19. 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」を利用したことがありますか。

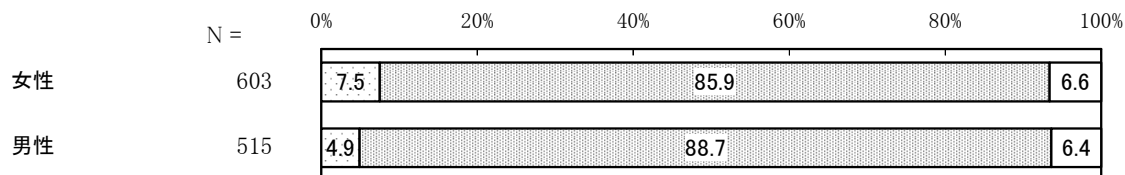
「はい」の割合が6.2%、「いいえ」の割合が87.1%となっている。

性別でみると、大きな差異はみられない。

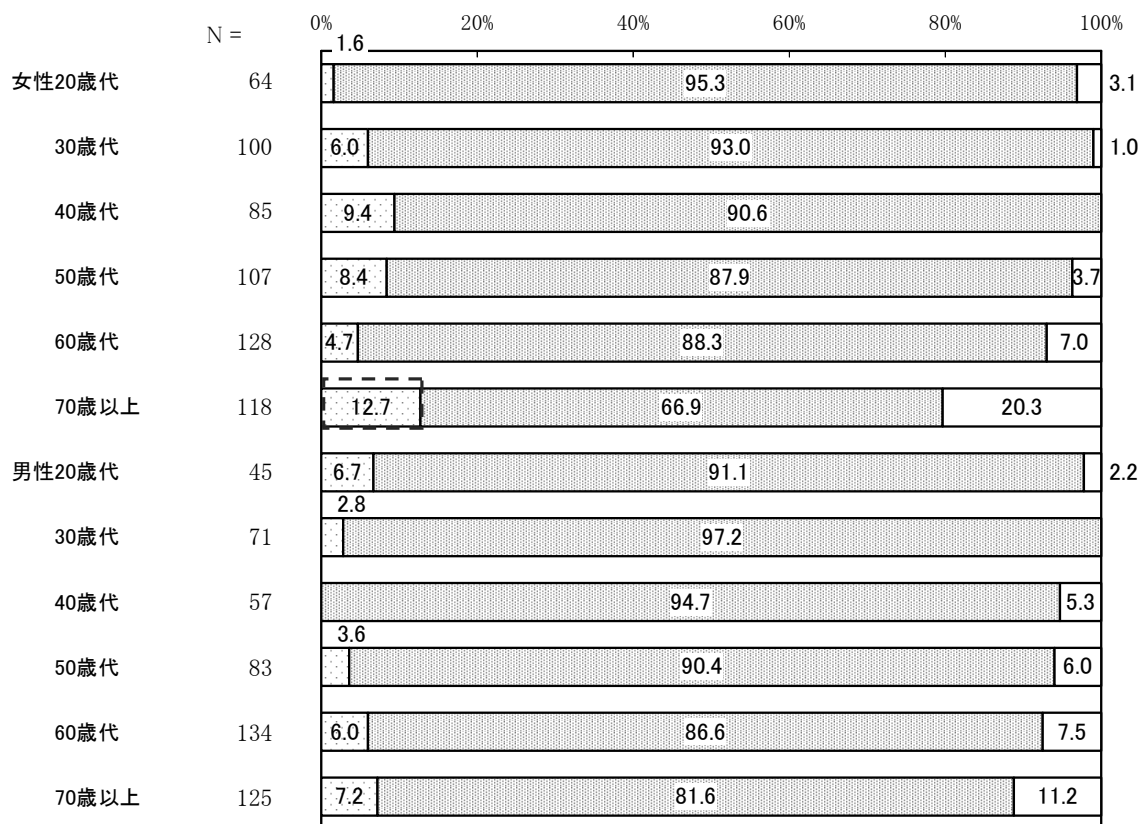
性・年代別でみると、他に比べ、女性70歳以上で「はい」の割合が高くなっている。



#### 【性別】



#### 【性・年代別】



豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成 23 年に比べ、平成 26 年で「はい」の割合が高くなっているが、平成 20 年以前に比べ「はい」の割合が低くなっている。

【経年比較】

単位：%

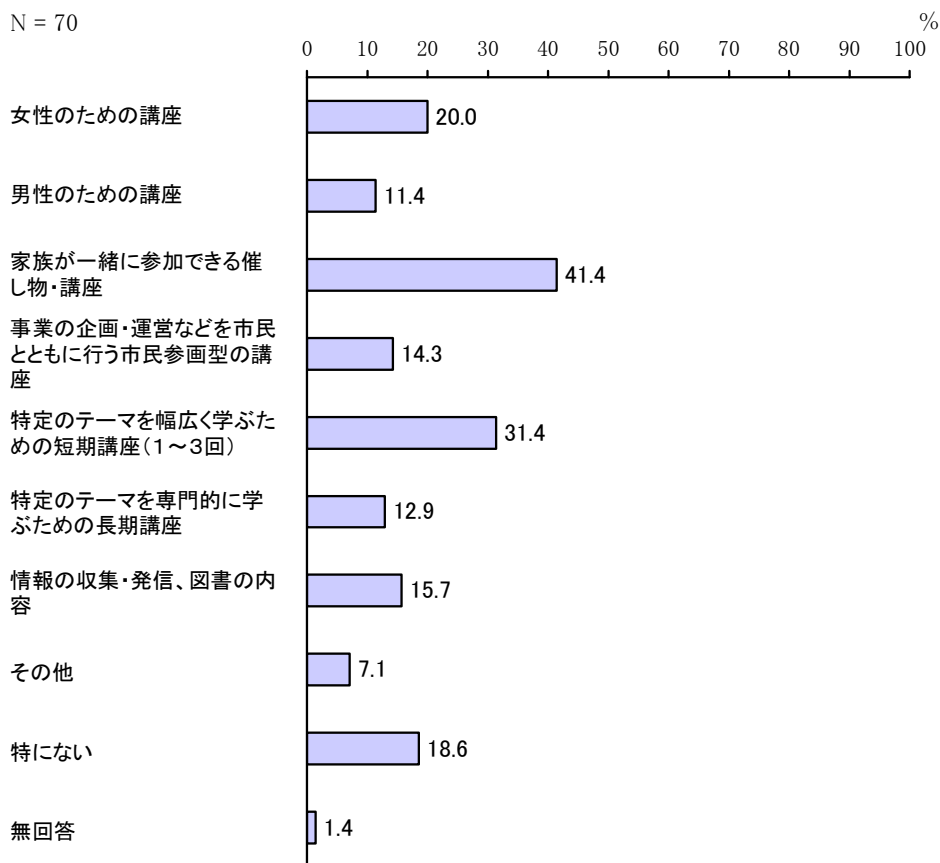
	はい	いいえ	無回答
豊橋市（H26.9）	<b>6.2</b>	<b>87.1</b>	<b>6.7</b>
女性	7.5	85.9	6.6
男性	4.9	88.7	6.4
豊橋市（H23.6）	<b>4.2</b>	<b>93.2</b>	<b>2.6</b>
女性	5.5	92.5	2.0
男性	2.2	95.2	2.6
豊橋市（H20.5）	<b>9.4</b>	<b>83.4</b>	<b>7.1</b>
女性	13.1	80.2	6.7
男性	5.0	87.3	7.7
豊橋市（H17.5）	<b>8.9</b>	<b>85.4</b>	<b>5.7</b>
女性	11.2	85.5	3.3
男性	5.4	85.5	9.1
豊橋市（H13.8）	<b>11.8</b>	<b>81.4</b>	<b>6.8</b>
女性	16.2	79.7	4.1
男性	6.2	84.5	9.3

## 8-2 充実してほしい内容

<問 19 で「はい」と答えた方にお聞きします>

問 19-1. 今後、男女共同参画センターの事業として、どんなことを充実してほしいと思いますか。  
(いくつでも)

「家族と一緒に参加できる催し物・講座」の割合が 41.4%と最も高く、次いで「特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座(1～3回)」の割合が 31.4%、「女性のための講座」の割合が 20.0%となっている。





性別でみると、男性に比べ、女性で「女性のための講座」「特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座（1～3回）」「特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座」の割合が高く、女性に比べ、男性で「男性のための講座」「家族と一緒に参加できる催し物・講座」「事業の企画・運営などを市民とともにやる市民参画型の講座」「情報の収集・発信、図書の内容」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：％

区分	有効回答数（件）	女性のための講座	男性のための講座	家族と一緒に参加できる催し物・講座	事業の企画・運営などを市民とともにやる市民参画型の講座	特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座（1～3回）	特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座	情報の収集・発信、図書の内容	その他	特になし	無回答
女性	45	24.4	6.7	35.6	8.9	42.2	17.8	8.9	6.7	17.8	2.2
男性	25	12.0	20.0	52.0	24.0	12.0	4.0	28.0	8.0	20.0	—

豊橋市の過去の調査との比較でみると、年々、「家族と一緒に参加できる催し物・講座」の割合が高くなっている。

【経年比較】

単位：％

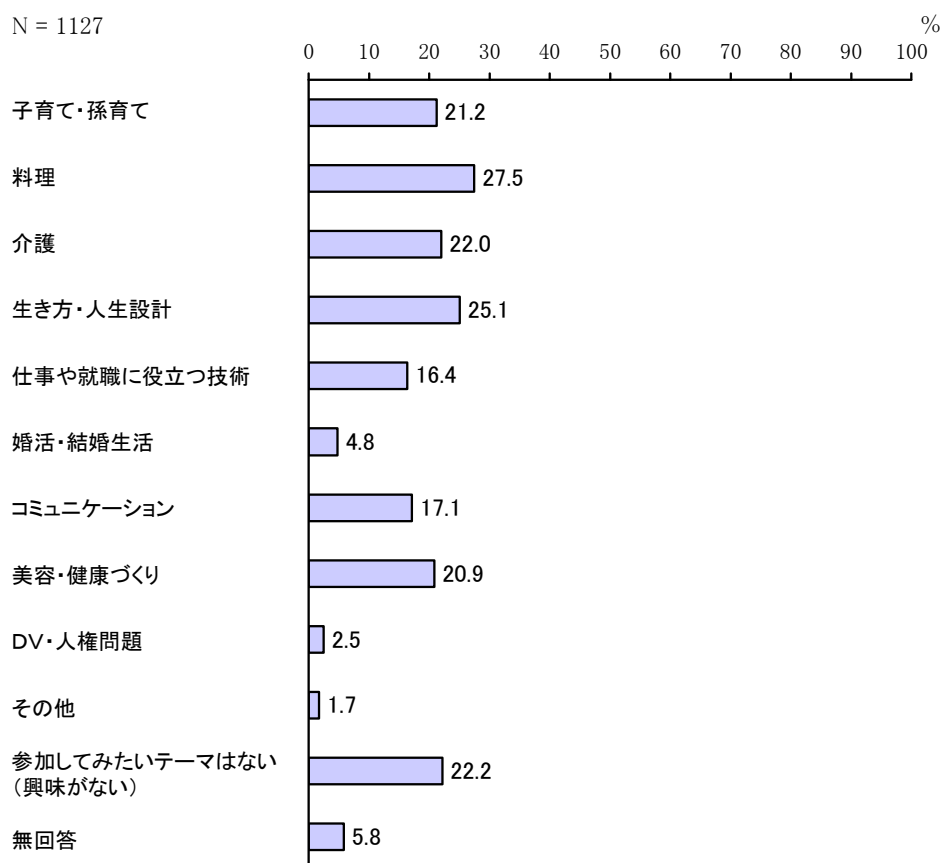
	女性のための講座	男性のための講座	家族と一緒に参加できる催し物・講座	事業の企画・運営などを市民とともに 行う市民参画型の講座	特定のテーマを幅広く学ぶための 短期講座（1～3回）	特定のテーマを専門的に学ぶための 長期講座	情報の収集・発信、図書の内容 （※1）	開館日時や催し物の曜日・時間を かえてほしい	地域に出向いて講座	その他	特にない	無回答
豊橋市 (H26.9)	<b>20.0</b>	<b>11.4</b>	<b>41.4</b>	<b>14.3</b>	<b>31.4</b>	<b>12.9</b>	<b>15.7</b>	—	—	<b>7.1</b>	<b>18.6</b>	<b>1.4</b>
女性	24.4	6.7	35.6	8.9	42.2	17.8	8.9	—	—	6.7	17.8	2.2
男性	12.0	20.0	52.0	24.0	12.0	4.0	28.0	—	—	8.0	20.0	—
豊橋市 (H23.6)	<b>20.0</b>	<b>13.3</b>	<b>37.8</b>	<b>20.0</b>	<b>51.1</b>	<b>28.9</b>	<b>15.6</b>	—	—	<b>6.7</b>	<b>15.6</b>	<b>2.2</b>
女性	21.2	9.1	39.4	21.2	57.6	33.3	18.2	—	—	6.1	9.1	3.0
男性	10.0	30.0	40.0	20.0	40.0	20.0	10.0	—	—	10.0	30.0	0.0
豊橋市 (H20.5)	—	<b>15.3</b>	<b>37.8</b>	<b>10.8</b>	<b>34.2</b>	<b>15.3</b>	<b>23.4</b>	<b>11.7</b>	<b>14.4</b>	<b>10.8</b>	<b>15.3</b>	<b>4.5</b>
女性	—	14.3	39.3	7.1	38.1	16.7	21.4	13.1	11.9	8.3	16.7	4.8
男性	—	20.0	32.0	24.0	24.0	12.0	32.0	8.0	24.0	16.0	8.0	4.0
豊橋市 (H17.5)	—	<b>17.0</b>	<b>25.5</b>	<b>12.8</b>	<b>28.7</b>	<b>24.5</b>	<b>28.7</b>	<b>12.8</b>	<b>16.0</b>	<b>4.3</b>	<b>14.9</b>	<b>5.3</b>
女性	—	13.0	24.6	13.0	36.2	26.1	33.3	17.4	18.8	5.8	11.6	1.4
男性	—	30.4	30.4	13.0	8.7	21.7	17.4	0.0	8.7	0.0	21.7	13.0
豊橋市 (H13.8)	—	<b>8.3</b>	<b>16.9</b>	<b>6.7</b>	<b>14.4</b>	<b>6.4</b>	<b>20.2</b>	<b>5.2</b>	<b>9.0</b>	<b>4.1</b>	<b>16.9</b>	<b>35.9</b>
女性	—	7.1	15.8	6.7	17.9	8.3	23.5	7.7	12.0	3.2	15.4	32.5
男性	—	10.1	19.1	6.2	9.8	4.1	15.5	2.3	5.2	5.7	18.6	39.8

※1：平成20年以前の選択肢は「情報収集・発信の充実」

### 8-3 参加してみたいと思う講座のテーマ

問 20. 男女共同参画センターで開催する講座で男女共同参画に関係のある項目のうち、参加してみたいと思う講座のテーマはどれですか。(いくつでも)

「料理」の割合が27.5%と最も高く、次いで「生き方・人生設計」の割合が25.1%、「参加してみたいテーマはない(興味がない)」の割合が22.2%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「子育て・孫育て」「料理」「介護」「仕事や就職に役立つ技術」「美容・健康づくり」の割合が高く、女性に比べ、男性で「参加してみたいテーマはない（興味がない）」の割合が高くなっている。

性・年代別でみると、他に比べ、男性の30歳代、40歳代、60歳以上で「参加してみたいテーマはない（興味がない）」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	子育て・孫育て	料理	介護	生き方・人生設計	仕事や就職に役立つ技術	婚活・結婚生活	コミュニケーション	美容・健康づくり	DV・人権問題	その他	参加してみたいテーマはない(興味がない)	無回答
女性	603	25.9	31.0	24.7	26.4	18.9	4.3	16.1	30.8	1.8	1.7	16.9	6.8
男性	515	15.5	23.7	18.6	23.7	13.8	5.2	18.6	9.5	3.3	1.7	28.3	4.5

【性・年代別】

単位：%

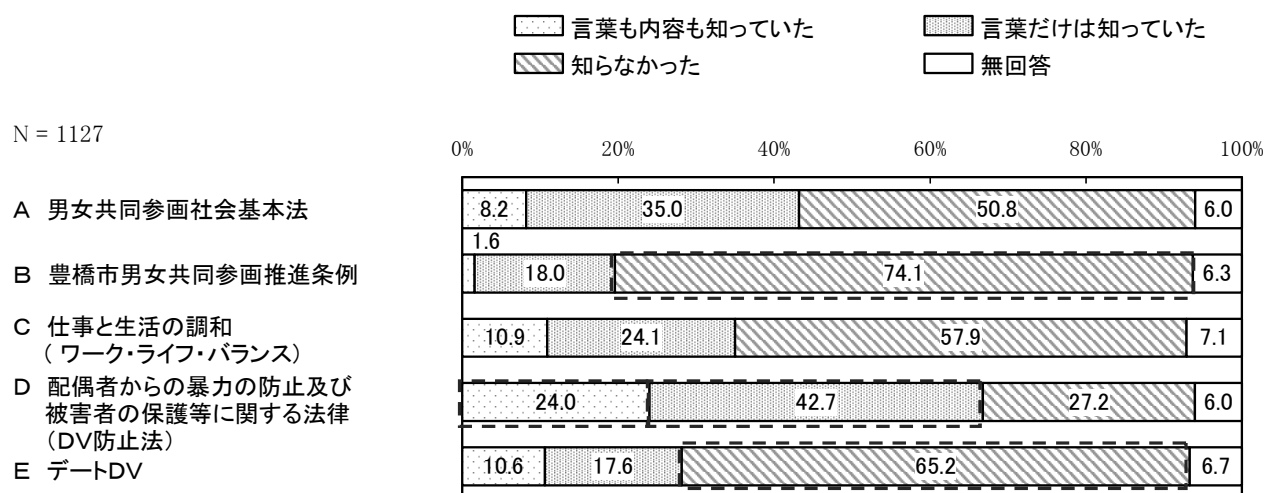
区分	有効回答数(件)	子育て・孫育て	料理	介護	生き方・人生設計	仕事や就職に役立つ技術	婚活・結婚生活	コミュニケーション	美容・健康づくり	DV・人権問題	その他	参加してみたいテーマはない(興味がない)	無回答
女性 20歳代	64	46.9	57.8	10.9	18.8	40.6	18.8	18.8	48.4	1.6	—	4.7	3.1
30歳代	100	56.0	47.0	16.0	21.0	38.0	5.0	18.0	34.0	1.0	1.0	9.0	2.0
40歳代	85	17.6	30.6	29.4	35.3	29.4	5.9	17.6	34.1	—	4.7	16.5	2.4
50歳代	107	20.6	20.6	28.0	31.8	13.1	—	23.4	37.4	4.7	—	20.6	1.9
60歳代	128	19.5	27.3	25.8	26.6	4.7	1.6	10.2	21.9	—	2.3	24.2	7.0
70歳以上	118	6.8	16.1	32.2	23.7	4.2	1.7	11.9	19.5	3.4	1.7	19.5	20.3
男性 20歳代	45	33.3	28.9	11.1	15.6	22.2	24.4	26.7	11.1	6.7	2.2	20.0	2.2
30歳代	71	32.4	23.9	8.5	28.2	19.7	7.0	19.7	1.4	4.2	—	28.2	—
40歳代	57	17.5	19.3	12.3	19.3	12.3	8.8	22.8	5.3	1.8	—	29.8	3.5
50歳代	83	4.8	33.7	18.1	28.9	22.9	3.6	19.3	16.9	—	2.4	18.1	2.4
60歳代	134	14.9	26.1	22.4	21.6	11.9	1.5	15.7	11.9	3.7	3.7	30.6	2.2
70歳以上	125	6.4	14.4	26.4	24.8	4.0	0.8	16.0	8.0	4.0	0.8	35.2	12.0

## 9 男女共同参画社会について

### 9-1 用語の周知

問 21. 次の用語について知っていましたか。(各1つずつ)

『D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律 (DV防止法)』で「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」をあわせた“知っていた(※)”の割合が高く、6割半ばとなっている。一方、『B 豊橋市男女共同参画推進条例』、『E デートDV』で「知らなかった」の割合が高く、6割を超えている。

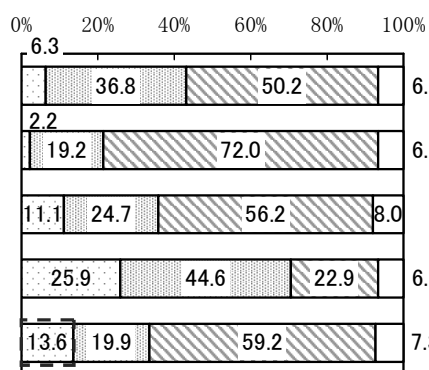


#### 【性別】

性別でみると、男性に比べ、女性で『E デートDV』について「言葉も内容も知っていた」の割合が高くなっている。

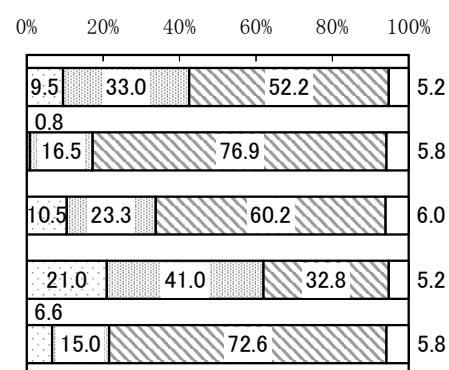
#### <女性>

N = 603



#### <男性>

N = 515

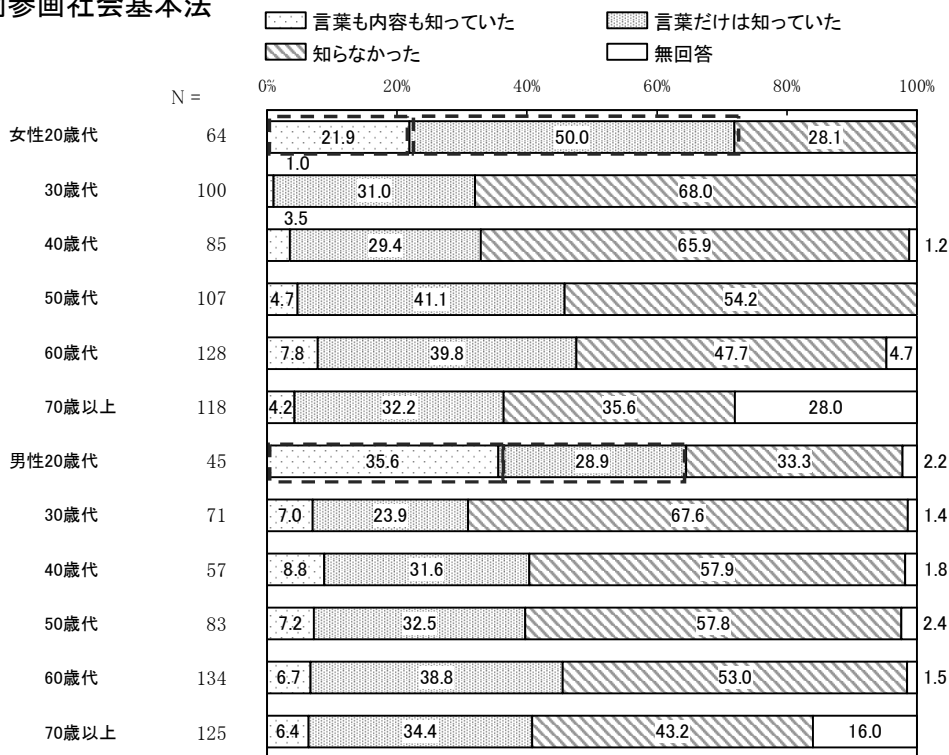


※ 「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

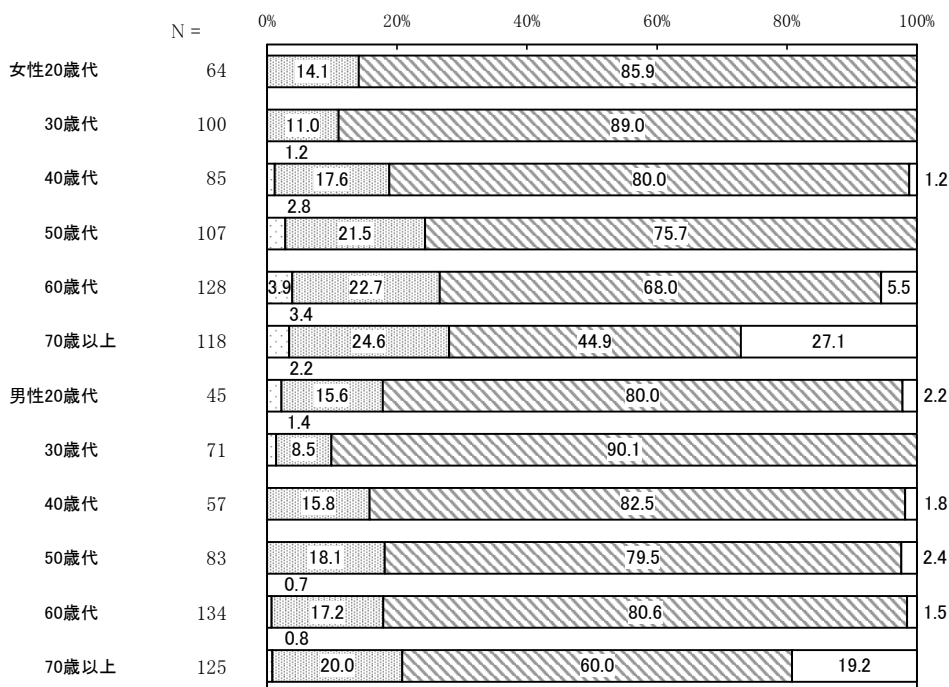
性・年代別でみると、『A 男女共同参画社会基本法』については男女ともに20歳代で“知っていた(※)”の割合が高く、『D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)』については、男女ともに50歳代で“知っていた(※)”の割合が高くなっている。

一方、『E デートDV』については、女性の20歳代で“知っていた(※)”が5割を超えているが、男性20歳代では“知っていた(※)”の割合が2割弱となっている。

【性・年代別】  
A 男女共同参画社会基本法

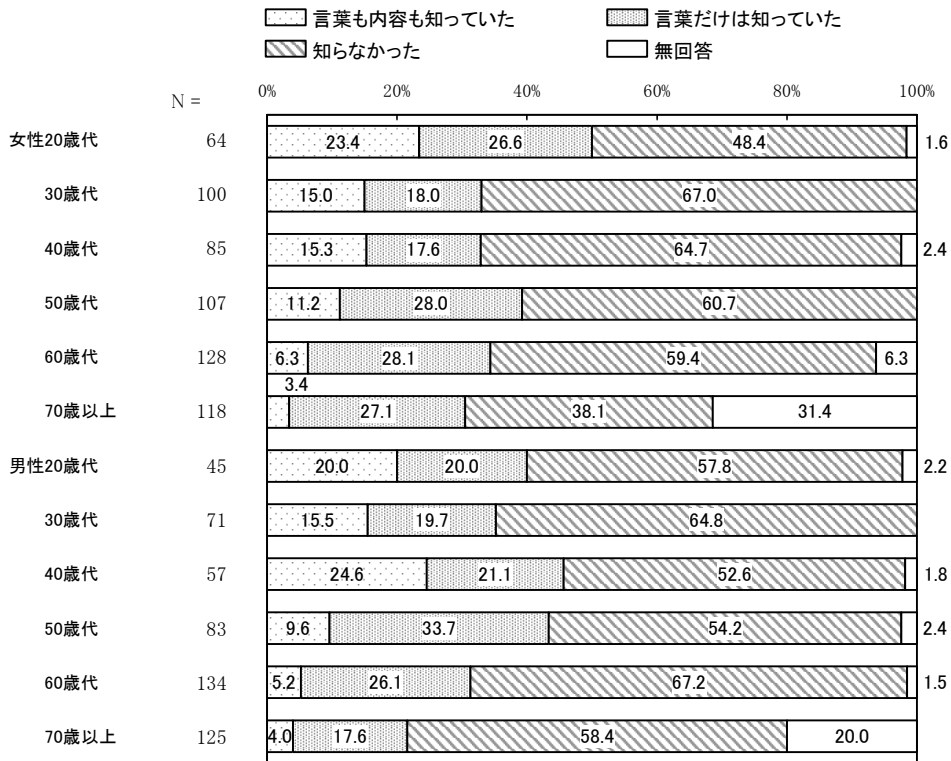


B 豊橋市男女共同参画推進条例

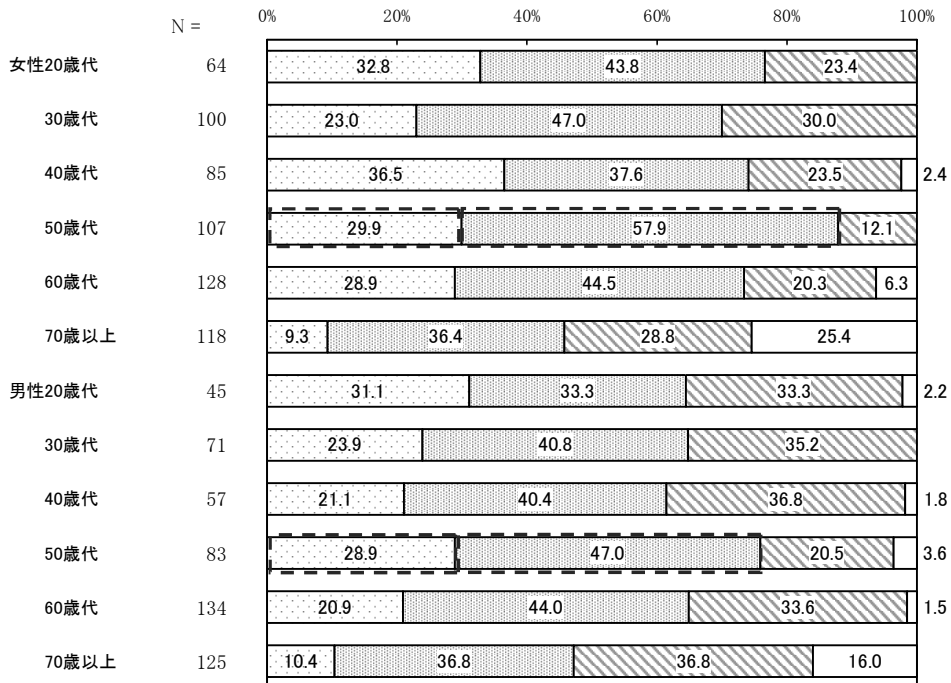


※ 「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

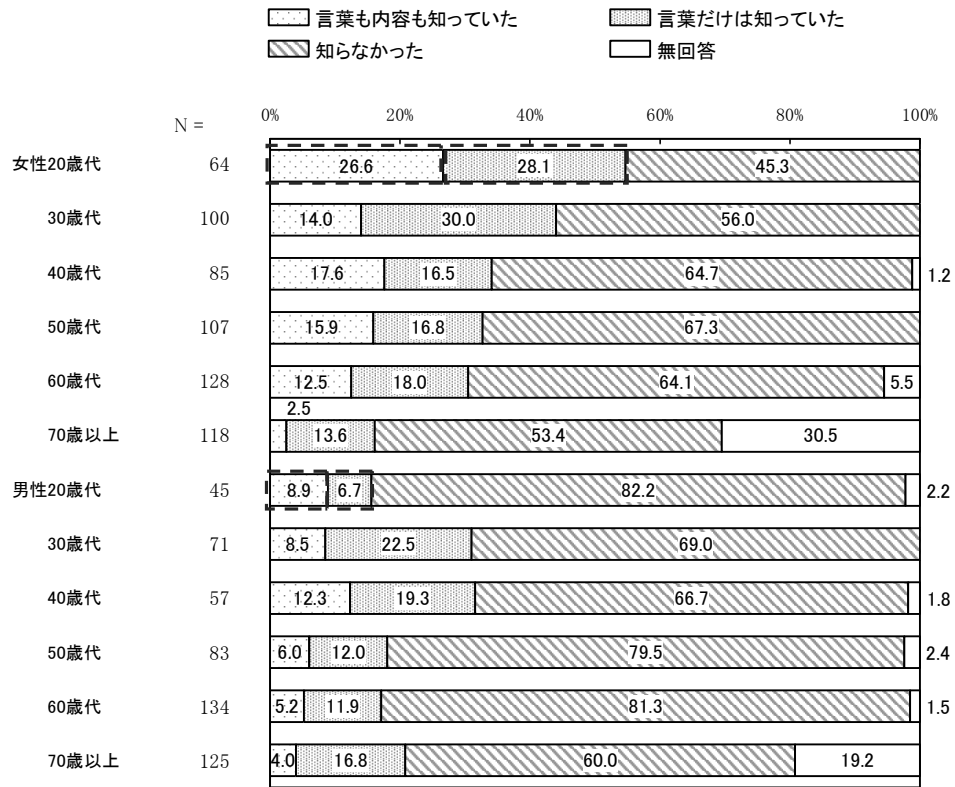
### C 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）



### D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）



# E デートDV





豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年と比較し、“知っていた(※)”の割合が『A 男女共同参画社会基本法』と『B 豊橋市男女共同参画推進条例』で増加し、『D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)』で減少している。

【経年比較】

A 男女共同参画社会基本法

単位：%

	言葉も内容も知っていた	言葉だけ知っていた	知らなかった	無回答	(※)知っていた
豊橋市(H26.9)	<b>8.2</b>	<b>35.0</b>	<b>50.8</b>	<b>6.0</b>	<b>43.1</b>
女性	6.3	36.8	50.2	6.6	43.1
男性	9.5	33.0	52.2	5.2	42.5
豊橋市(H23.6)	<b>5.7</b>	<b>27.9</b>	<b>63.1</b>	<b>3.2</b>	<b>33.7</b>
女性	5.0	27.2	64.7	3.2	32.2
男性	6.7	28.7	62.0	2.6	35.4
豊橋市(H20.5)	<b>8.5</b>	<b>33.0</b>	<b>52.2</b>	<b>6.3</b>	<b>41.5</b>
女性	5.5	36.0	52.1	6.4	41.5
男性	12.1	29.8	51.8	6.3	41.9
豊橋市(H17.5)	<b>7.5</b>	<b>29.7</b>	<b>58.0</b>	<b>4.8</b>	<b>37.2</b>
女性	5.0	30.8	60.6	3.6	35.8
男性	11.2	28.3	54.2	6.3	39.5

B 豊橋市男女共同参画推進条例

単位：%

	言葉も内容も知っていた	言葉だけ知っていた	知らなかった	無回答	(※)知っていた
豊橋市(H26.9)	<b>1.6</b>	<b>18.0</b>	<b>74.1</b>	<b>6.3</b>	<b>19.6</b>
女性	2.2	19.2	72.0	6.6	21.4
男性	0.8	16.5	76.9	5.8	17.3
豊橋市(H23.6)	<b>1.4</b>	<b>15.7</b>	<b>79.0</b>	<b>3.9</b>	<b>17.1</b>
女性	1.3	17.6	77.8	3.3	18.9
男性	1.3	13.2	81.6	3.9	14.5
豊橋市(H20.5)	<b>3.2</b>	<b>17.0</b>	<b>73.0</b>	<b>6.8</b>	<b>20.2</b>
女性	2.5	20.3	70.2	7.0	22.8
男性	3.8	13.1	76.4	6.7	16.9
豊橋市(H17.5)	<b>3.4</b>	<b>18.4</b>	<b>72.3</b>	<b>5.9</b>	<b>21.8</b>
女性	3.3	19.9	72.1	4.7	23.2
男性	3.7	16.4	72.9	7.0	20.1

※ 「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

C 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）

単位：％

	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答	知っていた（※）
豊橋市（H26.9）	<b>10.9</b>	<b>24.1</b>	<b>57.9</b>	<b>7.1</b>	<b>35.1</b>
女性	11.1	24.7	56.2	8.0	35.8
男性	10.5	23.3	60.2	6.0	33.8
豊橋市（H23.6）	<b>7.2</b>	<b>28.9</b>	<b>58.8</b>	<b>5.1</b>	<b>36.1</b>
女性	6.3	28.4	60.9	4.5	34.7
男性	8.4	29.4	57.2	5.0	37.8

D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律（DV防止法）

単位：％

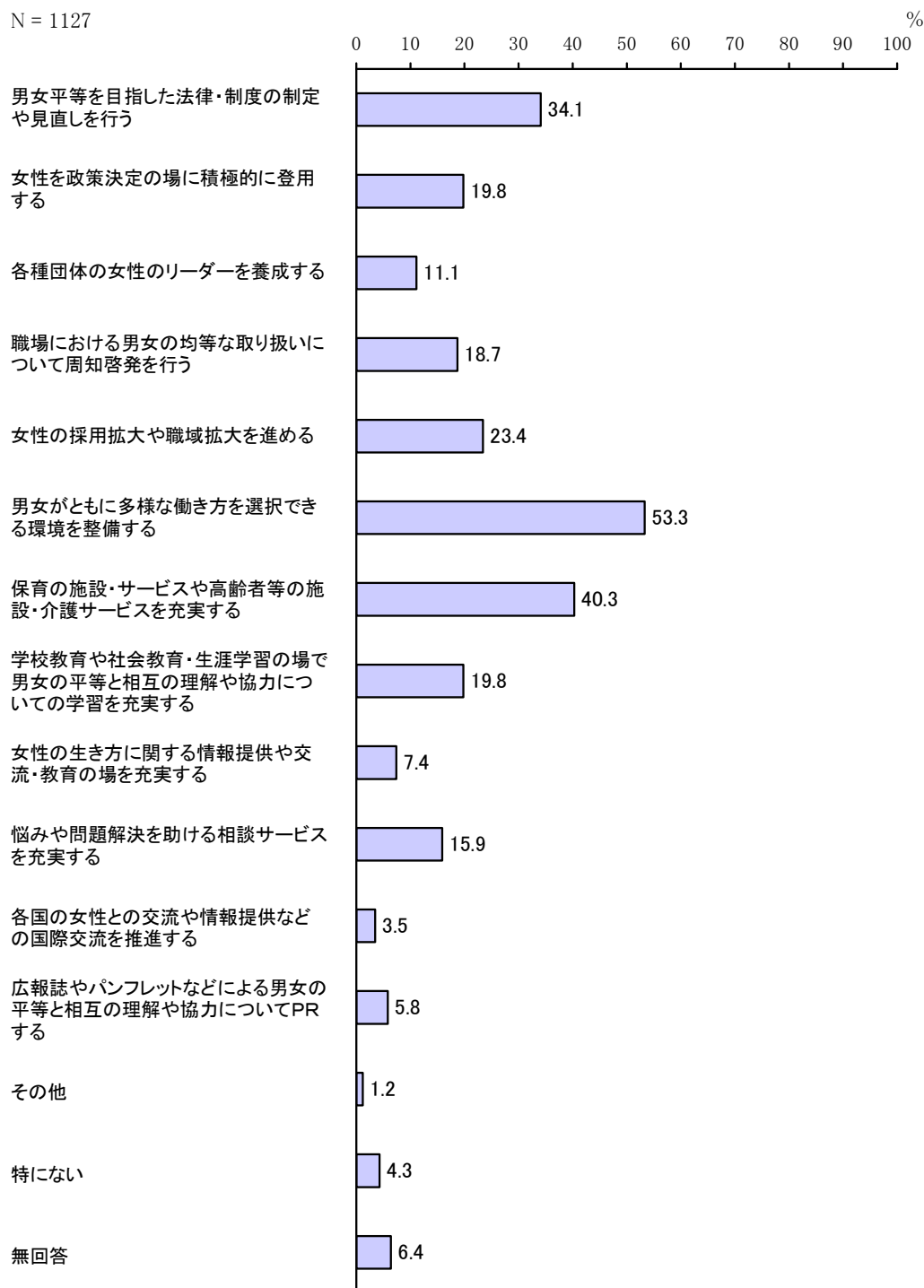
	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった	無回答	知っていた（※）
豊橋市（H26.9）	<b>24.0</b>	<b>42.7</b>	<b>27.2</b>	<b>6.0</b>	<b>66.7</b>
女性	25.9	44.6	22.9	6.6	70.5
男性	21.0	41.0	32.8	5.2	61.9
豊橋市（H23.6）	<b>18.6</b>	<b>58.2</b>	<b>19.2</b>	<b>4.0</b>	<b>76.8</b>
女性	16.1	62.2	17.9	3.8	78.3
男性	21.8	53.6	21.0	3.7	75.4
豊橋市（H20.5）	<b>33.2</b>	<b>42.1</b>	<b>18.5</b>	<b>6.3</b>	<b>75.3</b>
女性	33.9	44.5	15.1	6.6	78.3
男性	31.7	39.5	22.6	6.2	71.2
豊橋市（H17.5）	<b>36.1</b>	<b>34.4</b>	<b>24.1</b>	<b>5.4</b>	<b>70.5</b>
女性	36.5	37.1	21.8	4.6	73.6
男性	36.0	30.6	27.1	6.3	66.6

※ 「言葉も内容も知っていた」と「言葉だけは知っていた」の計

## 9-2 男女共同参画社会実現のために行政に望むこと

問 22. 男女共同参画社会の実現のために、行政（国・県・市）はどのようなことに力を入れればよいと思いますか。（主なものを3つ）

「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」の割合が53.3%と最も高く、次いで「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」の割合が40.3%、「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が34.1%となっている。



性別でみると、男性に比べ、女性で「女性の採用拡大や職域拡大を進める」「保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する」の割合が高く、女性に比べ、男性で「学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する」の割合が高くなっている。

【性別】

単位：%

区分	有効回答数(件)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大を進める	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する
女性	603	32.0	18.7	8.8	19.4	26.2	52.7	45.9
男性	515	36.3	20.6	13.8	17.9	20.2	54.0	33.8

区分	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどによる男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	その他	特になし	無回答
女性	16.3	8.8	15.6	3.0	5.0	1.0	3.3	7.6
男性	24.1	5.6	16.5	4.1	6.8	1.6	5.4	4.9

性・年代別で見ると、他に比べ、女性40歳代、50歳代、男性50歳代で「男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する」の割合が高くなっている。

【性・年代別】

単位：％

区分	有効回答数(件)	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大を進める	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する
女性 20歳代	64	40.6	18.8	15.6	23.4	39.1	51.6	39.1
30歳代	100	40.0	23.0	7.0	16.0	28.0	59.0	52.0
40歳代	85	30.6	23.5	9.4	22.4	36.5	63.5	48.2
50歳代	107	32.7	15.9	4.7	22.4	28.0	67.3	47.7
60歳代	128	32.8	18.0	6.3	20.3	21.9	50.8	51.6
70歳以上	118	20.3	15.3	12.7	14.4	12.7	29.7	34.7
男性 20歳代	45	40.0	22.2	22.2	11.1	26.7	44.4	28.9
30歳代	71	36.6	22.5	4.2	18.3	28.2	57.7	47.9
40歳代	57	35.1	22.8	14.0	19.3	14.0	54.4	31.6
50歳代	83	39.8	22.9	19.3	19.3	15.7	65.1	28.9
60歳代	134	32.8	18.7	16.4	19.4	23.1	57.5	35.8
70歳以上	125	36.8	18.4	9.6	16.8	16.0	44.0	29.6

区分	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する	広報紙やパンフレットなどによる男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	その他	特にない	無回答
女性 20歳代	14.1	15.6	17.2	6.3	4.7	1.6	—	3.1
30歳代	16.0	14.0	8.0	4.0	1.0	—	—	5.0
40歳代	15.3	7.1	14.1	2.4	3.5	1.2	2.4	2.4
50歳代	19.6	5.6	15.0	4.7	4.7	0.9	2.8	2.8
60歳代	15.6	7.0	17.2	—	9.4	1.6	4.7	3.9
70歳以上	16.1	6.8	20.3	2.5	5.1	0.8	7.6	24.6
男性 20歳代	20.0	6.7	20.0	8.9	8.9	6.7	—	6.7
30歳代	18.3	8.5	21.1	8.5	2.8	—	2.8	1.4
40歳代	19.3	7.0	17.5	3.5	8.8	3.5	5.3	3.5
50歳代	28.9	3.6	16.9	1.2	4.8	—	3.6	2.4
60歳代	28.4	5.2	14.2	4.5	6.7	1.5	6.7	2.2
70歳以上	23.2	4.8	14.4	1.6	8.8	0.8	8.8	11.2

豊橋市の過去の調査との比較でみると、平成23年に比べ、平成26年で「男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う」の割合が高く、「悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する」の割合が低くなっている。

【経年比較】

単位：％

	男女平等を目指した法律・制度の制定や見直しを行う	女性を政策決定の場に積極的に登用する	各種団体の女性のリーダーを養成する	職場における男女の均等な取り扱いについて周知啓発を行う	女性の採用拡大や職域拡大を進める	男女がともに多様な働き方を選択できる環境を整備する	保育の施設・サービスや高齢者等の施設・介護サービスを充実する	学校教育や社会教育・生涯学習の場で男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する	女性の生き方に関する情報提供や交流・教育の場を充実する	悩みや問題解決を助ける相談サービスを充実する	各国の女性との交流や情報提供などの国際交流を推進する	広報誌やパンフレットなどによる男女の平等と相互の理解や協力についてPRする	その他	特にない	無回答
豊橋市 (H26.9)	34.1	19.8	11.1	18.7	23.4	53.3	40.3	19.8	7.4	15.9	3.5	5.8	1.2	4.3	6.4
女性	32.0	18.7	8.8	19.4	26.2	52.7	45.9	16.3	8.8	15.6	3.0	5.0	1.0	3.3	7.6
男性	36.3	20.6	13.8	17.9	20.2	54.0	33.8	24.1	5.6	16.5	4.1	6.8	1.6	5.4	4.9
豊橋市 (H23.6)	27.6	15.4	6.2	21.0	22.8	53.2	43.2	23.2	8.1	21.3	4.3	8.8	1.9	5.6	3.4
女性	24.5	15.4	6.1	21.2	25.0	55.2	48.3	20.7	9.0	21.6	5.1	7.8	1.5	5.0	3.5
男性	31.1	15.6	6.3	20.5	20.1	51.2	36.9	26.3	6.9	21.0	3.5	10.4	2.4	6.3	3.2
豊橋市 (H20.5)	23.9	18.3	7.1	15.8	20.8	48.9	48.4	21.2	7.4	14.5	3.0	6.0	1.8	3.2	6.9
女性	23.1	17.8	6.2	14.5	23.9	49.3	54.0	20.0	9.2	14.5	3.0	4.7	2.2	3.4	5.0
男性	24.8	18.8	8.1	16.5	16.7	49.2	41.3	23.4	5.4	14.3	3.2	7.7	1.2	3.2	8.5
豊橋市 (H17.5)	23.5	15.1	7.1	18.3	19.0	43.5	47.4	22.2	9.5	15.2	3.5	7.8	0.9	5.6	5.8
女性	19.4	13.7	6.2	17.3	21.2	45.3	51.0	21.5	10.6	16.8	3.1	8.0	0.8	4.4	5.9
男性	29.2	17.1	8.4	20.1	16.1	41.1	42.3	23.1	8.2	13.3	4.2	7.5	0.9	7.2	5.4
豊橋市 (H13.8)	26.5	17.5	7.4	19.4	20.1	39.2	49.7	22.4	11.5	13.3	3.4	6.0	1.1	5.8	5.1
女性	24.9	16.2	5.7	18.3	23.9	39.6	56.4	22.9	11.0	14.8	2.8	4.5	0.8	5.3	3.9
男性	28.7	19.4	9.6	21.2	15.5	39.3	42.4	22.0	12.7	11.6	4.4	7.8	1.6	6.7	5.2

### Ⅲ 自由意見

寄せられた多くの意見の中から、本調査に直接関係ないものや要望、重複意見等を除き、一部を紹介する。

#### 1 男女の平等感について

- ・何もかも平等にする必要はなく、性差による能力差はあるので、能力に合った活用・参画を目指すべきです。性差に関係なく、能力の高い人が積極的に社会に参画し、見合う報酬を得る、対等な社会が必要だと思います。
- ・まちコンや店で、参加費が女性だけ安くなるのは、不当だと思います。私は、そのようなものに興味はありませんが、料理が安ければ行きます。参加費が男 6,000 円、女 500 円。この差はなんなのでしょうか。まず、そのような所から直していくべきだと思います。もし本当にそれを目指したいのであれば、企業の社員の割合を約 50%女性、残りを男性にすれば、減税になるような法をつくるべきだと思います。
- ・都会や、若い世代の間では、実行できるかもしれませんが、古い慣習が残っている田舎や、高齢者と同居している世帯では、男女が対等な立場になるのは、とうてい無理なことだと思います。
- ・以前、裁判の経験をしましたが、その際 3 回裁判官が変わりました。でも常に、男性の裁判官ばかりでした。やはり考え方も男性的だと、何度もその時思っていました。まだまだ地位のあるポジションには、女性は難しいのだなと感じました。きっとその背景には出産、子育て、家事との両立が難しいのだろうと。男女の平等なんて、本当かと強く感じる経験でした。
- ・男女は平等であるのが望ましいが、役割としてすべて平等である必要は無いと思います。男の人が気持ちよく仕事をし、女の人が家庭を守るというのは、私はよいと思います。
- ・子どもの発病を機に、介護をすることになりました。介護を通して、まだまだ介護は女性の仕事という意識が根強くあるのを感じました。男の人がちょっと手伝うと「えらいねえ」「よくやるね」と褒められることもしばしばあります。TVで、男性の人が介護生活にあると孤独になりやすいなんて言っていましたが、女性だって同じです。男性は「仕事がある、忙しい」とよく言いますが、この仕事に逃げ込んだり、利用したりして、女性の仕事（特に家庭内の）を低く見えています。
- ・男女平等が近年多く叫ばれておりますが、いくら女性が立ち向かおうとしても、男性の意識が依然として変わらないのには驚きます。例えば、職場では男女平等の立場で働くことができても、家に帰れば大半の家事を女性がします。男性はそれを当たり前としています。バランスのとれた生活ができてこそ、女性は社会に出て活躍できるのです。かつて、日本の中心で働いている都議会議員が、女性議員の発言にセクハラ的なひどいヤジを飛ばしても、その人物を罰しようともせず、うやむやにしていました。まさに、日本は男尊女卑以外の何物でもありません。男女平等の法律をいくらつくっても、男性の意識が変わらなければ、女性の向上はないでしょう。能力のある女性が家庭を持ち、子どもを産み育て、さらに社会に出て大きく貢献していくという希望をもっても、今の日本の社会では大変なことではないでしょうか。

- ・女性のリーダー養成云々というより、才能のある人を男女関係なく、認めてほしいです。女性であるがために、釘を打たれる感があります。
- ・男性、女性である前に“自分自身である”ことの大切さや、尊さを重要視し、「男だから」「女だから」ではなく、すべての人が自分らしく生きられるような社会であつたらと思います。

## 2 男女の意思決定について（家庭・政策・方針決定）

- ・政治上の中立性は確保してほしいです。
- ・夫婦の姓を同姓も別姓も選べるようにしてほしいです。
- ・セクハラやパワハラ等のハラスメント問題もあります。女性を対等なパートナーとして尊重していくことが、一番大切なことだと思います。女性を政策決定の場においてリーダーとして登用したとしても、男性の意識が変わらなければ根本的な解決にはならず、女性の意識の変革も求められていると思います。とりあえず、私自身の意識を変えていきます。

## 3 家庭・仕事・地域活動のバランスについて

- ・女性の活躍が今後の企業、社会、地域において増々重要になると思います。
- ・男女が平等に様々な機会に参加することは大切なことですが、子育ては、その時だけしかできない、最も大切なことです。子どもにとって、母親の存在は、何にも代えがたいもの。その時期に、無理に社会に参加することが良いことだとは思えません。その上で、男女が平等であるということは、皆意識の中に育っていくことが良いと思います。
- ・各家族に合ったスタイルで続けて良いと思います。
- ・もっと女性が男性と同じように活動できる社会が実現されてほしいです。性別によって縛られることが、日本の社会では多いような気がします。多様な性が認められてきている昨今、女性だけでなく男性も生きづらい社会になっているのではないのでしょうか。まず、最も身近な家庭において、家事の役割等が平等に分担され、パートナーと互いに協力し合って家族と暮らせるような社会になればと思います。
- ・地域活動等、女性の積極性が無いことから活動がスムーズに行えません。
- ・男性は仕事、女性は家庭でも良いと思いますが、それではお金の面で苦しいので、働かざるを得ません。家に帰ると、義母は、「家事は女の仕事」という考え方なので、家事はすべてやらなくてはならず、協力が得られません。仕事も家事も両立するのは、とても大変だと実感しています。これで、子どもができれば、もっと大変になると思うとうんざりします。保育のサービス、介護のサービス（義父母、義祖母と同居しているため）が充実されるとうれしいです。

## 4 男女の働き方について

- ・制度としては整っていても、結局は意識の問題だと思います。女性が社会に出ていくためには、家庭での負担を減らさないと難しいと思います。



- ・企業の中での感想ですが、優秀な女性はどんどん昇格させるのが望ましいと思います。女性というだけで、収入の面からみても対策を講じていない会社が多いような気がします。優秀な女性はいくらでもいます。その人材を活用する場づくりを、市政で整えることが大事です。
- ・女性の中でも能力のある方もたくさんいます。人のために働きたいと思っている方もたくさんいます。しかし子育てをしている女性は思っている以上に身動きが取れません。安心して預けられる施設、保育、託児がもっと充実すれば、もっとよい国、まちづくりになると思います。働きたくない人が、だらだら仕事しているより、働きたい女性が働いた方がよっぽど人のためになります。
- ・産休制度がしっかり整っていても、産休後復帰して、またすぐ産休されたり、戻ってきても、子どもを保育所の送り迎えなどで、パートタイムのような勤務時間になった人に、どれだけの仕事と責任を任せられるでしょうか。当の本人もやめたらもったいないなどで、半分腰掛けみたいに勤められても、同じ職場の人間（管理者）は迷惑だと思います。こういう現場の人間の気持ちも考えた制度づくりをお願いします。
- ・私は、結婚した次の昇給から、皆と同じ評価をされなくなりました。結婚して、これから産休を取る可能性があるから、下がったそうです。会社に何回も説明を求めたけど、それ以上の回答はありませんでした。こういうことをされると、働く意欲もなくなります。まだまだこういう考え方の会社はいっぱいあるので、会社、経営者には女性に対する理解をしてほしいです。結婚しただけで、何も変わっていないのに、子どもができなかったら、なおさらショック大です。それが少子化問題にもつながるかもしれません。
- ・私は最初の子の出産を期に退職しましたが、大変後悔しました。退職の理由は、義父母に子どもがかわいそうと反対されたからです。今は、子育てに専念できたと考えるようにしていますが、家事優先で考えるようになり、一日の労働時間は少なく、再就職は大変難しいです。パートで働いていましたが、6年働き、体を壊してしまいました。女性が働いていくことは、家族の理解、協力、会社の理解はもちろんですが、意識の改革も必要だと思います。ただ、自分も含め、大人の意識改革は難しいです。方法は男でも女でも、子育てや介護をする者が、その期間、短時間でも働き続ける環境を、再び働けるようになるまで維持してもらえる制度と企業の体制があったらよいのと思います。
- ・男女共同参画社会なんて、男性が本当に女性の身になって、もし子どもを産む（生んだ）としたら等、考えてもらえなければ絶対にありえません。「女性だって働く以上はこうあるべき」とはあまり考えないでほしいです。（子育ては誰がするのか。負担は全部女性にきます）フルタイムの女性のことでなく、パート女性にも目を向けてほしいです。
- ・男性の育児休暇を義務化することが、一番の男女平等社会への近道になるのではないのでしょうか。今後ともがんばってください。
- ・女性が男性と対等に働くための環境が整備されていない。残業があつたりすると、子育て中の女性は働きにくいです（男性も）。男性も女性も仕事の時間が長すぎます。これでは少子化もやむを得ません。もっと子育てを楽しみ、人生を楽しめるような働き方ができないものなのでしょうか。

## 5 子どもへの男女共同参画教育について

- ・男女に限らず、人として差別を意識する必要があると思います。幼児、年少期に行わなければ形成できない人格形成期における意識付け、そして、社会人、高齢期を迎えた時の男女共同参画意識づくりと、その世代でいかにしていくか、子どもの頃からはじまっているのではないのでしょうか。
- ・そもそも男性は男女平等だと思っていない家庭でのお母さん、お父さんの育て方で、この先このような考え方がなくなると良いと思います。そのためには、男性には特に、人は何事も平等だと教育する必要があります。

## 6 配偶者等からの暴力について

- ・私は、夫にDVを10年受け続けました。でも、子どもは私が1人で守り続けました。そのかいあって、子どもたちは自立し、正しい人生を選んでいきました。その時に、周りのDVに対する理解をもっと得られたら、私は痛い目にあわなかったと思います。それが、国、行政の今後の課題ではないでしょうか。

## 7 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について

- ・私は、市の行政に対して関心があり広報などをよく読んだりしていますが、今回の男女共同参画センターや用語が初耳でショックでした。もっと宣伝してください。知らなくて相談できない人もたくさんいると思います（DVなど）。今後は、男女共同で女性も一生働ける環境、子育てしやすい市、市全体で子育てできる市にしていきたいです。

## 8 男女共同参画社会について（取組みについて）

- ・男女平等を目指しているが、ただ女性を優遇するだけの政策が目につきやすく、逆に不満を生んでしまっているように思います。誤解を生まないためにも、社会全体にメリットがあるというわかりやすいメッセージが必要だと思います。
- ・行政等は積極的に取り組む姿勢はあるが、実際には長い習慣から抜けきれず、女性軽視の考え方は根深く残っています。リーダーになる方々が、本心から共同参画を願う法律、行政、地域推進を実行することにより、家族、職場へと浸透すると思います。男性（リーダー）の意識改革を一日も早くお願いしたいです。女性も甘え（家族に逃げる）を捨てるべきだと思います。
- ・一般的な職場で働いて思いましたが、女性はお茶汲みや掃除を半強制的に強いられているにも関わらず、それに対して不満を口にせず、当たり前のようにその状況を受け入れている場面がみられることがありました。女性側の男女平等の意識を啓発していくことが職場や社会を変えていく上で重要だと思います。

男女の平等感について

問1. 次の各場面および分野において、男女の地位は平等になっていると思いませんか。  
A～Fのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

項目	男性の方が 非常に優遇 されている	どちらかと いえば男性 の方が優遇 されている	平等である	どちらかと いえば女性 の方が優遇 されている	女性の方が 非常に優遇 されている	わからない
A 家庭	→ 1	2	3	4	5	6
B 職場	→ 1	2	3	4	5	6
C 学校	→ 1	2	3	4	5	6
D 地域活動の場	→ 1	2	3	4	5	6
E 法律や制度	→ 1	2	3	4	5	6
F しきじたりや 習儀	→ 1	2	3	4	5	6

問2. それでは、社会全体でみた場合には、男女の地位は平等になっていると思いませんか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 男性の方が非常に優遇されている
2. どちらかといえば男性の方が優遇されている
3. 平等である
4. どちらかといえば女性の方が優遇されている
5. 女性の方が非常に優遇されている
6. わからない

男女の意思決定について

問3. 次の各場面における男女の意見の反映のされ方について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。  
A～Eのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

項目	もっと男性の 意見が反映 されるべき	男女の意見が 平等に反映 されている	もっと女性の 意見が反映 されるべき	わからない
A 家庭	→ 1	2	3	4
B 職場	→ 1	2	3	4
C 地域活動の場	→ 1	2	3	4
D 市政の場	→ 1	2	3	4
E 国政の場	→ 1	2	3	4

男女共同参画に関する市民意識調査

アンケートご協力をお願いします

日頃から、豊橋市政に対して深いご理解とご協力をいただき、お礼申し上げます。  
豊橋市では、男女が対等なパートナーとして、それぞれの個性と能力を十分に発揮し、いきいきと暮らすことができる「男女共同参画社会」の実現をめざして、「豊橋市男女共同参画行動計画」を策定するなど、さまざまな取り組みを行っています。  
このたび、社会情勢の変化に対応した効果的な事業を行えるよう、市民の皆様のお考えや実情を調べるためのアンケート調査を実施いたします。調査の実施にあたり、市内在住で20歳以上の方3,000人を無作為に選ばせていただきました。  
調査結果は12月下旬までに取りまとめ、市のホームページやじょうほうひろばなどで公表する予定です。アンケートは無記名方式で、統計的に処理しますので、回答していただく方にご迷惑をおかけすることはありません。  
お忙しいところ恐れ入りますが、調査の主旨をご理解いただくとともに、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

豊橋市長 佐原 光一

平成 26年 9月

男女共同参画社会とは...

「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、もって男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、かつ、共に責任を担うべき社会」と定義されています。  
(男女共同参画社会基本法第2条より)

ご記入にあたってのお願い

1. この調査票は封筒のあて名の方が本人が記入してください。
2. 質問への回答は、指示にそって番号に○をつけていただくものがほとんどです。  
回答で「その他」を選ばれた場合は、その内容を( )内に記入してください。  
また、○をつける代わりに数字を記入していただく質問もあります。
3. 質問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、指示にそってお答えください。
4. 記入後の調査票は無記名のため、同封の返信用封筒(切手不要)に入れて、**9月30日(火)まで**にご返送ください。

※調査についての問い合わせは、以下の担当部署へお願いします。

担当部署：豊橋市 文化市民部 市民協働推進課  
電話：0532-51-2188  
FAX：0532-56-5128



問4. 豊橋市では、現在、政策や方針決定の場への女性の参画状況が男性よりも低い状況にあります。その理由は何だと思えますか。

次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1. 家庭・職場・地域における画定的な性別役割分担、性別意識 |  |
| 2. 男性中心の組織運営                   |  |
| 3. 女性の能力開発の機会が不十分              |  |
| 4. 女性の活動を支援する体制の不足             |  |
| 5. 女性が積極的でない                   |  |
| 6. 家族の支援・協力が少ない                |  |
| 7. その他（具体的に： )                 |  |
| 8. わからない                       |  |

**参考：豊橋市における女性の参画状況**

項目	数値	年度
市の審議会等に占める女性委員の割合	30.6%	H23年度
市職員の管理監督者に占める女性の割合	6.1%	H23年度
学校における女性教員の管理部門(校長・教頭)への登用率	17.0%	H24年度
自治会長に占める女性の割合	3.5%	H24年度
NPO法人における女性代表者数	30.0%	H24年10月

**家庭・仕事・地域活動のバランスについて**

問5. 現在、地理のどのような活動に参加していますか。  
次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

- |                                |  |
|--------------------------------|--|
| 1. 住民の間で親睦を深め、課題を解決する活動（自治会など） |  |
| 2. 子どもの支援にかかわる活動（子ども会など）       |  |
| 3. 高齢者の支援にかかわる活動（老人クラブなど）      |  |
| 4. 女性の支援にかかわる活動（女性団体など）        |  |
| 5. 環境美化活動                      |  |
| 6. 防災活動                        |  |
| 7. その他（具体的に： )                 |  |
| 8. 参加していない                     |  |

問6. 次のA～Gの項目について、1日平均でどのくらいの時間をあてていますか。  
平日と休日、それぞれについて数字を記入してください。  
(まったくしない場合は「0」、30分する場合は「0.5」のように記入してください。)

項目	平日	休日
A 仕事(収入の待たれる労働)	→ 時間	時間
B 家事(掃除・洗濯・炊事等)	→ 時間	時間
C ボランティア・NPO活動	→ 時間	時間
D 地域活動(問5で挙げられている活動など)	→ 時間	時間
E 子育て(乳幼児から学生まで)	→ 時間	時間
F 介護・看護	→ 時間	時間
G 趣味・レジャーなどの余暇活動	→ 時間	時間

問7. 生活の中で「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、希望に最も近いものはどれですか。次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

- |                                |
|--------------------------------|
| 1. 「家庭生活」を優先したい                |
| 2. 「仕事」を優先したい                  |
| 3. 「地域活動」を優先したい                |
| 4. 「家庭生活」と「仕事」をともに優先したい        |
| 5. 「家庭生活」と「地域活動」をともに優先したい      |
| 6. 「仕事」と「地域活動」をともに優先したい        |
| 7. 「家庭生活」と「仕事」と「地域活動」をすべて優先したい |
| 8. わからない                       |

問8. それでは、生活の中で「家庭生活」「仕事」「地域活動」の優先度について、現在の状況に最も近いものはどれですか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

- |                                 |
|---------------------------------|
| 1. 「家庭生活」を優先している                |
| 2. 「仕事」を優先している                  |
| 3. 「地域活動」を優先している                |
| 4. 「家庭生活」と「仕事」をともに優先している        |
| 5. 「家庭生活」と「地域活動」をともに優先している      |
| 6. 「仕事」と「地域活動」をともに優先している        |
| 7. 「家庭生活」と「仕事」と「地域活動」をすべて優先している |
| 8. わからない                        |

## 男女の働き方について

問9. 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どのように思いますか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 賛成する
2. どちらかといえば賛成する
3. どちらともいえない
4. どちらかといえば反対する
5. 反対する

問10. 男性が育児や介護で休みをとることに、どのように思いますか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 積極的にとったほうがよい
2. どちらかというど、とったほうがよい
3. どちらかというど、とる必要はない
4. とる必要はない
5. わからない

問11. 育児や介護で休みをとる男性が少ない現状にありますか、その理由は何だと思えますか。  
次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 職務の理解が得られないから
2. 昇進や昇給に影響する恐れがあるから
3. 取得後の職場復帰への不安があるから
4. 仕事の量や責任が大きすぎるから
5. 休業補償が十分ではなく、家計に影響するから
6. 女性のほうが育児・介護に向いているから
7. 男性自身に「恥ずかしい」「プライドが邪魔をする」などの気持ちがあるから
8. その他（具体的に： )
9. わからない

問12. 女性が仕事をすることについて、どのように思いますか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 産休・育休などを取得しながら仕事を続けるのがよい
2. 子育てを機に退職し、子どもが育ったらフルタイムの仕事に就くのがよい
3. 子育てを機に退職し、子どもが育ったらパートタイムの仕事に就くのがよい
4. 子どもが育つまでは仕事をしないのがよい
5. 結婚するまでは仕事をしないのがよい
6. 女性は仕事をしない方がよい
7. その他（具体的に： )
8. わからない

問13. 結婚や出産を機に仕事をやめる女性が多いですが、その理由は何だと思えますか。  
次の中から主なものを2つ選んで○をつけてください。

1. 家事や育児との両立がむずかしいから
2. 家族の協力や理解が得られないから
3. 育児休業や介護休業などの制度が不十分だから
4. 企業が結婚・出産した女性をきょう傾向があるから
5. 企業が責任ある仕事を女性に任せないから
6. 男性に比べて賃金が安く、職種も限られているから
7. 保育施設の敷や内容が十分でないから
8. 高齢者などの介護との両立が難しいから
9. 子どもが小さいうちは子育てに専念したいと考えているから
10. その他（具体的に： )
11. わからない

## 子どもへの男女共同参画教育について

問14. 子育ての方針について、どのように考えていますか。  
次の中からあてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

1. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい
2. 男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てるのがよい
3. その他（具体的に： )
4. わからない

問15. 男女平等の人間関係をつくるために、学校教育の場で何が必要だと思えますか。  
次の中から主なものを2つ選んで○をつけてください。

1. 男女の平等と相互の理解や協力についての学習を充実する
2. 進路指導において、男女の別なく能力を生かせるよう配慮する
3. 教員の男女平等意識が高まるよう研修会を実施する
4. 管理職（校長や教頭）に女性を増やしていく
5. 出席簿の順帯など、男女を分ける習慣をなくす
6. 学級委員などの選出で、会長・委員長は男子、副会長・副委員長は女子といった性別役割分担意識をなくす
7. その他（具体的に： )
8. わからない



## 配偶者等からの暴力について

問16. これまで、あなたの配偶者や交際相手から、次のような行為を受けた経験がありますか。あてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 命の危険を感じるくらい暴力を受けた
2. 医師の治療が必要となる程度の暴力を受けた
3. いやがっているのに性的行為を強要された
4. 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せられた
5. 何を言っても無視され続けた
6. 交友関係や電話を細かく監視された
7. 「だれのおかげで生活できるんだ」「かいしようなし」などと言われた
8. 大声でどなられたり、暴言を吐かれたりした
9. 生活費をわたされぬなど、経済的におさえつけられた
10. 今までなかった

問16-1へ

7ページの問17へ

《問16で、1から9を選んだ方にお聞きします》

問16-1. これまでに配偶者や交際相手から受けた行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 家族に相談した
2. 友人・知人に相談した
3. 行政機関に相談した（愛知県女性相談センター、豊橋市男女共同参画センター、市役所、保健所、法務局など）
4. 警察に連絡・相談した
5. 弁護士に相談した
6. 医師に相談した
7. 民間のカウンセリングルームに相談した
8. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）
9. だれにも相談しなかった

7ページの問16-2へ

7ページの問17へ

《問16-1で、「9. だれにも相談しなかった」と答えた方にお聞きします》

問16-2. だれにも相談しなかったのは、なぜですか。その理由として、次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. どこ（だれ）に相談してよいか分からなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談してもむだだと思ったから
4. 相談をした相手の言動により、かえって不快な思いをと思ったから
5. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
6. 世間体が悪いから
7. 他人を巻き込みたくなかったから
8. そのことについて思い出したくなかったから
9. 自分にも悪いところがあると思ったから
10. 相談するほどのことでもないと思ったから
11. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）

《すべての方にお聞きします》

問17. 男女間における暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと感じますか。

次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 家庭で子どもに対し、小さいころから暴力はいけないことだと教える
2. 学校・大学内で暴力を防止するための教育を行う
3. 地域で暴力を防止するための研修会、イベントなどを行う
4. メディアを活用して、広報・啓発活動を積極的に行う
5. 被害者が早期に相談できるよう、身近な相談窓口を増やす
6. 警察や医療関係者などに対し、研修や啓発を行う
7. 暴力をふるったことのある者に対し、二度と繰り返さないための教育を行う
8. 加害者への罰則を強化する
9. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、コンピュータソフトなど）を規制する
10. その他（具体的に：\_\_\_\_\_）
11. わからない

問18. 豊橋市にDV相談窓口（電話相談・面談相談）があることを知っていましたか。

1. はい
2. いいえ

**DV（ドメスティック・バイオレンス）とは…**

配偶者など親密な関係にある相手から受ける暴力のことで、身体的な暴力だけでなく、暴言を吐く、生活費を渡さないなどの精神的・経済的な暴力もDVに含まれます。

**豊橋市DV相談窓口とは…**

豊橋市は、DVの被害者にとって身近で安心して相談できる窓口として、女性相談員による相談窓口を平成26年6月に開設しました。

電話相談	0532-33-9980 (前接相談の予約は電話相談の 実施時間と同時に受付)	月～土曜日 9:00～15:00 火曜日・木曜日 9:30～15:30	祝日・第3月曜日・ 年末年始を除く
面談相談 (予約制)			祝日・年末年始を除く

## 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」について

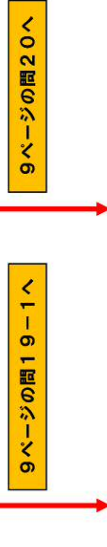
**豊橋市男女共同参画センター「パルモ」とは…**

ライフポートとよはし内にある男女共同参画推進のための施設で、さまざまなテーマの講座や女性のための相談事業を行っています。また、定員100名の研修室、図書室、調理実習室などを備え、女性だけでなく男性や企業の方にもご利用いただけます。



問19. 豊橋市男女共同参画センター「パルモ」を利用したことがありますか。

1. はい
2. いいえ



《問19で「1. はい」と答えた方にお聞きします》

問19-1. 今後、男女共同参画センターの事業として、どんなことを充実してほしいと思いますか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 女性のための講座	
2. 男性のための講座	
3. 家族と一緒に参加できる催し物・講座	
4. 事業の企画・運営などを市民とともに行う市民参画型の講座	
5. 特定のテーマを幅広く学ぶための短期講座（1～3回）	
6. 特定のテーマを専門的に学ぶための長期講座	
7. 情報の取集・発信、図書の内容	
8. その他（具体的に： )	
9. 特になし	

《すべての方にお聞きします》

問20. 男女共同参画センターではさまざまな講座を開催していますが、男女共同参画に関係のある項目のうち、参加してみたいと思う講座のテーマはどれですか。次の中からあてはまるものをいくつでも選んで○をつけてください。

1. 子育て・孫育て	2. 料理	3. 介護
4. 生き方・人生設計	5. 仕事や就職に役立つ技術	6. 婚活・結婚生活
7. コミュニケーション	8. 美容・健康づくり	9. DV・人権問題
10. その他（具体的に： )		
11. 参加してみたいテーマはない（興味がない )		

## 男女共同参画社会について

問21. 次の用語について知っていますか。A～Eのそれぞれの項目について、あてはまるものを1つずつ選んで○をつけてください。

項目	言葉も内容も知っていた	言葉だけは知っていた	知らなかった
A 男女共同参画社会基本法	→ 1	2	3
B 豊橋市男女共同参画推進条例	→ 1	2	3
C 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)	→ 1	2	3
D 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律(DV防止法)	→ 1	2	3
E テートDV	→ 1	2	3







豊橋市  
男女共同参画に関する市民意識調査  
報告書

平成 27 年 2 月

発行：豊橋市文化市民部市民協働推進課

〒440-8501

愛知県豊橋市今橋町 1 番地

TEL : 0532-51-2188 FAX : 0532-56-5128